

東亞旅行談

9800

2

026365-000-4

特70-34

東亞旅行談

戸水 寛人/著

M36

ADD-0015



特70

CC 34

東亞旅行談

序

私ハ明治三十五年九月カラ十一月マデ滿州蒙古北清朝鮮ヲ漫遊シマシテ此書籍ハ即チ其記事デス青年志士ニ向テハ之ヲ讀ンデ益ス心ヲ海外ニ用ヒラレンコトヲ希望シマス若シ之ヲ讀ンデ大鵬萬里ノ志ヲ立テラル、ナラバ是ハ望外ノ幸デス記事中往々議論ヲ挿ンデ置キマシタ翹々タル才子ノ目ヨリ見レバ固ヨリ處士ノ横議ト相去ルコト遠クアリマスマイガ毅然タル豪傑ノ目ヨリ見レバ悉ク實行シ得可キ意見ト思ヒマス此記事ニ於テハ外交當局者ノ妨害トナルコトハ悉ク之ヲ省イテ置キマシタ他日事止ムノ後ニ於テ之ヲ發表スルノ機會モアラウト思ヒマス記事ヲ終リテ之ヲ印刷ニ付スル前ニ色々ノ新事件ガ生ジマシタ例之曰井利八ノ件ニ關シ

露西亞ガ愈ヨ裁判ヲ與ヘ隨テ旅順ノ裁判權問題ガ八釜敷ナ
リマシタ若シ日本ノ政治家ガ私ノ議論ヲ用ヒズシテ兵力ヲ
用フルコトヲ止メテ唯言論ヲ以テ露西亞ト争フ積リナラバ
或ハ失敗ニ終ルデセウツカリスルト云フト日本ガ之ヲ仲
裁々判ニ付スルノ議ヲ提出シテ露西亞ガ之ニ同意シテ愈ヨ
之ヲ仲裁々判ニ付スルニ當リテ日本ノ敗北トナルノ奇觀ヲ
呈スルカモ知レヌ若シ又日本ノ政治家ガ兵力ヲ用フル積リ
ナラバ旅順ノ裁判權問題ノ如キハ誠ニ區々タル小問題デス
此記事ニハ目錄ヲ付シマセンデシタニ「ペーシ」以下ニ旅行日
程ヲ載セテアル是ガ目錄ノ代デス

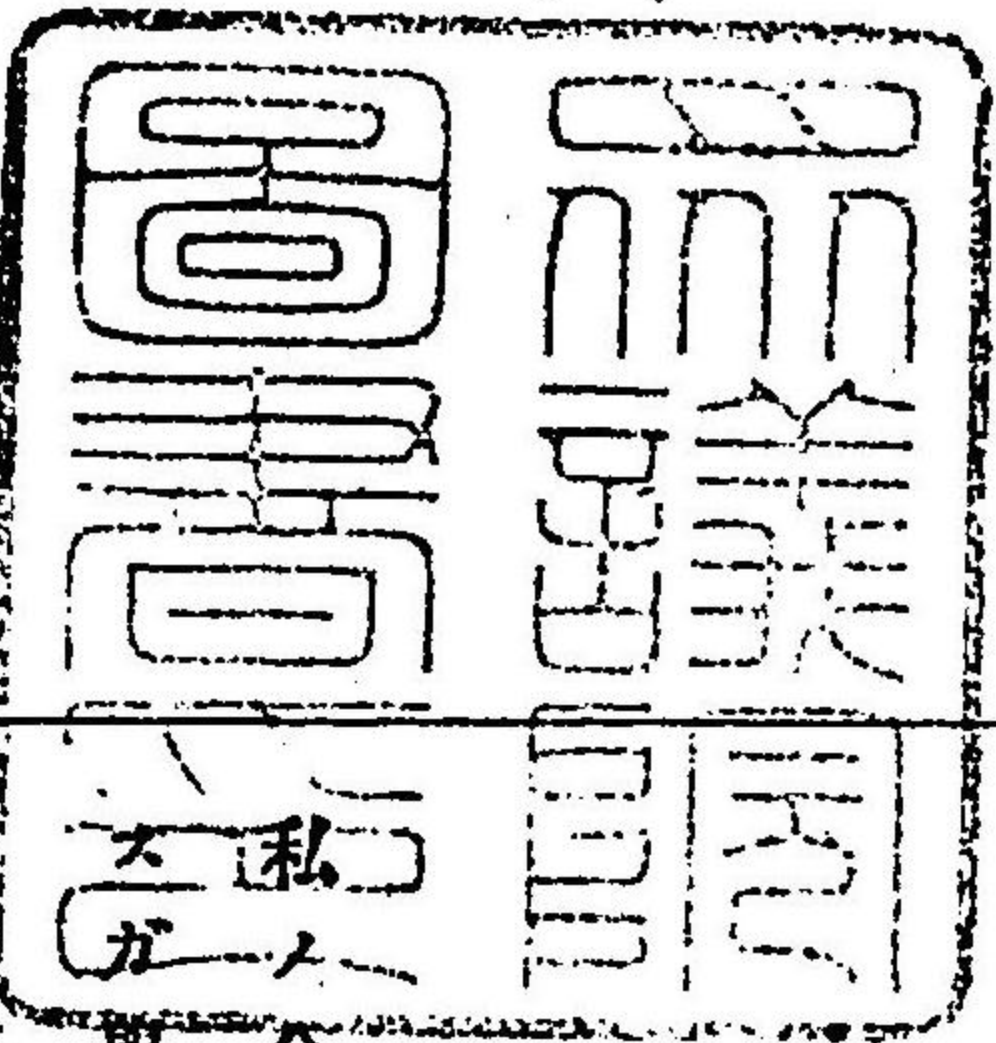
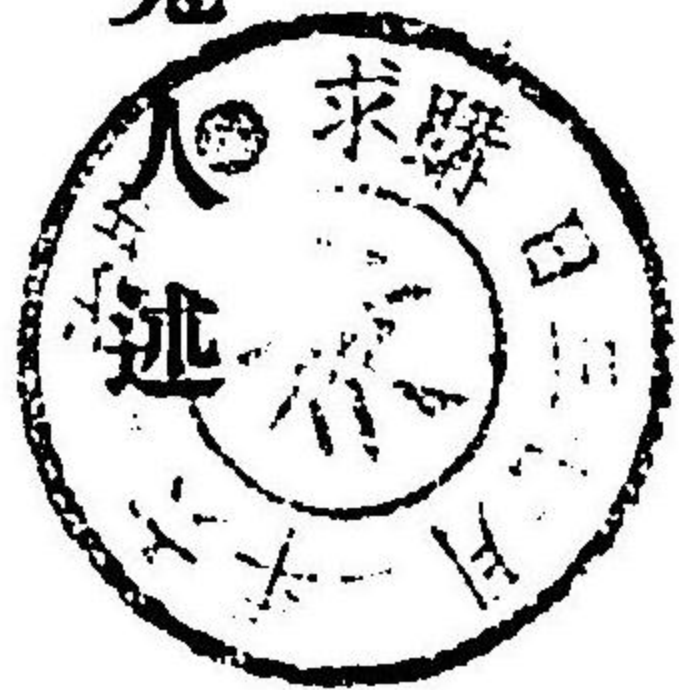
明治三十六年二月七日

戸水寛人

東亞旅行談

東京帝國大學法科大學教授
ハリス博士、ト、ア、ト、ロ、
法學士、法學博士

戸水寛



私ハ今回ノ旅行ノ目的ハ學術ノ材料蒐集ニ在ルト云フコトハ無論デアリマ
スガ學術ノ材料ヲ得タトテ研究ヲ重ムルト云フコトハ中々困難ノ事業デ之
ニ多少ノ歲月ヲ要シマス若シ思フ通ニ研究ヲ重ムルコトヲ得ルナラバ其
結果ハ他日之ヲ發表スルコトト致シマシテ唯今ハ學術以外ニモ涉リテ平常
見聞シタ所ヲザツト御話致シマセウ
私ハ本年八月二十九日午後六時ニ東京ヲ發シテ先ツ敦賀ニ行キ敦賀カラ三
十日午後出帆ノ交通丸ヲ浦潮斯德ニ直航致シマシテ十四日計滞在シタ是ガ
今回ノ旅行中デ一番長イ滞在デス浦潮斯德カラ滿州ノ「ハルビン」ニ行キ六日

計滞在ノ後旅順カラ船デ芝罘ニ行キ芝罘カラ船ニ乗リテ牛莊ニ着キマシタ
 牛莊カラハ瀋車ニ乗リテ山海關及ビ秦皇嶋ニ行キ其カラ又瀋車デ天津ニ行
 キ天津カラ北京ニ行キ十日計滞在ノ後張家口ニ行キ張家口カラ三日計蒙古
 ニ入りテ張家口ニ歸リ其カラ明ノ十三陵ヲ見淡山(?)ノ温泉ニ入りテ後北京
 ニ歸リ二日計滞在シテ天津ニ歸リ郵船會社ノ大連丸ニ乗リテ芝罘ニ寄航シ
 テ朝鮮ニ着シマシタ朝鮮デハ滞在ト稱スルホドノ滞在ハセナイデ唯少シク
 之ヲ見物シテ長崎ニ寄航シマシタ長崎カラ門司ニ行キ其カラ海路神戸ニ行
 キ神戸カラハ瀋車デ十一月二十一日ニ東京ニ着シマシタ即チ此處ニ旅行日
 程ガアリマス

旅行日程

明治三十五年八月二十九日

東京出發

同八月三十日

敦賀到着

同日

敦賀出發

同九月一日

浦潮斯德到着

同九月十五日

浦潮斯德出發

同日

〔グロデコフ〕到着

同日

〔グロデコフ〕出發

同九月十七日

〔ハルビン〕到着

同九月二十二日

〔ハルビン〕田發

同九月二十五日

旅順到着

同九月二十六日

旅順出發

同日

「マルニ」到着

同九月二十八日

「マルニ」出發

同日

旅順到着

同日

旅順出發

同九月二十九日

芝罘到着

同日

芝罘出發

同十月一日

牛莊到着

同十月三日

牛莊出發

同日

錦州到着

同日

錦州出發

同十月四日

山海關到着

同日

山海關出發

同日

秦皇嶋到着

同日

秦皇嶋出發

同日

山海關到着

同十月六日

山海關出發

同日

天津到着

同十月八日

天津出發

同日

北京到着

同十月十八日

北京出發

同十月二十二日

張家口到着

同十月二十三日

張家口出發

同日

「ハノルバ」到着

同十月二十四日

「ハノルバ」出發

同日

「トウタイ」到着

同日

「トウタイ」出發

同日

「チャーカーントラハイ」到着

同十月二十五日

「チャーカーントラハイ」出發

同日

張家口到着

同日

張家口出發

同十一月一日

北京到着

同十一月三日

北京出發

同日

天津到着

同十一月十一日

天津出發

同十一月十二日

芝罘到着

同十一月十三日

芝罘出發

同十一月十四日

仁川到着

同日

仁川出發

同日

京城到着

同十一月十五日

京城出發

同日
 仁川到着
 同日
 仁川出發
 同十一月十七日
 釜山到着
 同日
 釜山出發
 同十一月十八日
 長崎到着
 同日
 長崎出發
 同十一月十九日
 門司到着

同日
 門司出發
 同十一月二十日
 神戸到着
 同日
 神戸出發
 同十一月二十一日
 新橋到着
 カフ云フ順序デ旅行シタノデスガ先ツ浦潮斯徳デ見聞シタ所チザツト御話
 致シマセウ
 浦潮斯徳ハ至テ未開ノ土地デアリマスカラ雜貨商ガ餘程多イデス浦潮斯徳
 第一等ノ店ハアリベルス商會デスガ是モ雜貨商テ其店ニハ中々立派ナ物チ
 澤山并ベテアルアリベルスノ次ガチユーリンデ是モ中々立派デスアリベル
 ストチユーリンハ浦潮斯徳ノミナラズ處々ニ大キナ店チ持テ居リマス場所

ニヨリテハ「チユーリン」ノ方ガ「アルベルス」ヨリモ立派ナ店ヲ持テ居リマス滿州及ヒ西比利亞デハ獨逸人ガ盛ニ商業ニ從事シテ居リテ本尊ノ露西亞人ヲシテ後ニ瞳若タラシムルノ勢ガアルノデスガ右ノ「アリベルス」ハ獨逸人ダト云フコトデアリマス又滿州及ヒ西比利亞ニ居ル獨逸人中露西亞ニ歸化シタノモ澤山アル様ニ聞イテ居リマス

浦潮斯德ノ人口デスカ是ハ一向分リマセヌ千九百〇一年一月一日ノ調査ハ三萬七千五百九十七人ダト云フコトデスガ此調査ハ少モ當ニナリマセヌ本年解氷後浦潮斯德ニ來タ支那人ノ數デスタ四萬以上ト聞テ居リマス

日本人デスカ日本人ハ浦潮斯德ニ三千人餘居リマセウ此處ニ西比利亞在留日本臣民人口表ガアリマス

明治三十四年十二月三十一日現在西比利亞在留日本臣民人員表

地名	職業別		留學		其他		計
	男	女	男	女	男	女	
浦潮斯德	三	一	六	六	一六	一五	三三
ラズドリノエ	三	一	六	六	一六	一五	三三
計	六	二	一二	一二	三二	三十	六二

統計

職業別	留學		其他		計
	男	女	男	女	
ニコリスク、ウ	三	一	六	六	三三
スリスキ、ウ	三	一	六	六	三三
ノウキエフス	三	一	六	六	三三
ホシエツト	三	一	六	六	三三
イマ	三	一	六	六	三三
ハバロフスク	三	一	六	六	三三
ブラゴウエシ	三	一	六	六	三三
エンスク	三	一	六	六	三三
ニコライエフス	三	一	六	六	三三
ストレンチエンス	三	一	六	六	三三
クルチエンス	三	一	六	六	三三
子ルチエンス	三	一	六	六	三三
セ	三	一	六	六	三三
ナ	三	一	六	六	三三
イグナシノ	三	一	六	六	三三
カイダロフカ	三	一	六	六	三三
イルグーツク	三	一	六	六	三三
トムス	三	一	六	六	三三
ウエルフ子ツデ	三	一	六	六	三三
ンスク	三	一	六	六	三三
計	六	二	一二	一二	六二

此表ニヨレバ西比利亞滞在ノ日本人ノ數ガ四千三百三十六人ヲ其内浦潮斯

德ニ居ルモノハ二千八百九十八人デス併是ハ居留民ノ事務所ニ届出チシタルモノ、ミノ數デアリマセウ此外ニ何處カラ浦潮斯德ニ來タカ分ラヌモノガアル素ヨリ無學文盲ノ人多ゴサイマセウカラ別段届出チセナイデ住ンテ居ル元來旅行券ヲ持タヌモノハ露西亞領内ニ滞在出來ヌ管ダケレドモ露西亞ノ警察署ノ事務ハ不整頓ダト見エマシテ何處カラ來タ人カ分ラヌモノモ随分浦潮斯德ニ居ル様デス又日本ノ女ヲ支那人ノ妾トナリテ居ルモノモ澤山アル幾人アルカ確カナ事ハ知リマセヌガ三百人位ハ居ルダラウト思ヒマス斯フ云フ人ヲ悉ク數ヘマスレバ浦潮斯德ニ居ル日本人ノ總數ハ三千人餘アリマセウ

支那人ノ妾デスカ彼等ノ間ニ互ニ連絡ガ付テ居ルサウデス別段會ト云フ程ノモノヲ組織シテ居リマスマイガ彼等ノ重ナル人が頭トナリテ其處ヘハ是カラモ彼カラモ種々ノ事ヲ通知スル様ニナリテ居ルサウデス多分緩急相救フ様ニモナリテ居マセウ

日本ノ商人ノ内デ一等商ハ杉浦商店ト德永商店デ德永商店ノ主人德永茂太

郎氏ニハ未ダ逢ヒマセヌガ何デモ手腕ノアル人ダト聞イテ居マス二等商ハ澤山有リテ中ニハ敏腕家モ有リマス概シテ言ヘバ日本ノ商人ハ大抵雜貨商デス併資産ハ小サイモノデアリベルス「ナド、比較シテ見レバ顔色無シデス」浦潮斯德ノ在留民カラ日本ヘ送金シタ其金額表ヲ私ガ浦潮斯德ニ居マシク時ニ得マシク即チ是デス

浦潮在留民ヨリ本邦ヘノ送金額

三十三年度

一四十一萬八千六百五十六圓三十五錢

杉浦(重ニ商人カ商品仕入資金ヲ送付シタルモノノ勞動者雇人ノ分ハ僅ニ三万圓内外)

一貳十九萬四千四百六十五圓三十一錢

德永(各種職人勞動者及雇人及醜業婦)

一十三萬三千百八十一圓五十五錢

清水

一四萬四千五百三十圓五十錢 郵船會社

計八十八萬七千八百三十三圓七十五錢

外ニ 十萬圓内外

外國商ノ取扱ニ係ルモノ

送金者中商人ヲ除カバ其額男子ヨリ女子ニ多ク下婢(子守)支那人ノ外妾醜業婦此ノ部類ニ屬シ男子ニ在テハ洗濯業鍛冶屋石工裁縫職ペンキ塗業者トス爲換取組先杉浦

第一 長崎地方(貳十萬餘)

第二 各地(八萬餘)

第三 大阪地方(七萬餘)

第四 東京(五萬弱)

第五 神戸地方(貳萬弱)

浦潮斯徳ノ警察事務ハ至テ不整頓ト見エテ浦潮斯徳ニ強盜ガ澤山居ル私ガ滞在シタ頃ハ夏マカラ澤山出テ來マセヌガ冬ニナルト云フト澤山ノ強盜ガ出テ來ル日本ノ強盜ハ金ヲ出セト云ツテ人ヲ脅カシ若シ出サヌト云フト之ヲ殺スコトモアリマスケレド露西亞ノ強盜ハサウデ無イ初カラ人ヲ殺シテ

其カラ其人ノ持テ居タ金ナリ品物ナリヲ取ル誠ニ卑怯ナ遣方チスルノデス誠ニ殘忍ナ遣方チスルノデス卑怯ト殘忍ハ露西亞人ノ性質デアリマセウカ知ラヌ

却說強盜ガ人ヲ殺スニ付テハ種々ノ方ヲ用ヒル通常用ヒラル、機具ハ繩ニ釘ノ付テ居ルノデ人ト行違フ時此ノ繩ヲ其首ニ引掛ケテ直ニ之ヲ背負テ仕舞フサウデスサウスルト云フト繩ノ釘ガ首ノ周圍喉ノ處ニナク々々建ツノデスカラ大抵ノ人ハ背負ハレテ一町計行ク間ニ氣息ガ絶ヘルト云フコトデス又其外ニ喉ヲ絞メル器械モ有ル様ニ聞イテ居リマス又中ニハ斧ヲ用ヒテ人ノ頭ヲ割ル強盜モ居ルサウデス

浦潮斯徳デハ斯フ云フ強盜ガ跋扈スルノデスカラ冬ニナルト云フト極繁華ナ市街ハ別物トシテ大抵ノ市街ニ於テハ夜中通行人至テ少ク通行人モ可成他ノ通行人ヲ避ケテ歩行シ且ツ「ピストル」ヲ携フルモノガ多イト云フコトデス其デ夜中用事アリテ外出スルト云フト時々「ピストル」ノ音ヲ聞クサウデス又強盜ノ跋扈スルノヲ防ク爲メ大ナ商店ニハ必ズ犬ヲ蓄ヘテアル其ハ所謂

蒙古犬又ハ其血統ヲ引クモノデ頗ル猛犸テス左マデ吠ヘルコト無シニ直ニ人ニ飛付テ噬ムノデスカラ犬ノ傍ニ行クノハ甚タ危險デス浦潮斯德ノ貿易事務館デモ大ナ犬ヲ二匹蓄ヘテアリタ之ヲ蓄フノヲ見ルニ繩ヲ繫デアル且ツ聞クトコロニヨリマスルト可成暗イ處ニ繫テ置ク方ガ善イ而シテ之ヲ蓄フ人ガ時々食物ヲ與ヘルノミデ他人カラ食物ヲ貰ハセナイ而シテ夜ニ入りテカラ之ヲ放シテ置クト云フト其家ノ人以外ノモノニハ誰ニデモ噬ミ付ク此ニ於テ其犬ハ大ニ用ヲ爲スノデス斯ノ如キ蓄方ヲ用フレバ日本ノ犬デモ猛犸ニナルト云フコトヲ聞イテ居マス

浦潮斯德ハ水ノ拂抵ナ場所デ善イ井戸カ少シシカ無イ其井戸カラ水ヲ汲ンデ人ニ賣ルノデ井戸一ツ持テ居レバ大シタ財源ニナルト云フコトデス通常石油ノ空鐵ヲ用ヒテ水ヲ荷ツテ賣ルノデ一鐵ノ水ハ五錢計ニ當ルサウダガ百鐵ニ付テハ三圓計デ配達シテ呉ルサウデス私ハ露西亞人ガ水ヲ荷テ居ルノヲ見タコトハ無イ通常支那人ガ之ヲ荷テ配達シテ居リマス

浦潮斯德デハ支那ノ出稼人ガ頗ル多イ大抵ハ山東カラ來タノデス浦潮斯德

ハカリテ無イ滿州ノ支那人モ山東カラ來タモノガ餘程多イ

朝鮮人モ浦潮斯德ノ一隅ニ割據シテ居ル多分威鏡道カラ來タモノガ多御ヅイマセウ何テモ露領ニ近イ處ニ住テ居ル朝鮮人ハ露西亞ヲ大變蒙イ國ノ様ニ考テ居ル特ニ浦潮斯德ニ來タコトノアル朝鮮人ハ浦潮斯德ヲ世界第一ノ大都會ト考ヘテ居ルラシイ

浦潮斯德ノ朝鮮人ハ多ク朝鮮服ヲ着シテ居マスガ穢イ垢ノ付ク洋服ヲ着テ居ルモノモ澤山見受ケラレ又中ニハ立派ナ洋服ヲ着テ居ルモノモ有リマスガ朝鮮人ハ中折帽ヲ被リテ居リマシテモ中ヲ折ラズニ眞直ニ立テ、着テ居マスカラ何ダカ間ガ抜テ居ル特ニ隨ノ鬚ヲ剃ラズニ一二寸計モ展ハシテ居リマスカラ一見シテ朝鮮人タルコトガ分ル

露西亞人モ隨分下等ノモノガ澤山居ル馬車屋ノ下等ナコトハ無論デアルガ巡查ノ如キモ至テ下等デ今日巡查ヲ止メレバ明日カラ馬車屋ニナルモノモアル巡查モ馬車屋モ人間ノ等級カラ言ヘバ大抵同等ト見テ宜シイ其デ巡查ガ眠クナレバ街道デ睡ルコトヲ何トモ思ハス大ナ門ノ下デ睡テ居ルコトナ

ドハ通常ノ事デ珍シクナイデス
露西亞ノ上流社會ニモ餘リ威服出來ヌ彼等ガ賄賂ヲ好ムコトハ支那人ト餘
リ違ヒマセヌ上流社會スラ賄賂ヲ好ミマスカラ下流ノモノハ尙更サウデ税
關ノ役人デモ警察ノ官吏デモ賄賂ヲ少シク貰ヘバ大抵ノ小惡ハ見逃シテ吳
ルト云フコトデス日本人中ニハ恐露病者モ澤山有ル様ダガ露西亞内部ノ腐
敗ハ甚シイモノデス

浦潮斯德ノ海關稅ハ餘程重イノデスガ浦潮斯德ノ近傍例ヘバニコリスク「ナド
デハ陸路ヨリノ輸入品ニ對シテ稅ヲ課シマセヌ私ガ浦潮斯德ニ居ル時ニ此ノ
事ニ關シテ論文ヲ書キマシタガ歸朝ノ後ニ又之補ヒマシタ即チ此二篇デス
五十露里問題

余敦賀を出て、浦潮斯德に到着せしや所謂五十露里問題は到る處喧し露國
法令の解釋日露條約の解釋に付ては議論紛々として未だ決せざるものゝ如
し這般の問題は余か昔時より研究せし所にあらずと雖浦潮斯德に來りたる
の後聊か心神を勞して之か研究に従事したるに由り此に其結果を記して以

て我同胞の注意を促さんと欲す

千八百八十一年二月十二日(光緒七年正月二十六日)ペテルブルグに於て調印
せられたる露清條約陸路通商章程第一條に曰く兩國の境界に沿ひ雙方へ五
十露里(百清里)以内に於ては露國并に清國臣民に自由且つ無稅貿易を許す該
貿易の監督に付ては兩國政府が自己の國境に於ける規定を設くることある
べしと此に參考の爲め原條約文たる漢文と佛文とを擧げん
陸路通商章程

第一條

兩國邊界百里之内准中俄兩國人民任便貿易均不納稅其如何稽察貿易之處任
憑兩國各按本國邊界限制辦理

Règlement pour le commerce par voie de terre.

Article 1.

Un commerce de libre échange et en franchise de droits, entre sujets russes et chinois, est
autorisé sur une zone limitrophe s'étendant des deux côtés de la frontière à la distance de .

cinquante versés (cent li), Chacun des deux gouvernements se réserve de surveiller ce commerce conformément à ses réglemens frontières.

此の種の規定を設くるは千八百八十一年の條約に始まりたるにあらざ千八百六十二年二月二十日(同治元年二月四日)の露清條約陸路通商章程第一款に「兩國邊界貿易在百里内均不納稅其稽查章程任便兩國各按本國邊界限制辦理」とあり又千八百六十九年四月十五日(同治八年三月十六日)の露清條約陸路通商章程第一款にも「兩國邊界貿易在百里内均不納稅其稽查章程任便兩國各按本國邊界限制辦理」とあり

是に由て之を觀れば千八百八十一年の露清條約に規定するところは其以前の條約を襲踏したるものにして唯少しく其文句を改めたるのみ

一露里は我九町四十三間に該當するを以て我一里の四分の一計と見て可なり然らば之を一見すれば五十露里以内は左まで廣き面積の土地に非ざるが如しと雖ニコリスク、ウスリースキ、ブラゴスナエンスク及びハバロフカの如き較大の市は悉く露清國境五十露里以内に在りて浦潮斯德の一端すら尙

此内に在りと云ふ而して五十露里以外に在りて世人の能く知るところの土地はニコライフスツ及び浦潮斯德の二市に過ぎず

此五十露里以内の土地に於て露清兩國人民は自由に貿易を行ひ此に出入するの貨物は一切課税を免かれたり而して唯製茶に關しては税關の官吏中多少疑團を抱きしものあり従て我税關に於て製茶に對して税を課したることありしも税關の大多數に於ては製茶に對しても矢張税を課せざりしと見ゆ何故に製茶に關し多少疑團を生したりやと云ふに千九百年六月十日の勅令第三條に曰く陸路國境を経て黒龍江沿道總督管内へ輸入する清國生産品は製茶并に輸入を禁止したる穀物製酒類及火酒の外總て無税とすと夫れ斯の如く露國國境に輸入する清國生産品には原則としては税を課すること無きも製茶は則ち例外中に入るを以て前項五十露里以内の土地に輸入せらるゝ所の製茶に對しても亦税を課す可しと主張したるの官吏有りたり此に於て税關官吏は此の事に關して多少疑團を生じ従て税關の取扱方も一途に出でざりしが國産稅務主稅官よりブラゴエスチエンスク某に通牒したる所によ

れば大藏省は解釋を與へて曰く國境五十露里間清國產貨物は無税にて貿易の目的物たるを得但し製茶も此内に包含す外國產の貨物は課税せらるゝものとすと

大藏省の解釋は其當を得たり如何となれば千九百年六月十日の勅令第三條の規程は五十露里よりも更に一層露國の境内に輸入せらるゝ清國產に適用す可きものにして此の如き清國產に對して税を課せざるを以て原則と爲し製茶等に對しては例外として税を課す可きものと爲したるあり且夫れ千八百八十一年二月十二日の露清條約によれば國境より五十露里以内に於ては露清兩國人民は自由且つ無税にて貨物の貿易を行ふことを得可きが故に五十露里以内に在りては製茶に對して税を課するは條約違反と謂はざる可らず露國の官吏中右勅令と露清條約の關係を知らず去て濫りに五十露里以内に於て製茶に課税したるものありたるが爲め右大藏省の解釋も必要と爲りたりと知るべし

製茶に關する税率は近頃迄は一アトに付二十二留五十哥なりしが本年八

月に至り之を改めて二十五留五十哥と爲せり尙浦潮斯德貿易事務館より外務大臣に宛たる報告書を擧げんに即ち左の如し

今般勅令を以てステブノエ、イルツツ及黑龍江沿道總督管内並にセミレチエンスカヤ州へ輸入する製茶即ち紅茶、黑茶、花茶、綠茶、及黃茶は一布に付

二十五留五十哥の輸入税を課することと製定せられたるに付本年八月七

日(露曆)大藏大臣より當浦潮斯德稅關へ電報せり

右は從來關稅目第二十條但書第一項口款に規定したる二十二留五十哥の關稅に對し三留増額せられたるものに有之候

此段及報告候敬具

日本より浦潮斯德等に輸入する製茶は悉く此規定によりて支配せらるゝが故に磚茶に對しては何等の關稅を課せらるゝこと無きも是唯一の例外にして他の種類の茶に付ては必ず一アト即ち我四貫三百六十匁四分四厘に付二十五留五十哥即ち我二十六圓計の關稅を拂はざる可らず然るに右に述べたる如く露清國境に沿ふて五十露里以内の地に在りては製茶に對しても亦

税を課せざりしに由り支那製茶及び旅順方面に輸入せらるる日本製茶は東清鐵道及びウスリー鐵道によりて右五十露里以内の地に集まり更に人肩馬背等により浦潮斯德等に密輸入せらるるもの頗る多し
日本より浦潮斯德に直輸入せらるる製茶は一ポートに付き二十五留五十哥の重税を課せらるるに引替へ此に密輸入せらるるの製茶は總て此重税を逃るるに由り浦潮斯德の日本茶商等は之が爲に大打撃を蒙むるは必然の道理と謂ふ可きなり

此に述べるところは主として製茶に關すれども浦潮斯德港に於て課税せらるるの貨物は總て密輸入の貨物と對抗する能はざるが故に日本及び露國の商人は此の不正密輸入の爲めに損害を蒙むると甚なからず之よりして日本商人のみならず露國商人も大不平を鳴らし終に浦潮斯德の商法會議所より大藏省商務局に對して此の情況を報し以て適當の救治策を求めしが露國政府に於ても此事情の默過せしむ可らざるを認知し本年九月一日(露曆)即ち我曆の九月十四日より實施す可き帶封印紙貼付の規則を發布せり浦潮斯德貿易

事務館より外務大臣に宛たる本年八月二十日付報告書を見るに左の如し

本年六月十四日(露曆)大臣會議の上奏に依り清國陸上國境より後貝加爾州黑龍州及沿海州に於ける五十露里地域内に無税輸入する製茶に對し千九百二年九月一日より帶封印紙の貼付を要する件に關し勅裁ありたり
右に關し黑龍沿海州國產稅務所長は七月二十九日付第二三〇五號を以て五十露里地域内に於ける茶商に左の事項を告示せり
一本令に基き帶封印紙付帶茶販賣を爲さんと欲する茶商は稅務所へ其旨届出つへく且つ一年中に取扱ふ可き製茶の概數及包裝の容積を申告す可し

(一) フォント、其二分の一、其四分の一、其八分の一、其十六分の一、其三十二分の一、其四十八分の一、其九十六分の一(等)
二小賣販賣を爲さる茶商は本年九月一日迄に持残り製茶の數量を届出て右に對する帶封印紙貼付の爲め官吏の出張を請ふべし
三本令に基き製茶に帶封印紙貼付方を申請し本令施行期日即ち九月一日

迄に右貼付を豫め用意し置かんと欲するものは帯封印紙一葉に付四哥を徴収するの外何等の納金を要せず

四本年九月一日以降帯封印紙を貼付せざる製茶は總て沒收せらるべし

右八月四日發刊黑龍沿道官報第四四九號を以て布告相成候間此段及報告候敬具

此布告の解釋に付ては議論紛々として未だ決せざるか如しと雖余を以て之を見れば此の規則の目的は右密輸入の取締を爲すに在り即ち五十露里以内の地に在りて製茶に對しては單に取締に必要なる手数料を課して眞の關稅を課すること無きなり尙之を詳言すれば九月一日までに持殘の製茶包裝一箇に付必ず一葉の帶封印紙を貼付す可きこと、爲し其帶封印紙は一葉に付四哥なり而して今後五十露里以内に輸入せらるゝ製茶に付ては明白なる規定を知るに由無しと雖右布告の前後の文面を對照して之れを推論すれば今後五十露里以内に輸入せらるゝ製茶に付ても亦同様の取扱を爲す可きものにして即ち包裝一箇に付一葉の帶封印紙を貼付し其帶封印紙は一葉に付四

哥なり此四哥の稅金は稅務所に納むるところにして稅關に納むるところのものに非ず而して其性質を論すれば單に密輸入の物品に非ざることを證するの具たるに過ぎず之を換言すれば密輸入防止の手数料にして眞の關稅に非ず故に五十露里以内に在りては既に四哥の帶封印紙を貼付せられたる製茶にして更に一層深く露國領内に輸入せらるゝ場合には本年八月の規則に従ひ一プートに付二十五留五十哥の關稅を拂はざる可らず

人或は曰く九月一日までに持殘の製茶に付ては帶封印紙一葉に付四哥の稅金を拂へば可なるも其以後に五十露里以内に輸入せらるゝ製茶に付ては矢張一プートに付二十五留五十哥の關稅を拂はざる可からずと然れども此の解釋誤れり五十露里以内に於ては露清條約よれば貿易品に對して關稅を課す可らず若し之を課するにせば是明に條約違反にして露國の爲し可き所に非ず故に關稅に付て之を論ずれば五十露里以内に在りては製茶も亦無稅品たること疑を容れず

人或は曰く五十露里以内に在りて一旦製茶に四哥の帶封印紙を貼付したる

以上は此の製茶は一層深く露國領内に輸入せらるゝも一アトに付二十五留五十哥の税を免かる可しと然ども此の説非なり千九百年六月十日の勅令第三條には陸路國境を経て黒龍江沿道總督管内へ輸入する清國生産品は製茶並に輸入を禁止したる穀物製酒類及火酒の外總て無税とすとありて原則より言はゞ清國生産品は無税にて露國領内に輸入することを得るも製茶は此原則の支配を受けずして是亦税を課せらるゝ可きものなり故に製茶は五十露里以内に在る間は露清條約の趣旨に従ひ眞の關稅を課せらるゝことなきも更に一層深く露國領内に入るときは矢張一アトに付二十五留五十哥の關稅を課せらる可きものなり

以上既に千八百八十一年の露清條約千九百年六月十日の勅令第三條課稅に關する大藏省の説明製茶に關する關稅額の變更千九百二年九月一日(露曆)より實施す可き帶封印紙貼付の件等を述べたり尙進んで日本臣民が最惠國條款によりて利益を主張することを得可きや否やを述べん

人或は曰く五十露里以内に在りて露清兩國民は自由且つ無税にて貿易に従

事することを得るが故に日本臣民も亦此五十露里以内の地に於ては最惠國條款に基き露清兩國民同様に自由且つ無税にて貿易に従事することを得可し即ち日本臣民は五十露里以内に製茶を輸入するも關稅として一アトに付二十五留五十哥を拂ふを要せず唯包裝一箇に付一葉四哥の帶封印紙を貼付すれば可なりと余を以て之を見れば此の説非なり明治二十八年六月八日ペテルブルクに於て調印せられたる日露別約第一條に曰く瑞典諾威國及露西亞國の亞細亞境界に近接する所の諸邦と露西亞との通商上の關係は國境貿易に係る特別の規定にして一般の外國通商に適用すべき規則とは毫も關係を有せざる規定なるに因り兩締盟國は千八百三十八年四月二十六日五月八日露西亞國と瑞典諾威國との間に締結したる條約中に包含せらるゝ所の特別なる條款及前記諸邦との通商に關する條款は如何なる場合に於ても本條約を以て兩締盟國の間に約定したる通商航海の關係を變更するが爲めに之を引用すること能はざることを兩締盟國に於て約定すと此の如き條約を締結せしは我日本の不利にして露國の利益なり若しも條約改正の當時に於て

之を結ぶことを避け得たらんには其は善きこと無かりしに事情之を許る
 さりしか又は他の原因によりて我外交當局者と露國の外交當局者との間
 に此の如き條約を締結したる以上は此別約を排除するに至るまでは我日本
 は之によりて檢束せらる可きは論を待たず而して露清兩國民は自由且つ無
 税にて貿易を行ふことを得可しとの條約は則ち日露別約の所謂國境貿易に
 係る特別の規定なるに由り日本臣民が最惠國條款に基いて五十露里以内に
 於ける利益に均霑せんと欲するは恐くは日露別約の趣旨に反す
 人或は曰く千九百年六月十日の勅令は單純の勅令にして條約に非ず故に我
 日本臣民は此の勅令に付ては日露別約の究屈なる檢束を受くるを要せざる
 に由り右の勅令第三條に基いて陸路國境を経て黒龍江沿道總督管内へ輸入
 する清國生産品が原則として何等の關税を課せられざる以上は日本臣民は
 最惠國條款に基いて此の利益に均霑することを得可しと果して此説をして
 是ならしめば日本の製茶及び酒類は縱令税を課せらるゝにもせよ他の物品
 は清國生産同様に税を課せらるゝこと無かる可きか故に日本の外交當局者

は試みに利益均霑説を主張するも亦必ずしも得策にあらざとも言ひ難し然
 れども余をして假りに露國外交當局者たらしめば余は右の論に答へて曰は
 ん此勅令第三條に規定する所は國境貿易に係る特別の規定なるが故に一般
 の外國通商に適用すべき規則とは毫も關係を有せず故に日本臣民は最惠國
 條款によりて利益の均霑を主張す可らず換言すれば矢張り露別約の趣旨を
 何處までも貫徹せしむべきものとす加之若し勅令第三條が單に勅令たるの
 故を以て日本が利益均霑説を主張するならば露國は支那と條約を締結して
 勅令第三條の趣旨を其條約中に挿入せしむることは左まで困難の業に非ず
 と

若し露國が此種類の言辭を述べて日本の要求を拒むとすれば我日本は果し
 て言論の上に於て勝を制し得可きや否や疑はし
 尙本論を終らんとするに當り露國の政策に付て一言せん浦潮斯德方面に住
 する人は疑を懷抱して曰く浦潮斯德港に輸入せらるゝ物品は製茶の外に重
 税を課せらるゝもの頗る多し然るに千九百年六月十日の勅令第三條によれ

ば陸路國境を経て黒龍江沿道總督管内へ輸入する清國生産品は原則として税を課せられざるのみならず千八百八十一年二月十二日の露清條約によれば兩國の境界に沿ひ雙方へ五十露里以内に於ては露清兩國臣民は自由且つ無税にて貿易に従事することを得而して此條約の實施期限は十箇年にして十箇年の経過せんとするに當り締盟國の孰よりも改正の申込を爲さざるべきは此の條約は更に十箇年間實施せらる可きものなるにも拘はらず千八百九十一年には露國より改正を求めず千九百一年に至りても尙改正を求めず故に今日の有様にては此條約は千九百十一年までは實施せらる可きものなり夫れ斯の如く露國は浦潮斯徳の方面に於ては日本製品等に對して甚しき重税を課し滿州方面に於ては大抵の物品に對して何等の關税を課すること無し而して密輸入防止の方法完全ならざる爲め種々の物品は滿州方面より續々浦潮斯徳に密輸入せらるゝが故に浦潮斯徳港より物品を輸入せんと欲するもの及び浦潮斯徳の商人は之か爲めに大損害を蒙り結局浦潮斯徳は商業地として繁榮を見ること難かる可し露國は折角浦潮斯徳を貿易港とし

て開きながら何故に浦潮斯徳の繁榮を計らざるやと

余の見るどころを以てすれば露國の政策は其れ或は旅順ダルニーの繁榮と滿州の席卷を計るに在らんか露清兩國の疆界に沿ひ五十露里以内に於て露清兩國民が自由且つ無税にて貿易に従事することを得るのみならず清國生産物が更に一層深く露國領内に入るも何等關税を課せらるゝこと無しとすれば旅順ダルニー邊よりは是等地方に輸送せらるゝ物品は年々多きを加ふ可きこと論を待たず而して是等物品は東清鐵道によりて輸送せらるゝもの多かる可きか故に鐵道維持の點より之を言はゞ經濟上甚た便利を得ることなる可く隨て滿州の席卷を容易ならしむることば喋々の辯を待たずして明なり露國の政治家は東清鐵道を架設せしに當りて或は想像を逞くして以爲く西比利亞鐵道によりて歐洲に行かんと欲するものは大抵は旅順ダルニー邊に上陸して東清鐵道に乗るならんと然るに事實は之に反して旅客は多くは浦潮斯徳に上陸しウスリー鐵道と東清鐵道の北滿州線を通過して西比利亞鐵道に乗るなり此點に付ては露國政治家の當初の想像は當らざりしかども

貨物は旅客と同じからず旅順マルニ遊より東清鐵道により滿州に輸入せらるゝもの年々多きを加ふるは人の知る所なり而して今日に在りては露國政治家は滿州の席卷と旅順マルニの隆盛を計るに汲々として經濟の許す限は此の二事を遂げんと欲するか如し偶マルニの工事を中止し東清鐵道會社の船舶の航路を減縮することあるも是唯露國財政上の困難の證據たるに過ずして政治家の希望は旅順マルニの隆盛と滿州の席卷を計るに在り而して浦潮斯徳の繁榮の如きは露國政治家の重視せざるところなれば千九百年六月十日の勅令は今尙之を行ひ千八百八十一年の露清條約は今尙之を改めず加之浦潮斯徳港へ輸入する物品の關稅は之を甚だしく増加することあるも決して之を減ずること無く且又浦潮斯徳より滿州に入らんとするの日本人に對しては時として甚しき侮辱を加へ或は乗車に妨害を加へ甚しきに至りては之を監禁して平然たり若し露國政治家にして浦潮斯徳の繁榮を計るに熱心ならしめば必ず勅令を改め條約を改正し關稅の不都合なる點を改め東清鐵道乗客の便利を計らん而して事此に出でざるは彼等皆他に野心

あるに由る此野心を撲滅すること難し然れども其計畫を破砕すること左まで難からず此任務は日本少壯の政治家に在り

(明治三十五年九月九日浦潮斯徳に於て之を記す)

浦潮斯徳に於ける日本物産の排斥

右五十露里問題は本年九月余が浦潮斯徳に於て草したるものにして當時自ら以爲く議論公平一點間然す可き所無しと然るに日本に歸りて後之を讀めば忽ちにして其議論の公平無私に過ぐるの感を抱く

露國人は無法にも支那物産の浦港に入るものに對し何等税を課すること無きにも拘らず日本物産に對して重税を課すること以前に異ならず是露國藏相が西比利亞及び滿州を巡視したるの結果にして余が滿州を去りて北清に在りたるの時に生したる事實なり藏相をして言を爲さしむれば彼必ず曰はん支那と露國は陸路相隣するの國にして此兩國間の通商上の關係は日露別約第一條の所謂國境貿易に係る特別の規定なるが故に一般の外國通商に適用すべき規則と毫も關係を有せず是を以て浦港に輸入する支那物産に對し

て何等の税を課すること無きも日本人民は利益の均霑を主張す可きものに非ずと然れども是明かに日露別約に對する無法の解釋にして日本人民の黙々に付す可きことに非ず露國と支那と陸上貿易に關して特別の條約を締結することあるも日本人民は日露別約第一條の趣旨に従ふて利益の均霑を主張することを得ざるものとすも海路より浦港に輸入する物産に關して露國が特別の規定を設くるときは日本人民は利益均霑を主張するの權利あること論を待たず

此の如き規易き道理は露國政府と雖焉之を解せざるの理あんや彼充分之を解す然れども能く日本人民の關志無きを看破す故に此の如き無法の舉動を爲して怪まず日本人民の意氣地無きと露國の無法無遠慮は是蓋し天下の好一對なり

(明治三十五年十二月九日之を記す)

浦潮斯德ニ居ル時ニ税關所在地ノ表ヲ得マシテ參考ノ爲メニ御覽下サイ
西比利亞東部ニ於ケル税關所在地

- 一 浦潮斯德税關
- 二 「ニコラーエフス」税關
- 三 「マンチシユリヤ」停車場 露曆千九百二年三月十四日税關
- 四 「ブラゴウエシヤ」同二月廿七日税關
- 五 「バグラニナヤ」同出張所
- 六 松花江口「ラハス」同出張所
- 七 「ボシエツト」同四月三十日出張所
- 八 「フンチユンスキー」カラウール同見張所
- 九 「ポルタフカ」同見張所
- 十 「アラトノアレクサンドロフスカヤ」同見張所
- 十一 「イマン」同見張所
- 十二 「ノウオキエフス」同見張所
- 十三 「スラウヤンガ」同
- 十四 「バラバシ」同

十五「ニコリスク、ウスリースキ」同
 十六
 十七「ストレナエンスク」税関(スレテンスク)
 又課税前浦潮斯徳ノ商況ハ如何アリマシタカハ能ク知リマセヌガ課税後ニ
 ハ兎ニ角非常ニ不景氣ニナリタト云フコトデス其課税ガ日本品ニ及ボスト
 コロノ影響ニ付テ表ヲ得マシタ即チ是デス

明治三十四年浦港へ輸入セシ日本品中課税ノ影響ヲ被ラサルモノ(三十
 三年度對照)

品目	三十四年	三十三年	増減
蔬菜及果實	一七二、五二九 ^圓 一 ^錢	九六、二一六 ^圓 四 ^錢	增
製茶	八〇、七三七 ^圓 五 ^錢 六	五一、五八六 ^圓 五 ^錢 一	同
セメント	五四、〇九二 ^圓 五	八、〇三八 ^圓 七 ^錢 五	同
石炭	二五五、二〇九 ^圓 二 ^錢 四	八、八六二 ^圓 五〇	同
食鹽	七、〇五九 ^圓 八〇	六、一三九 ^圓 〇二	同
玻璃製品	一一六、一七〇 ^圓 七 ^錢 四	三二、八二八 ^圓 八 ^錢 二	同
			減
			七六、三一六 ^圓 七 ^錢 七
			二九、一五一 ^圓 〇五
			四六、〇七〇 ^圓 四〇
			二四六、三四六 ^圓 七 ^錢 四
			九、二〇七 ^圓 八
			八三、三四一 ^圓 九 ^錢 二

品目	三十四年	三十三年	増減
家具類	一四、二九五 ^圓 二 ^錢 四	六、〇四六 ^圓 〇〇	同
日本酒	一四、七九二 ^圓 四 ^錢 四	六、九三一 ^圓 〇二	同
漆器	一〇、〇九五 ^圓 四 ^錢 三	一九、五六九 ^圓 一 ^錢 二	減
洗濯曹達	一七、七八八 ^圓 六〇		
			八、二四九 ^圓 二 ^錢 四
			七、八六一 ^圓 四 ^錢 二
			九、四七三 ^圓 六 ^錢 九

明治三十四度浦港へ輸入セシ日本品中課税ノ影響ヲ被ムリタルモノ(三十
 三年度對照)

品目	三十四年	三十三年	増減
白米	一五〇、七五〇 ^圓 九 ^錢 二	三三九、五三一 ^圓 三 ^錢 三	減
麥粉	七六四 ^圓 八 ^錢 九	二二、二八八 ^圓 一 ^錢 一	同
麵粉	四四二 ^圓 二 ^錢 七	一一、〇四〇 ^圓 七 ^錢 三	同
油	一、八〇五 ^圓 三 ^錢 〇	二九、四四〇 ^圓 二 ^錢 五	同
醬油	四六、四四九 ^圓 三 ^錢 一	一八二、〇〇四 ^圓 九 ^錢 八	同
綿布及綿織物	六、一〇八 ^圓 一 ^錢 三	四二、六七七 ^圓 五 ^錢 八	同
絹布及絹織物	九、三五二 ^圓 九 ^錢 四	一七九、九八二 ^圓 二 ^錢 五	同
諸衣服類	六、九二五 ^圓 三 ^錢 三	五、〇三二 ^圓 二 ^錢 五	增
象牙及象牙製品			
			一八八、七八〇 ^圓 四 ^錢 一
			二二、五二三 ^圓 三 ^錢 三
			一〇、五九九 ^圓 四 ^錢 六
			二七、六三四 ^圓 九 ^錢 五
			一三五、五五五 ^圓 六 ^錢 七
			三六、五六九 ^圓 四 ^錢 五
			一七〇、六二九 ^圓 二 ^錢 二
			一、八九三 ^圓 一 ^錢 八

	熟皮及皮革製品	陶磁器	金屬製品	紙類	靴類	洋傘類	石油類	諸油類	棉花類	府綿類	計
	三、八八五・一三	九、三八九・七〇	四、四二二・六二七	一、五〇三・二一〇	二、五〇〇	一、二六六・九七	四〇七・三〇	四、五〇四・四三三	二一、二六一・〇〇		
	一、四七〇・二五五	二、一三七・六二	四〇、六七八・九七	三三、九四一・五四	四、八九三・五〇	一、〇八四・五〇	八、七五五・〇九	一一、五〇九・二八			
	減	同	增	減	同	同	同	同			
	一〇、八一七・四二	一一、七四七・九二	三、五三七・三〇	一七、九〇九・四四	四、八九三	七、四八八・二二	一一、一〇一・九八				

四二

是ハ海路ヨリ浦潮斯德ニ輸入セラル、清國ノ生産ニ對シテモ稅ヲ課シタル當時課稅ガ日本品ニ及ボシタル影響ヲ示ストコロノ表デアリマスガ前ニ申シマシタ論文ニ記載シタ通ウキツテ氏ガ滿州及ヒ西比利亞ヲ巡回シタ結果トシテ清國生産ニ對シテハ課稅セザルコト、ナリマシタニ付テ其ガ日本品ニ及ボストコロノ影響ハ大シクモノデ其事柄ハ今日尙繼續シテ居マス併清

國生産ニ對スル免稅ノ一條ハ私ガ西比利亞及ヒ滿州ヲ去リタ後ニ生シタ事實デス

又千九百一一年浦港輸入貨物ハ國別スレバ此通デス

獨乙	日本	清國	米國	佛國	英國	瑞典	其他	計	露國	總計
三、二八七・九二四 ^{布度}	二、九四四・六五二	一、八五九・六三〇	七九八・五六三	一〇三七・四〇八	九五三・六四一	三五八・〇三四	八〇〇・五〇一	一一、〇八九・七五三	一〇、三二七・九五六	二二、四一七・七〇九

四三

右輸入税月別ハ此通デス

一月	二九、二六一、七九
二月	三〇、九八三、一五
三月	二五、二六八、三三
四月	二四、八一六、二四
五月	一〇七、七六八、〇八
六月	七八、一八〇、〇四
七月	七六、三二四、四八
八月	一二三、〇四六、五三
九月	一〇一、三七九、五二
十月	一五二、七六六、六二
十一月	七二、〇五六、一三
十二月	一二八、九四八、九五
計	九五〇、七九九、八六

浦潮斯德等ニ輸入セラ、物品中課税ニ關シテ特ニ重キヲ置カル、モノハ茶ト火酒デアリマス千九百年六月十日ノ勅令第三條ヲ見マシテモ陸路國境ヲ經テ黑龍江沿道總督管内ニ輸入スル清國生産品ハ製茶並ニ輸入ヲ禁シタル穀物製酒類及火酒ノ外總テ無税トスト書イテアリマス又今回海路ヨリ浦潮斯德及ビニコライフスクニ輸入セラル、清國生産品ニ對シテ課税セザルコト、ナリマシタケレドモ茶及ビ火酒ハ例外デ之ニ對シテハ矢張税ヲ課スルノデス火酒ハ重ニ露西亞人ガ「オーツカ」ト稱スル所ノモノデ其色ハ丸デ水ト同シ様デ極メテ透明デス是ガ如何ニモ強イ酒デ大抵ノ大酒家デモ之ヲ飲メハ歩行スルコトガ出来無クナルホド醉フ露西亞ノ兵卒ヲ初トシテ大抵ノ露西亞人ハ甚シク之ヲ好ンテ居マスカラ火酒ニ付テハ課税ニ關シテ斯ノ如ク特別ノ規定ガ有ルノデセウ又露西亞デ出来タル規則書ノ類ヲ見マスト紅茶、黑茶、花茶、綠茶及ヒ黃茶ナドト澤山ノ種類ガ有ル様ニ書イテアル私ガ浦潮斯德ニ居ル時其道ノ人ニ聞イタラ斯フ言ツテ居マシタ花茶ト云フハ茉莉花、樹蘭、黃枝花ノ花ト茶トチ雜セテ以テ茶ニ花ノ香ヲ付タモノデ下等ノ茶デス黃枝花ハ

日本ノ山茶花^{センシヤ}ニ似タモノデ他ノ二ツハ日本ニ無イ是等ノ花茶ハ多ク^シシンガ
 ボール^{ボール}西貢邊^{シヤン}ヲ製スルノデス又黄色茶ハ綠茶ノ一種デ黑茶ハ紅茶ノ一種デ
 ス故ニ茶ヲ大別スレバ綠茶ト紅茶トノ二種ダト云フコトデス迂濶^{ユウク}ヲ話ダケ
 レドモ私ハ浦潮斯德ニ居ル時磚茶ヲ始メテ見マシタ丁度日本ノ家根ノ瓦ノ
 様ナ形ヲシテ居マス磚茶ニ對シテハ目今稅ヲ課シテ有リマセスガ違カラズ
 稅ヲ課セラル、ダラウト云フ評判ガ有リマス若シ「アイト」ニ付三留即チ三
 圓強ノ課稅ト假定シマスト云フト日本カラ浦潮斯德ニ輸入セラル、磚茶ノ
 稅ハ年々二十萬留計ダト聞キマシタ果シテソナニ澤山ノ金高ニナリマセ
 ウカ知ラス露西亞人ノ下等社會ニハ磚茶ノ需要頗ル多イケレド支那人ハ左
 マデ磚茶ヲ嗜マスサウデス
 浦潮斯德ニ出入スル日本船舶ノ重ナルモノハ石川縣人大家七平氏ノ所有汽
 船交通丸凱旋丸及ヒ郵船會社ノ汽船デス交通丸ハ敦賀ヨリ凱旋丸ハ七尾ヨ
 リ浦潮斯德ニ直航致シマス是等ノ港カラ二晝夜デ浦潮斯德ニ行クコトカ出
 來マスカラ之ニヨリテ渡航ズレバ至極便利デス郵船會社ノ船ハ神戸ヲ起點

トシテ馬關長崎ニ寄港シ釜山元山ヲ經テ浦潮斯德ニ着スルノデス何テモ郵
 船會社ノ船舶ハ船體モ堅牢デ船室モ美麗ダト聞イテ居マス
 露西亞ノ汽船ハ東清鐵道會社ノ所有ト義勇艦隊ト有リマス露西亞ノ船ハ縱
 令新シクトモ船室ナドハ餘程不潔デセウ私ハサウ云フ評判ヲ聞イテ居マス
 又船中ノ設備ハ至テ不整頓ダト云フ評判デ外國人ハ露西亞ノ船ニ荷物ヲ託
 スルコトヲ否ガリテ居マス原因ハ能ク知リマセスガ東清鐵道會社ニ折角汽
 船部ヲ設ケタケレトモ一向振ヒマセス昨年及ヒ一昨年ノ損失合計二百五十
 萬留デ其内昨年ノミノ損失高ガ七十九萬六千留デス東清鐵道會社所有船ノ
 航路中旅順カラ長崎ヲ經テ浦潮斯德ニ至ル所謂直航及ヒ上海カラ長崎ヲ經
 テ浦潮斯德ニ至ルノ直航以上二線ハ私ガ浦潮斯德ニ行キマシタ少シク前ニ
 廢止スルコトニナリマシテ其結果トシテ「モンゴリヤ」及ヒ「マンチユリヤ」ノ一
 等船ハ亞米利加航路ニ廻ハサル、ダロウト云フコトヲ聞キマシタ今是等ノ
 船ハ何處ニ在リマスカ知ラヌ又義勇艦隊中「ベテルブルグ」モスクワ^{モスクワ}「キエフ」ノ
 三船ハ「オデッサ」ニ繫カルダラウト云フコトヲ聞キマシタガ是等モ今如何ナ

リテ居ルカ知ラス何デモ露西亞人ハ亞米利加航路ニ力ヲ注シ目算ダト云フ
コトデスサウスルト其起點ハ「ダ」同航路ノ船舶ハ神戶「サン」フランシ
スコ「」ニ行クダラウト思ハレマス如何ニ同航路ヲ始メマシテモ客人ハ迎モ
乘リマスマイ

浦潮斯德ノ官吏ノ姓名デスカ此ニ私ガ浦潮斯德ニ滞在シタ當時ノ西比利亞
ノ官吏ノ姓名表ガアリマス又行政區畫ノ表モアリマス御覽下サイ

黑龍江沿道總督管内並ニ關東洲總督管内文武高等官人名表

總督

關東州總督太平洋艦隊司令長官

順旅
艦隊司令長官
ゲネラル、アドムエタント海軍中將 エウゲーニイ、イワーノウイチ、アレクシエーフ

副官

陸軍中將 ウラヂーミル、セルヂーウイチ、ウオルコフ

黑龍江沿道總督

陸軍步兵大將 ニコライ、イワーノウイチ、グロデコフ

副官

陸軍步兵大將 アルカーデイ、セメノウイチ、ベネフスキ

軍務知事

薩哈連軍務知事

陸軍少將 ミハイル、ニコラーエウイチ、リヤゾーコフ

浦潮 沿海州、

陸軍中將 ニコライ、ミハイロウイチ、チチヤゴフ

黑龍州、

陸軍中將 コンスタンチン、ニコラーエウイチ、
グリップスキ

後貝加爾州、

陸軍中將 イワン、パウロウイチ、ナダーロフ

市長

チタ(後貝加爾) ワシリーイ、ワシリーエウイチ、フルイノフスキ

トロイツコサフスキ(同) ワシリーイ、アレクセーウイチ、ソベンニコフ

ウエルフネウナンスシ(同) アレクサンドル、ワシリーエウイチ、アフシヤンキン

ブラゴウエンチエンスク(黑龍州) アレクサンドル、ワシリーエウイチ、キリールコフ

ハムロフスキ(沿海州) イ、エヌ、ホーミン

浦潮(同) イリニツキイ

黑龍江沿道軍管參謀長陸軍少將 ホルシチエウニコフ

沿海州副知事 パーウエル、オメリヤーノウイチ、パウレンコ

東洋學院々長 ア、エム、バズニエーフ

露清銀行浦沙支店長

浦潮市立病院長

要塞司令官

參謀長

義勇艦隊支店長

港務局長

東清鐵道汽船部長

軍港司令官

ア、ア、マスレンニコフ

ベ、エス、テンチンスキー

ウオローネツ

ア、エス、グローネフ

ウエ、ア、テレンチエフ

エ、ギ、エケルマン

海軍中佐 デ、エム、コナエートフ

海軍少將 ガウプト

○關東州行政區劃

一 菟子窩區

五郡

十六村團

六三九村

二 金州區

六郡

一九村團

三四五村

三 大連灣區

四 旅順口區

四郡

一一村團

二二三村

五 嶗部區

三郡

一〇村團

二一二村

同

四村團

一四村

○薩哈連島行政區劃

一 アレンクサンドロフスキー州

二 ツイモフスキー州

三 コルサーコフスキー州

ニ分ツ

○沿海州行政區劃

一 南ウスリースカヤ(ニコリスク、ウスリースキー)

二 ウスリースカヤ、カザーチヤ(浦潮及ルイボロフ)

三 ハヴロフスカヤ(ハヴロフスク市)

四 ウツスカヤ(ニコラエフスク市)

- 五 アホットスカヤ(アホットスク市)
- 七 ペトロパウロフスカヤ(ペトロパウロフスク)
- 八 アナツイルスカヤ(マルコフ)
- 九 コマンドルスキー島(ペーリング島ニコリスコエ)

○黒龍州行政區劃

一 農區

四部 八郡

- 二 三鏡山警察區(第一、ウエルフ子、アムールスキー、第二、ブレインスキー、第三、ヒンガンスキー)

三 黒龍哥薩克軍區

○後貝加爾州行政區劃

- 一 チティンスキー(チタ)
- 二 トロイツコサフスキー
- 三 セレンギンスキー

四 ハルグジンスキー
 五 アイシンスキー
 六 チルチンスキー
 七 ウエルフチウヤンス、キー
 八 チルチンスコ、ザウ、ドスキー

浦潮斯徳ノ滞在ハ可ナリ長クナリマシク滿州ニ入りマスト云フト一寸領事館ナド有リマセスカラ書類ニ付テ滿州ノ事情ナドヲ研究スル譯ニ行キマセヌ其デ浦潮斯徳ニ於テ書類ヲ見テ時ヲ費ヤシタノデス御話致セバマダ澤山色々ノ事ガ有リマスケレドモ大抵此位ニシテ置キマセウ

サテ浦潮斯徳ヲ出發スルニ付キマシテ烏蘇里鐵道及ヒ東清鐵道ノ(ステーション)ノ名ト流車ノ發着ノ時間ヲ友人ニ尋チマシタラ此表ヲ貰フコトガ出來マシク是ハ露西亞語デ書イテ有リマスガ譯スレバ斯フデス

浦潮斯徳

着 停 發

朝八、一〇

ペールツヤ、レーチカ	八二八	八	八三六
セダンカ	八五九	三	九〇二
ヒルコーゾオ	九一四	五	九一九
トウリーツアキ、ウヨルス	九三八	二	九四〇
ナデヲディンスカヤ	一〇〇四	一〇	一〇一四
キパリソフ	一〇五一	七	一〇五八
ラズトリノエ	一一二二	一〇	一一三二
ハラノフスキー	一二〇二	二	一二〇四
八九ウヨルス	一二二二	三	一二二五
ニコリスク	一二五一	三〇	一二三一
ガレンキイ	二、三三	五	二三八
ハルバトウオ	三、四四	五	三四九
グロデコウオ	四、五一	若	發

五四

グロデコウオ	八〇〇	三〇	夕六〇〇
パグラニータナヤ	九三〇	一〇	八三〇
セリーンへ	一〇三五	三〇	一一〇五
タイチンリン	一一五〇	八	一一五八
マナヨーへ	一五八	四	二〇二
ムーレン	三、二〇	三〇	三五〇
じりしへ	四、三四	一	四三五
タイマゴ	五、二六	四	五三〇
ヒタシ	七、一〇	五	七一五
ムダツヤヤン	八、三五	二〇	八五五
ハイリン	一〇、〇五	五	一〇、一〇
シヤンシ	一一、五五	一〇	一二、〇五
ハンタヘーザ	二〇、五	四〇	二四五

五五

キヤオリンザ
 トウダヘーザ
 シタヘーザ
 ウエイヌーヘ
 イーメンボ
 ウジミ
 イウキ
 マオシヤン
 シヤオソン
 アルナシヤーンザ
 アヂエヘ
 ナエン
 ハルビン
 スンガリ(松花)

	四、一五	四	四、一九
キヤオリンザ	五、二九	一	五、三〇
トウダヘーザ	六、五〇	一五	七、〇五
シタヘーザ	八、三五	一五	八、四〇
ウエイヌーヘ	九、五〇	三五	一〇、二五
イーメンボ	一一、三五	一一	一一、四六
ウジミ	一二、一〇	一〇	一二、二〇
イウキ	一、一五	二〇	一、三五
マオシヤン	二、三五	五	二、四〇
シヤオソン	三、二〇	二〇	三、四〇
アルナシヤーンザ	四、三〇	一六	四、四六
アヂエヘ	五、一八	一	五、一九
ナエン	六、〇二	一〇	六、一二
ハルビン	朝六三七		

五六

此表ノ中デ線ヲ以テ園ンデアル時間ハ總テ夜ニ屬スルノデス最終ノステーションデス
 「ハルビン」カラ旅順マデノ汽車發着表ハ唯今見失ツテ見エマセヌガステーションノ名ハ此處ニアリマス自分ガ實際發着シタ時間ハ重ナモノハ分ツテ居

マス
 スンガリ(松花)
 ウヂヤ(五家)
 シアンチエンブウ(雙城堡)
 ツアイチヤーゴウ(蔡家溝)
 シトウチエンヅシ(石頭城子)
 ダラシヤチ(桃頼照)
 イチーマン(密門)
 ヅハイ(下海)

五七

メイシヤツイー(木沙子)
 シワンチエンツイー(寬城子)
 フワンツシヤツン(范家屯)
 シンツォーレン(孔道林)
 ゴツシヤヤン(瓜車甸)
 シンピンガイ(四平街)
 シユアンミヤチツシイ(雙廟子)
 チヤンツォー(鳥圖府)
 カイユアン(開原)
 テーリン(鐵嶺)
 シンタイツォー(新台子)
 ツザイロープウ(才落堡)
 ムクヂン(奉天)
 スウヤツン(肅耶屯)

ヤンタイ(烟臺)
 リヤチヤン(遼陽)
 アンシヤンチヤン(鞍山)
 ハイチエン(海城)
 ダシツヤチ(大石橋)
 ガイチシチ(蓋州)
 シユンヨチエン(熊岳城)
 ワンツシヤリン(萬家嶺)
 ワフアンゴウ(花紅溝)
 ワフアンツシヤン(瓦房店)
 プラチヤン(浦蘭甸)
 サンシリプウ(三十里堡)
 キンチシヨウ(金州)
 ナングアンリン(南關嶺)

インナエンツイ(營城子)

旅順口

斯フ云フ表ヲ携ヘテ九月十五日午前八時十分發ノ汽車デ浦潮斯德カラハル
ピンニ向テ出發シマシタ同行者ハ松永峯治氏デゴザイマス
當初ノ目算デハ途中ニコリスクデ下車シテ其市街ヲ見ル積リデアリマシク
ガ態々下車スルノハ面倒特ニ荷物ハ澤山有リテ下車スルノハ益ス面倒ト思
フテ下車シマセンデシタ併ニコリスクノ模様ハ豫テ友人カラ聞イテ居マシ
タニコリスクノ日本人ハ人口表ニヨレバ四百三十人デ是等ノ日本人ガ相談シ
マシテ其内カラ消防隊ヲ組織シテ居ル此消防隊組織ハ有名ノ事實デ他處ニ
居住スル日本人モ大ニ賞揚シテ居マスニコリスクノ日本人中デハ田川ト云
フ寫眞師ガ多少勢力アル筈デスニコリスクニハカサツクノ兵村モ有リマス
ガ其外ニ澤山ノ兵卒ヲ入ル可キ兵營ヲ建築シテ居リ其兵營ハ假ノモノデハ
無イ煉化デ堅固ニ造リツ、有リタ筈デ之ヲ建築スルニ付テ日本ノ職工モ大
分澤山使役セラテ居リタ様ニ聞テ居マス兵卒ノ數ハ能ク知リマセヌガ私ガ

通行シタ際ニハ現ニ二萬ノ兵卒ハニコリスクニ居リタウト思ヒマス其上
ニ新兵營ヲ建築スレバ同處ニハ少クモ四萬位ノ兵ハ居ナケレハナラス又
同シク烏蘇里鐵道ノ線路ニ當テスパススカヤト云フ處ガ有リマスハパロフ
スクニ行クニハ是非此ノステーションヲ通ル筈ダガ私ハハルピンニ行キマ
シタカラスパススカヤヲ通リマセンデシタ此スパススカヤノ位置ヲ言ヒマ
ストハソカ湖ノ附近デ浦潮斯德カラハ二百三十露里ダト云フコトデス此處
ニモ兵營ヲ新築スル計畫デ日本人モ使役セラレテ居ルサウダガ支那ノ勞働
者デ使役セラル、モノ、數ハ五千人ト聞イテ居マス何デモ私が通行シタ頃
ヨリ二三年ノ中ニ完成スル筈テ三萬位ノ兵ハ其處ニ氣樂ニ駐屯スルコトガ
出來ルデセウ又建築ノ費用ハ四百萬留餘ダト云フコトデス何ノ爲メニニコ
リスク及ヒスパススカヤニ斯ノ如ク兵營ヲ新築シテ居リタカト云ヒマスニ
滿州ヨリ撤兵スルニ當テ差當リ其兵卒ヲ入ル可キ處ガ無イカラ先ヅニコリ
スク附近ヲ以テ軍隊ノ中心トスル積デ一舉兩得ノ策ヲ考ヘテ斯ノ如ク兵營
ヲ新築シテ滿州ヨリ來ルトコロノ兵卒ヲ入ル、積ダサウデスニコリスク附

近ニハ二三ノ丘陵ガ有ル等ダガ概シテ平地デ大兵ヲ擁スルニ極便利ノ場所ト見エル是ガ軍隊ノ中心トナルハ尤モノ道理デ汽車ノ時間表ヲ御覽ノ通ニコリスク附近カラ通常ノ旅行者ガ通行シテモ「グロデコフ」マデ三時間半デ到着スルコトガ出來「グロデコフ」カラ西比利亞滿州ノ境界ト露西亞人ガ稱スル夫ノ「バグラ」ニ「チナヤ」マデ二時間半デ到着スルコトガ出來マスカラ「ニコリスク」カラ「バグラ」ニ「チナヤ」マデ僅々六時間デ到着スルコトガ出來ル譯デ滿州カラ撤兵シテ其兵卒ノ著シキ部分ヲ「ニコリスク」附近ニ配置シタナラハ一朝事有ルトキハ僅々ノ時間デ其兵卒ヲ滿州ニ入ル、コトガ出來ルデス要スルニ「ニコリスク」附近ハ大兵ヲ擁スルニ便利ナ場所デ且ツ一朝事有ル時ニ滿州ニ兵ヲ送ルノ根據地トスルニモ便利ナ場所デスカラ軍隊ノ中心トスルニ至極適當ノ場所ト考ヘラレマス加之「ニコリスク」ハ「浦潮斯德」カラハ僅々百二露里ヲ距リテ格別遠シハ無イノミナラズ至極便利ナ場所デスカラ沿海州軍務知事ノ本據ヲモ「ニコリスク」ニ移ス可シト云フ評判ガ有ル是ニ由テ觀マサルト「浦潮斯德」ニ於ケル州廳ハ論ヲ俟タス陸海軍ニ關係無キ行政官廳其他民

間ノ施設ニカ、ル造營物モ漸次「ニコリスク」ニ移轉スルニ至ルダラウト思ハレマスサウナレバ「浦潮斯德」ハ固ヨリ商港トシテ振フ可キ場所デアリマスマイカラ單ニ軍港トシテ大切ナル場所トナリテ居ルノミデ「浦潮斯德」ノ繁榮ノ一部分ハ確カニ「ニコリスク」ニ移ルニ相違無イ「ニコリスク」ハ「斯」ノ如ク陸軍ノ中心トモナリ行政ノ中心トモナルトスレバ今後益々盛大トナルダラウト思フ若シ他日日本ノ軍隊ガ西比利亞ニ上陸スルコトガ有ルトスレハ無論「ニコリスク」附近デ大戦争ヲスルノデ露西亞ノ軍隊ガ滅茶々々ニ敗レルノモ此邊デセウ露西亞ノ將校ト兵士ノ骨ト肉ガ積デ山ヲ爲スノモ此邊デセウ翻テ考ヘテ見マスト日本ノ政治家ハ先年露清密約ヲ破リテ滿州ノ撤兵ヲ行ハシムルコト、シタノデ揚々得々タルノデアリマスガ滿州ノ撤兵ヲ行ハシムレバ其兵ノ一部分ハ確カニ露西亞ノ本國ニ歸リマスケレド滿州ニ居リテ澤山ノ金ヲ費ヤスヨリモ一層歸リテ方ガ都合ガ宜シイ又一部分ハ鐵道ヲ守備スルカ爲メニ滿州ニ止マリテ居ル又一部分ハ「ニコリスク」及ヒ其他滿州ニ出兵スルニ便利ナル場所ニ駐屯スルトシマスルト名ハ滿州撤兵ト稱シテモ

其實ハ滿州ニ止マリテ居ルト餘リ違ハ無イ其テ滿州ノ撤兵ヲ行ハシメタト云テ日本ノ政治家ガ悦ンデ居ルトシマスレバ是ハ誠ニ兒戲ニ類スル次第デ
 ス
 サテ私ハ「ニコリス」ヲ通過シ之ヲ睥睨シテ「グロデコフ」ニ着テ時計ヲ見マス
 ト云フト早既ニ五時過キテ汽車ハ發着表ヨリモ三十四分延着シタノデス
 浦潮斯德カラ「グロデコフ」マデノ烏蘇里道ノ汽車ハ誠ニ美麗デ設備充分ニ整
 頓シテ居マス私ハ斯ノ如キ立派ナ汽車ニ乗タノハ此ノ時始メテ有リマシタ
 一等客車ハ小サキ室ニ別テアリテ一室ニハ四人入ルコトガ出來ル室内ノ模
 樣ハ汽船ノ「キャビン」ト同様デ腰掛ガ寢臺ヲ兼テ居リマス通常ハ下ノ腰掛兼
 寢臺ヲ用ヒマスガ人多クナレバ臨時ニ其上ニ又寢臺ヲ設クルコトガ出來
 マス下ノ腰掛兼寢臺ハ二ツ相對シテ居マシテ其上ニ二ツ設クルコトガ出來
 マスカラ都合四ツニナリマス一人ガ一ツヲ占領スルカラ四人一室ヲ占ムル
 様ニナリテ居マス併私ガ乗車シテ居タ日ニハ汽車ハ左マデ込ンテ居マセン
 デシタカラ私ト松永氏ト二人デ一室ヲ占領シテ居マシタ此等ノ室ノ外ニ廊

下ガ有リテ露西亞ノ汽車ハ中々贅澤ナモノデス畢竟是ハ軌道ガ廣イカラデ
 アリマス日本ノ汽車ハ狹軌デ歐羅巴ノハ廣軌ダガ露西亞ノハ尋常ノ廣軌ヨ
 リモ更ニ一層廣イ何デモ露西亞人ノ爲ストコハ規模が大デスコナ廣イ汽
 車ハ日本ノ地勢ニ適セヌカモ知リマセヌガ外ノ事ニ付テモ規模ノ大ト云フ
 點ニ付テハ露西亞人ガ豪イ日本人ハ些少眞似チシテモ善イデス
 浦潮斯德カラ「ハルビン」ニ行クニ「グロデコフ」デ汽車ノ乗替チシナケレハナ
 ラヌ即チ東清鐵道ノ汽車ニ乗替ヘルノデス「グロデコフ」ニ着イタノモ遅イカ
 ラ「グロデコフ」ヲ發シタノモ遅イ其時間ハ手帳ニ書留テアリマセヌガ兎ニ角
 定刻ヨリモ少シ遅カリタ汽車ニ乗替ヘタノハ浦潮斯德ヲ發シタト同日即チ
 十五日テ其夕刻デ有リタガ其翌十六日ノ朝「モクシー」ト云フ「ステーション」ト
 「ムダツヤヤン」ト云フ「ステーション」ノ間デ英人ガ一名突然私共ノ傍ニ來テ「貴
 君ハ英語ヲ話シマスカ」ト尋ネマシタカラ私ハ餘リ上手デハ無イガ少シハ話
 シマス」ト言ツテ答ヘマシタサウストル彼ハ「ドクトル、モリソン」ト云フ名刺ヲ
 私ニ呉マシタカラ私モ亦自己ノ名刺ヲ「ドクトル、モリソン」ニ與ヘマシタ「ドク

トル、モリソンハ誰モ知リテ居ル。ロンドン、タイムズ新聞ノ通信員デ旅順ダ
 ニ邊ニ居レバ旅順ダニ邊デ勢力有リ北京ニ居レバ北京デ勢力有リテ
 其勢力ハ時トシテハ英國公使ヲモ凌クコトガ有ル様ニ聞イテ居マシテ私ハ
 始メテ其人ニ逢ヒマシタガ其名ハ以前ヨリ知リテ居マシタ。ドクトル、モリソ
 ンノ同行者ハ北京ニ在ル和蘭公使館ノ書記官ウーデンザーク氏デアリテ是
 ハ英語露語等六ヶ國ノ語ニ精通スルト云フコトダガ尋常一般ノ通辯デハ無
 イ能ク道理ヲ解スル人物ノ様ニ見受ケラレタ。ドクトル、モリソン「ウーデン
 ザーク氏モ二人共質素ナ風采ヲシテ居マシタ私ヨリモ更ニ一層質素ナ風采
 ナシテ居マシタ成程之デ無ケレバ蠻地ノ旅行ハ出来無イ私ハ一見シテ彼等
 ハ旅行ニ慣レテ居ルコトヲ覺リマシタ。ドクトル、モリソン等ノ居リタ客室ニ
 ハ露西亞人が澤山居マシタ私ノ居リタ客室ハ其朝幸ニ人が澤山居マセン
 デシタカラ私ノ室デ東亞ノ狀勢其他種々ノ事ヲ話シマシタ。ドクトル、モリソ
 ンハ頻リニ露西亞ノ鐵道列車ハ不潔ダト言ツテ非難シテ居リマシタ其モ其
 等東清鐵道ノ汽車ハ烏蘇里鐵道ノ汽車ト違ツテ餘程不潔デアリタ特ニ手ヲ

洗フ處ノ不潔ヲ加減ハ言語道斷デ有リタノデ。ドクトル、モリソン「ミナラズ
 私モ閉口シテ居リマシタ併不潔トハ言フモノ、東清鐵道ノ汽車ニ乗ルコト
 ガ出来タ丈幸デス是迄ハ東清鐵道ノ汽車ニハ尋常ノ旅客ヲ乗セナカリタモ
 ノデ之ニ乗ルニハ露西亞人カラノ特別ノ許ガ要リタサウデスガ私が旅行シ
 タ其歲カラ外國人ノ乗車ヲ一般ニ許可スルコトニシタ此事ハ本年五月十日
 ノ通商彙纂ニモ書イテアルノデ此ニ其寫ガアリマス

明治三十五年五月十日

通商彙纂第二百十四號 九十六ページ

◎外國人ノ東清鐵道乗車許可

(三十五年二月二十八日附在浦潮斯德帝國貿易事務館報告)

東清鐵道ニ依リ外國人ノ滿州旅行ハ客年來差止メ中ナリシガ當國政府ハ愈
 同鐵道ニ依リ外國人ノ通行ヲ許可スルコトニ決シ右ニ關スル規則ハ既ニ皇
 帝陛下ノ勅許ヲ經タル由ニテ黑龍沿道軍管司令官(黑龍沿道總督)陸軍大將
 ロデコフ氏ハ露曆本年一月十七日付ヲ以テ吉林(出張先)ニ於テ右規則ニ關ス

ル布達ヲ發令シタリ而シテ該布達ハ露曆二月十日發免ノ黑龍沿道總督府官報ヲ以テ公布セラレタルカ其全文ヲ譯載スレバ左ノ如シ
達令

黑龍沿道軍管

本年一月十一日付大藏大臣ノ上奏ニ基キ皇帝陛下ハ東清鐵道ニ依リ外國臣民ノ通行ヲ許可スルノ件ニ關スル左記ノ規則ヲ實施セシムルコトヲ勅許セラレタリ

露曆千九百二年一月十七日吉林ニ於テ

軍管司令官陸軍大將グロデコフ

第一條 總テノ外國臣民ハ一般ニ東清鐵道ニ依リ故障無ク通行ヲ許可ス但シ露國ノ行政官若ハ司法官ニ於テ故障ヲ有セズ若ハ當該領事ヨリ拘留ニ關スル請求ナキ場合ニ限ル
第二條 外國臣民ニシテ拘留セラレタルモノアル時ハ拘留ノ命令ヲ發シタル官衙ノ所在地ニ急速ニ護送シ若シ前記官衙ガ拘留ノ場處ト遠隔ナル場

合ニハ之ヲ最近ノ都府ニ護送スルモノトス

第三條 外國臣民ニシテ東清鐵道ノ境界内ニ於テ犯罪ノ告發ヲ受ケタルモノハ之ヲ拘留シ地方裁判所ノ檢事ニ送付ス可シ檢事ハ告發セラレタル犯罪ノ有無ヲ審査シ當該外國領事ニ轉交スル爲メ之ヲ露國領事若ハ滿州駐在ノ外務省官吏ニ送致スルモノトス而シテ罪跡不充分ノ場合ニハ拘留ヲ免スルノ處置ヲ執ル可シ

如何ナル譯カ知リマセヌガ烏蘇里鐵道ニハ一等客車カ有リマシテ私モ其ニ乘リテ浦潮斯德カラ「グロデコフ」マデ來マシタケレド「グロデコフ」デ東清鐵道ニ乗替ヘル時ニ二等切符シカ賣リテ吳マセンデシタ通常其チ一等ト言ツテ居ル人モ有ル様ダガ實ハ其ハ二等デス聞ケハ「ペテルブルグ」ノ大政府カラ特別ノ命令ガ有レバ一等客車ニ乗セルサウダカサモ無ケナレバ通常ノ旅客ニハ二等以下ノ客車ニ乗ルコトヲ許ルスノミダト云フコトデス「ドクトル」モリ「ソ」モ「ウーデンヤー」氏モ皆私同様二等客車ニ乘リテ居マシタ
私カ此兩氏ト話シテ居タ時其内一人ガ斯フ言ヒマシタ「東清鐵道ガ斯フ出來

上リテ滿州ハ露西亞ノ領土同様ニナリタガ日本人ハ黙リテ之ヲ見逃ス積カ
 ト其處ヲ私ハ斯フ答ヘタ私ハ黙リテ見逃ス積ハ無イ他ノ日本人モ私ト同様
 ダラウト其時又斯フ問ハレタ日本人ガ露清密約ヲ破リタガ何故彼ノ時露西
 亞ニ向テ戦争ヲセナカリタノダラウト此ノ問ハ私ニ取リテ餘程痛カリタデ
 ス私ハ殆ント答ヘル術ヲ知ラ無カリタノデ覺ヘズ斯フ答ヘタ私ハ貴君ト同
 說デス併不幸ニシテ當時ノ日本政府ハ我々ト意見ヲ異ニシテ居タ當時ノ政
 府ノ官吏ヲシテ辯解セシメタナラハ何カ辯解スルダラウト其時私ノ心ニ思
 ツテ居マシタ日本ノ官吏ヲシテ辯解セシメテモ私ノ満足スル様ナ辯解
 ナセナイダラウト併外國人ノ前デ日本政府ノ惡口ヲ言ツテモ面白ク無イカ
 ラ先ヅ右ノ様ナ答ヲ爲シマシテ其時ハマダ夏デ唯サへ少シハ暑カリタノデ
 スガ此間ヲ尋ネラレタ時尙更暑イ心地ヲシマシタ而シテ露清密約ヲ破リタ
 當時ニ戦争ヲセナカリタノヲ思出シテ胸ノ中ガ焼ル様ニ憤慨ニ堪ヘナカリ
 タデス

「ドクトル、モリソン」ト「ウーデンヤーク」氏ト「ムダツヤヤン」ノ次ノ「ステーション」

「ノ」ハ「イリン」デ下車シテ其ヨリ二十五露里計距リテ居ル「ニングター」ニ行ク
 答テアリタガ目的ヲ達シマセンデシタ「ニングター」ニ行クニハ支那人ノ馬車
 ナ備フ答ダノニ支那人ハ一向働イテ呉レヌ何故ダト聞イタラ支那人ノ益ノ
 祭デ其時ハ支那人ハ働カナイト云フコトデス北京デハ斯フ云フ事ハ無イサ
 ウデスガ滿州ニ居ル支那人ハ斯フ云フ時ニ働カヌト見エル其處デ「ドクトル、
 モリソン」ト「ウーデンヤーク」氏ハ又々流車ニ乘リマシタ其後ハ「ハンタヘーザ」
 邊デハ此ノ兩氏ハ尙ホ流車ニ居リタノデスガ何處カノ「ステーション」デ下車
 シマシタ余ハ其處ヲ一時記憶シテ居マシタガ今之ヲ思出シマセヌ
 私カ浦潮斯德ヲ出發シタノガ九月十五日デアリマシタガ十七日ノ朝八時半
 頃「ハルビン」ニ達シマシタ流車ノ時間表ニハ「某ステーション」何分停車ト記シ
 テアリマシテモ實際ノ停車時間ハ概シテ表中ニ記シテアルヨリ長カリタデ
 ス其ハ何故カ能クハ知リマセヌガ多分流車ノ燃料タル薪ヲ積ムニ時ガカハ
 リタソタラウト思ヒマス烏蘇里鐵道ノ流車デハ随分石炭ヲ用ヒテ居ル様ニ
 聞イテ居マス「ヒルコフ」ノ「ステーション」ヨリ餘リ遠ク無イ處デ石炭ガ出ルサ

ウデス又ボスセツト灣ノ近傍カラ石炭ガ出ルト云フコトデス又烏蘇里鐵道ノナデツソノスカヤノステーションノカラ分岐シテ亞米利加灣マデ鐵道ヲ布クト云フコトヲ聞イテ居マスガ是ハ亞米利加灣附近カラ石炭カ出ルカラダト云フコトデス斯ノ如ク處々カラ石炭ガ出マスカラ縱令其石炭ノ質ガ惡イニセヨ隨分流車ヲ使用スルニ堪ヘマセウカラ烏蘇里鐵道デハ流車ニ石炭ヲモ用ヒテ居ルヲシイ併東清鐵道デハ流車ヲ滿州ニ入リマスト云フト處々ノステーションニハ薪ヲ澤山積ンデアル此ノ薪ヲ流車ニ積込ムニハ隨分時カ要ル加之流車ノ進行ハ至テ遲イ其ノナ譯デカハルビンニ達ス可キ時刻ハ時間表ニ朝六時三十七分ト書イテアリマシテモ實際ハ此時間ヨリ大凡二時間計後レテハルビンニ着シマシタ私ガハルビント申シマスノハ所謂ハルビンステーションニ無事ニ着キマシタ特更ニ無事ト言ツタノニハ少シ意味ガアル是ヨリ先キニ浦潮斯德カラハルビンニ行ツタモノハ往々露國官吏ノ爲メニ「グロデコフ」バクヲニ「ナナヤ」又ハ「ハンタヘーザ」デ通行ヲ差止メラレタ衆議

院書記官神山氏等ガ「グロデコフ」ニ於テ二三日間通行ヲ差止メラレタノミナラズ「ステーション」ニ於テ殆ンド監禁同様ノ待遇ヲ受ケタト云フ評判ヲ聞キマシタカラ能ク々々聞イテ見レハ先ツ斯フ云フコトダサウデス同氏等ハ本年五月十八日浦潮斯德ヲ出發シ同日午後四時過ニ「グロデコフ」ニ到着シタ其處デ一行ノ中ノ留學生鮫島氏ガ第一着ニ下車シテ浦潮斯德ノ商人「ブリーネル」氏是ハ和蘭ノ名譽貿易事務官ダサウデス其ブリーネル氏カラ「グロデコフ」驛長宛ノ紹介狀ヲ驛長ニ示シタサウスルト驛長ハ紹介狀ヲ一讀シマシテ左モ惡ク々々シク剛慢ナ顔ヲシテ同氏等ヲ一瞥シテ「フイン」滿州通行ニハ東清鐵道技師長ノ證明書ガ要ル「ズ」ナ紹介狀ガ有リタトテ益ニ立タヌ委細ハ憲兵カラ聞イテ吳玉「ト」言ツタ本年ノ始カラ外國人が東清鐵道ノ流車ニ乘リテ旅行スルニハ證明書モ許可書モ何モ要ラ無クナリタ即チ外國人ノ乗車ヲ一般的ニ許可スルコトニナリテ此ノ事ハ既ニ總督カラ達令ニナリテ居ル筈デス然ルニ驛長ガ此ノ如キコトヲ言ツタノハ多分此男ハ不學文盲ノ徒デ規則ナドヲ知ラナカリタノデセウ驛長ガ鐵道ノ規則ヲ知ラナイト言ツタナ

ラ日本デハ可笑シク聞ユルケレトモ露西亞ノ役人ノ不學文盲ハ甚クシイモ
 ノデ巡查ナドハ自分ノ姓名スラ書キ得ルカ何ウダカ疑ハシイ驛長ハ巡查ヨ
 リモ些少ハ字ヲ讀ムダラウガ規則ノ様ナ六ケ敷モノハ知リテ居サウモ無イ
 彼等ハ酒バカリ飲ンテ威張リテ居ルノミデスソノ連中デスカラ滿州通行
 ニハ東清鐵道技師長ノ證明書ガ要ルナドト言ツテ濟マシテ居ルノデセウ驛
 長ハ道理モ辨セズニソノ無茶苦茶ナ事ヲ言ツテ立去リテサウスルト憲兵
 二名一行ノ傍ニ進テ來テ總督ノ命令ニ據テ東清鐵道技師長ノ證明書ヲ持ッ
 ナイモノハ通行ヲ許ルサヌノデス貴君等滿州ニ御出ニナルナラ速ク「パグ
 ニーナチヤ」ニ行ツテ其處デ證明書ヲ受ケテ御出ナサイ其迄ハ當ステーショ
 ンデ宿泊ヲ願ヒマス是マデ當ステーションデ通行ヲ差止メラレタ日本人モ
 アリマスガ皆逃ケテ仕舞マシタ貴君等ハ官吏ダサウダカマサカ逃亡セラル
 ルコトモ有ルマイケレドモ自分等ノ職責ニ關スルコトデスカラ「グロデコフ」
 ノステーションカラ外ニ行カル、コトハ御免蒙ル始終此處ニ御座ル様ニ致
 度ト憲兵ハ斯フ云フ譯ノ分ラヌ説明ヲシテ神山氏ノ一行ノ外出ヲ禁シタ自

由ヲ束縛シタノデスカラ矢張監禁デス一行ハ此言渡ニ接シテ止ムヲ得ズ「グ
 ロデコフ」ノステーション内ニ宿泊スルニ決シテ其趣ヲ浦潮斯德ノ日本貿易
 事務館ニ電報ヲ打タウトシテ電報文ヲ起草セウツトシタ處憲兵ガ來テ檢閲シ
 マシテ結局鮫嶋氏ト憲兵ト相談デ電報文ヲ書イタ様ナモノダト云フコトデ
 ス「ステーション」デハ食物ヲ賣テアル又待合所デハ椅子モ腰掛モアリテ其處
 ニ宿泊シテ居テモ格別不自由ハ無カリタ様子ダケレドモ兎ニ角斯フ云フ鹽
 梅ニ神山氏一行ハ「グロデコフ」ノステーションデ通行ヲ差止メラレ剩サヘ氣
 ノ毒ナガラ監禁同様ノ目ニ逢ツタト云フコトデス其デ日本貿易事務館デハ
 餘リ不都合ノ事ダト思テ露西亞ノ官吏ニ聞イテ見ルト浦潮斯德ノ港務局長
 「エゲルマン」氏ナドノ言フノニハ「グロデコフ」ノステーションデ憲兵ガ日本ノ
 官吏ノ通行ヲ差止メタノハ全ク憲兵ガ上官ノ命令ヲ誤解シタカラデス是マ
 デ「グロデコフ」附近デ東清鐵道工事ノ爲メ日本及ヒ伊太利ノ石工ヲ使用シマ
 シテ是等傭工夫ノ旅行券ハ監督技師ガ一切之ヲ保管シテアリテ工夫等ニ對
 シテハ預證ヲ交付シテアリマスカラ此預證ヲ持ッナイ工夫ハ技師ノ證明書

ヲ賞ハナケレバ通行ヲ許可ス可ラズト云フ命令ヲ傳ヘテアルノデス其テ憲兵ガ日本ノ官吏ヲ職工ト誤認シテ其通行ヲ差止メクノハ誠トニ不都合アリマシク是等ノ憲兵ニ對シテ即刻譴責ヲ加ヘテ置キマシタト

何ダカ不都合ナ分疎デ有リマセヌカ「グロデコフ」ノ憲兵モ驛長モ神山氏等ハ鐵道ノ工夫ニ非サルコトヲ充分ニ知リテ居ル筈デス特ニ憲兵ハ神山氏一行ニ向テ「貴君等ハ官吏アルサウダ」ト言ヒマシタ又驛長モ「ブリーネル」氏ノ紹介狀ヲ見タノデス又神山氏等ノ風采モ立派デ職工ト誤認セラル、筈モ無イ憲兵ガ神山氏等ヲ誤認シタナドト云フハ事ガ生シテ後テ捏造シタ口實デス東清鐵道ノ汽車ニ乗ルコトヲ外國人一般ニ許ス様ニナリタコトヲ驛長ガ知ラ無カリタト言ハ、益ス驛長ノ不都合ニナリ日露交渉事件ガ益ス面倒ニナルト思ツテ驛長カ又ハ其上官カノ間テ憲兵ガ職工ト誤認シタナドト有ラレモセヌコトヲ捏造シタノデセウ又日本ノ官吏ヲ職工ト誤認シタト云フハ何ト失敬デハ有リマセヌカ誰ガ始メテ此ノ如キ不都合ノ話ヲ捏造シタカ知リマセヌガ浦潮斯德ノ某新聞ニモ憲兵ガ神山氏一行ヲ職工又ハ勞働者ト誤認

シタト書イテ有リタサウデス適當ノ旅行券ヲ持ツテ其資格ノ充分ニ明カナモノヲ職工勞働者ト誤認シタト云フ口實ハ如何ニモ不都合アリマセヌカ日本ノ政府ハ此時露西亞ノ政府ニ向テ如何ナル交渉ヲシタノデセウ泣寢入デスカ知ラヌ

サテ神山氏等ノ一行ガ唯今申シマシタ通酷イ目ニ逢マヒシタガ其外ニモ日本人デ滿州ニ入ラウトシテ通行ヲ差止メラレ或ハ辛フシテ差止ヲ免レタルモノハ澤山有リマス例之浦潮斯德ノ貿易事務館ノ鈴木陽之助氏ガ小松宮殿下奉迎ノ爲メ「ハルビン」ニ行ツタ時「ハンタヘーザ」テ通行ヲ差止メラレウトシタト云フコトヲ聞キマシタ又同シク貿易事務館ノ岩永覺重氏ガ「ハルビン」ノ土地問題ニ關シテ同處ニ出張シタ時ニハ往途ニハ何等不都合無カリタ模様ダガ歸途ニハ「パグ」ラニ「ナナヤ」ニ於テ通行ヲ差止メラレウトシタト云フコトヲ聞キマシタ其他日本人デ通行ニ妨害ヲ與ヘラレタモノハ澤山アル終ニ滿州ニ入ルコトヲ得ズシテ浦潮斯德ニ引還シタルモノモ有リマス又露西亞ノ役人ニ賄賂ヲ與ヘテ通行シタモノモ澤山有ル又流車ノ寐臺兼腰掛ノ上

ニ隠レテ通行シタモノモ往々有ル露西亞ノ役人ト來タラ賄賂ガ大ノ好物デ
 スカラ少シク賄賂ヲ與フレバ日本人ハ造作無シニ通行ヲ許サル、ト云フ話
 デ賄賂ノ相場ハ二三留ト極リテ居ルサウデス日本人ノ方カラ言ハバ二三留
 ナ與フルノガ最便法デセウガ外國人一般ニ乗車ヲ許シテ置イテ斯フ通行、ナ
 差止メルノハ不都合デ有リマセヌカ
 通行ナ差止メラレテ二三留ヲ與フルコトハ何デモ有リマセヌ時トシテハ日
 本人デ捕ヘラレタモノガ有ル概シテ言ハバ日本人ハ寫真機械ヲ持テ行ケハ
 捕ヘラル地圖ヲ引イテ居レバ捕ヘラル甚シキハ地圖ヲ見テ捕ヘラレウトシ
 タモノガ有ル又測量機械ヲ持テ行ケハ捕ヘラレテ牢ニ入レラル何故露西亞
 人ハ日本人ニ對シテ斯ノ如キ不都合ナ事ヲスルカト云フニ實ハ日本人ヲ恐
 レテ居ルカラデス近頃マデハ格別日本人ヲ恐レテ居無カリタ様デスガ日清
 戰爭ニ於テ日本人ハ甚シキ武勇ヲ著ハシ北清騷動ニ於テモ聯合軍中無類ノ
 武勇ヲ顯ハシタノミナラズ日本人ノ携ヘタル地圖ハ非常ニ精確ダト云フ評
 判デ露西亞人ノ考デハ日本人ガ滿州ニ入テ精確ノ地圖ヲ作りテハ其コソ大

變々他日、日露戰爭ノ起ル時日本人ハ又此精確ノ地圖ヲ用ヒルダラウ今カラ
 防禦ノ策ヲ講スルニ日本人ヲ滿州ニ入レナイノガ上策ダト其デ露西亞人ハ
 上下舉テ日本人ノ滿州ニ入ルコトヲ妨害スルノデ有リマス而シテ特ニ軍事
 探偵ヲ恐レテ居マスカラ屢バ日本人ヲ捕ヘルノデス若シモ日本ノ陸軍ガ弱
 小デアアルナラバ露西亞人ハ日本人ヲ恐レナイ隨テ勝手ニ滿州ニ入レルデセ
 ヲガ併其時ハ日本人ガ滿州ニ入りタトテ支那人朝鮮人ノ同列ニ入ルノミデ
 迎モ肩幅ヲ廣シスルコトハ出來ナイ又日本ノ方ヨリ言ハバ陸軍ヲ弱小ニス
 ルコトハ得策デ無イ其故日本人ガ滿州ニ入ルノヲ妨害セラル、ノハ必然ノ
 勢デス今日ノ有様デハ避ク可カラザルノ勢デス
 序ニ言ツテ置キマスガ日本人ガ口ヲ開クト時トシテ斯フ云フコトヲ言ヒマ
 ス世ノ中ニハ露西亞ニ對シテ戰爭ス可シト論スル人モ有ルケレドモ戰爭ナ
 ドト云フ野暮ナ事ヲセナクテモ善イ其ヨリモ日本人ガ勝手ニ澤山ニ滿州ニ
 移住シテドシ々々金ヲ儲ケル方ガ善イ斯フ言ツテモ滿州ニ行カウト云フ人
 ハ澤山有ルマイト日本ノ或政治家ガ露西亞ノ藏相ニ逢ッタ時藏相ハ頻リニ

滿州デ日本人ヲ歡迎スルカラ澤山來ル様ニシテ下サイト言ツクサウデ其デ日本ノ政治家ハ大ニ悦ンデ是ダカラ戰爭ナドセナクモ善イト人ニ吹聴シタサウデス臧相ノズルサ加減ト日本ノ政治家ノ馬鹿サ加減ハナヨツト測量ガ出來マセヌ戰爭チシテ善イカ惡イカハ別問題トシテ日本人ガ平和的ニ滿州ニ入り平和的ニ滿州ニ住居シ平和的ニ商工業又ハ農業ニ從事シテ金ヲ儲ケルコトガ出來ルト思フノハ頗ル迂濶デス唯今申シマシク通日本人ガ滿州ニ入ラウトスレバ露西亞人ハ爭テ其通行ニ妨害チ與ヘ甚シキハ之ヲ捕ヘルデハ有リマセヌカ此事ハ西比利亞又ハ滿州ニ足ヲ入レタル日本人ノ誰デモ知リテ居ル事實デ有リマス

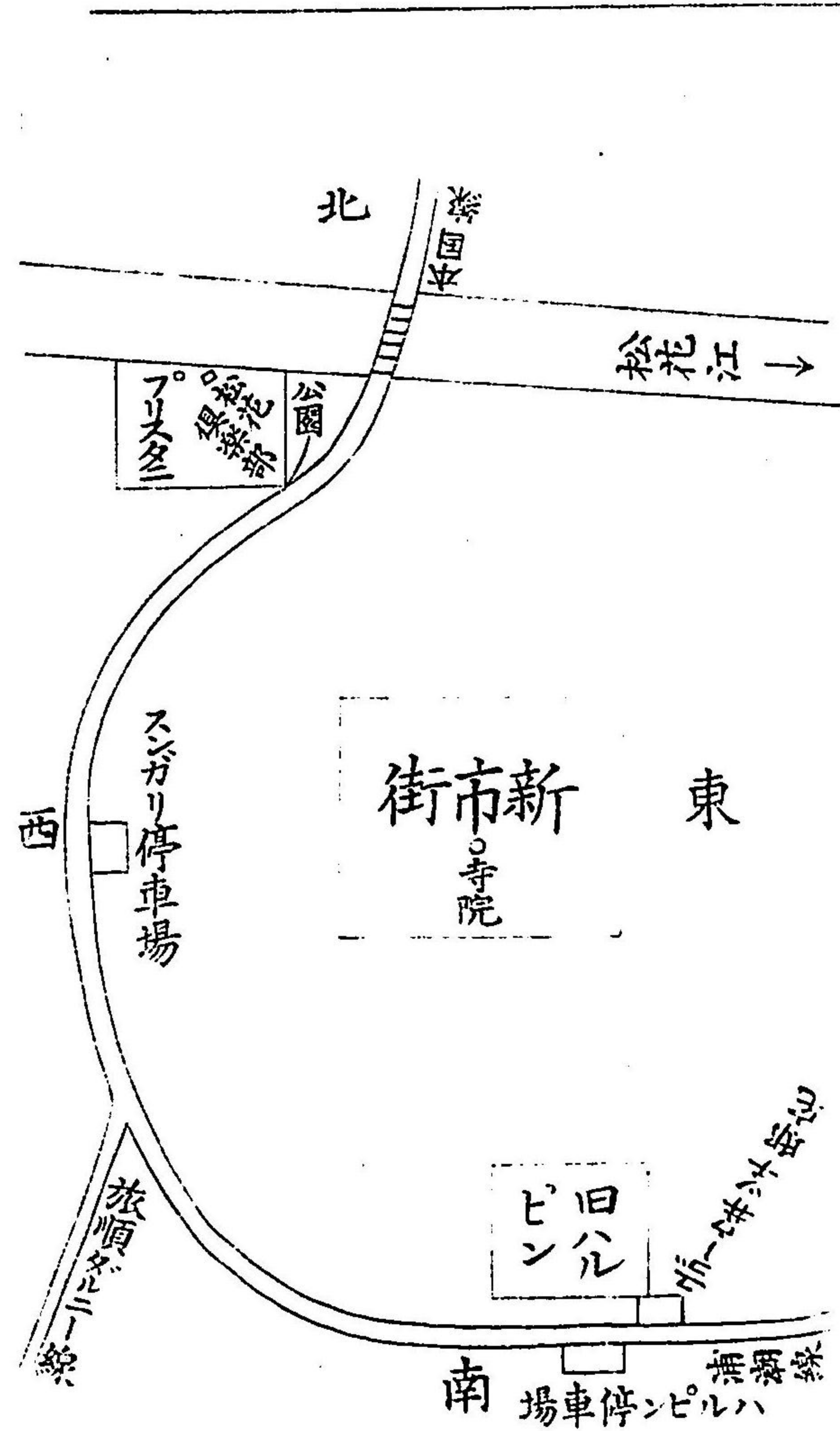
私ガ浦潮期德ヲ出發シテ滿州ニ入ラウトスルニ付テ人々隨分危ノダ私ハ多分通行チ差止メラル、ダラウト言テ危ミマシタ
 丁度其頃日本人ハ重ニ「ハンタヘーザ」デ止ラレテ居タ頃デスカラ私モ亦「ハンタヘーザ」デ差止メラル、ダラウト言ツテ人々危ンデ居マシタ是ヨリ前ニ浦潮斯德ノ日本貿易事務館ハ總督「グロデコフ」大將ニ手紙チ送り「ハンタヘーザ」

ニ於テ斯ノ如ク日本人ノ通行チ差止メルハ不都合ダカラ差止ノ無イ様ニシテ貴度ト申込ソデ有リタ筈ダカ愈ヨ私ガ浦潮斯德ヲ出發セウトスルニ當リテ特ニ電報チ「グロデコフ」大將ニ送り斯ク々々ノ人ガ「ハルビン」等ニ行シカラ「ハンタヘーザ」ナトデ通行チ差止メテハイケナイト言ツテ賞ツタ其デモ尙足ラヌ心地シタト見エテ日本貿易事務館ノ鈴木陽之助氏ハ親切ニ露西亞語デ電報文マデ草シテ私ニ與ヘラレマシタ其ハ若シモ私が通行チ差止メラルナラハ其時日本貿易事務館ニ宛テ打ツ可キ電報文デ露西亞語デ書イテアル鈴木氏ハ好意チ以テ之チ書イテ私ニ與ヘラレマシタカラ私ハ紀念ノ爲メ之チ保存シテアリマス

斯ヲ準備ガ出來テカラ私ハ浦潮斯德ヲ出發シテ「ハルビン」ニ向テ旅行シ途中「ハンタヘーザ」デ下車シテ「ブフエ」ニモ行キ汽車ノ近傍チ散歩シテ居リマシタケレトモ誰一人通行チ差止メタモノモ無ク至テ平穩無事デアリマシタ前ニ「グロデコフ」ニ宛テ日本貿易事務館ヨリ打ツタ電報ガキイタカ又ハ私ガ特ニ幸運デアリタカ其ハ知リマセヌガ兎ニ角私ハ平穩無事デ「ハンタヘーザ」チ通

過致シマシタ其當時ハ「ハンタヘーザ」ガ關所ノ様ニナリテ居マシタカラ其サ
 ～無事ニ通過スレバ外ノステーションニ於テハ彼是面倒無シテ私ハ終ニハ
 ルビンニ着マシタ而シテ私ヨリモ三四日後レテ「ハルビン」ニ着シマシタ上野
 ト云フ商人ハ矢張り「ハンタヘーザ」デ通行ナ差止ラレウトシテゴタ々々シテ
 漸ク此ノ關門ヲ切抜ケタト云ツテ居マシタ

「ハルビン」ニ着イテ後「ハルビン」ノ地圖ヲ買ハウト思ツテ居マシタケレトモ地
 圖ハ賣リテアリマセヌ「ハルビン」ヲ出發スル日ニ東清鐵道技師長「ユゴロウ」
 ツチ「氏」ニ逢ヒマシタニ付テ「ハルビン」ノ地圖ヲ貰ハウトシタラ「ハルビン」ノ設
 計圖ヲ製シタルコトガアルノミデ地圖ヲシイ地圖ハマダ製ヘナイカラ呉ル
 コトガ出來ヌト言ヒマシタ設計圖デモ善イカラ貰度ト言ツタラ「生憎都合ノ
 善イノガ無イカラ御氣ノ毒ダカ上ケルコトガ出來マセヌ且ツ設計ハ時々變
 更シマスカラ當ニハナラヌノミナラズ本年十月ニハ本當ノ地圖ヲ製スルカ
 ラ地圖ガ御入用ナラバ其時マデ御待ニナリテハ何ウデス」ナド、言テ左右ニ
 託シテ體善ク斷ハラレマシタ折角頼ンダ私ハ善イ面ノ皮デシタ多分「ハルビ



ン」ノ地圖ハ秘密デ日本人ニ示スコトガ否ナノデセウ地圖ト來タラハ露西亞
 人ノ秘藏物デスヨ併シ「ハルビン」ノ地形ハ先ヅ此通デス

此圖ヲ御覽ノ通ハルビンハ三ツノ部分カラ成立テ居ル「スタルイ、ハルビン」即チ舊ハルビン三ノ「グキ、ゴロト」即チ新市街及ヒ「プリスタニ」此ノ三ツデ有リ「マス」プリスタニトハ棧橋ト云フ意味ダサウデス「ステーション」ガ二ツ有リマシテ一ハ「ハルビン」ノ「ステーション」デ舊ハルビンニ在リマス今一ハ「スンガリ」「ステーション」デ其ハ新市街ニ在リマス私ハ此ノ「スンガリ」「ステーション」デ下車シマシテ「プスタニ」ニ滞在シテ居マシタ唯今ノ處ハ行政廳ハ重ニ舊ハルビンニ在リマシテ東清鐵道技師長「ユゴウキツナ」氏ノ官邸モ舊ハルビンニ在リマス是ハ「ステーション」ノ直近傍デス他日新市街ガ行政ノ中心トナル筈デ私ノ行ツタ當時ニハ折角建築ナシテ居マシタ新市街ハ他ノ部分ニ比較シテ地面ガ小高イデ極善イ處デスカラ中心トスルニ適當デセウ特ニ其位置ハ「ハルビン」ノ中央ニ在リマス新市街ノ中央ニ露西亞ノ寺院ガアル此寺院ハ立派ナモノデ露西亞人ハ之ヲ中心トシテ四方ニ大道ヲ作りテ居マス私ノ行ツタ時ハ寺院ノ近傍ハ廣イノミデ道路ラシイ道路ハマダ充分ニ出來上テ居マセメデシタガ畢竟寺院ヲ以テ四通八達ノ場所トスル計畫デス其デ馬車ノ賃錢

チ定ムルコモ此寺院ヲ中心トシテ之ヲ定メテ有ル即チ此馬車ハ浦潮斯徳同様全ク露西亞風ノ馬車デスガ其賃錢ハ此寺カラ舊ハルビン「マデガ」一留五十哥デ此ノ寺カラ「プリスタニ」マデガ一留ト云フ鹽梅ニ定メテアル「丁度」ロンド「ン」デ「チニア」リング、ク「ロツス」ヲ中心トシテ馬車ノ賃錢ヲ定メテアルト同シ様ナ譯デス「プリスタニ」即チ棧橋ハ松花江ノ濱ニ在リマシテ商賣ニハ至極便利ナ場所デス素一小漁村デアリタサウデスガ今ハ澤山立派ナ商店ガ出來テ居マス
所謂「ハルビン」ハ舊ハルビン「新市街」プリスタニ「此ノ三ツ」チ合稱スルノデ目今ノ處ハ此ノ三ツハ互ニ離レテ居ルト言ツテ宜シイ「新市街」ト「プリスタニ」ノ間ハ家屋ガ稍ヤ連續シテ建テアリマスケレトモ「新市街」ト「舊ハルビン」ハ随分離レテ居マス冬ニナリマスト夜間物騒ダト云フコトデス「ハルビン」ノ警察ハ浦潮斯徳ホド不行届テハ無イ様デスガ「新市街」ト「舊ハルビン」ノ間ナドハ夜間強盗モ出ルデセウ
斯フ云フ譯デ三ツノ部分ガ互ニ離レテ居ル位デスカラ「ハルビン」ニハ茫々々

ル空漠ノ土地ガ澤山アル而シテ「ハルビン」全體ノ面積ガ餘程廣イ舊「ハルビン」ノ一端カラ「プリスタ」ニ一端マデガ日本ノ里數デ二里計アルサウデス成程私ガ「プリスタ」ニカラ雨ノ降ルニユゴ「ウキツ」氏ノ役所ニ行クニ長クカ、リマシタ

「ハルビン」モ斯フ云フ處デスカラ人口モ可ナリアル人口ハ八萬計デ内勞働者ガ三萬二千ダト云フコトデス又八萬ノ内五萬ガ支那人デ三萬ガ露西亞人デス此ノ三萬ト云フ中デ一萬五千ガ兵卒ダラウト思ヒマス「ハルビン」ニ茫々タル空漠ノ土地ガ澤山アリテスラ彼ノ通ノ人口ガ有ルノデスカラ若シモ空漠ノ土地ヲ變シテ其處ニ家屋ヲ櫛ノ齒ヲ比ヘル如クニ建タル時ニナレバ人口ハ幾十萬ニナルカモ知レマセヌ一體「ハルビン」附近ハ平地デスカラ松花江ノ河向フチモ「ハルビン」ノ中ニ組込ムコトモ出來マスガ斯フ云フコトナスレバ「ハルビン」ノ人口幾百萬トナリマシテモ決シテ狭キヲ感スルコトハ有リマスマイ本當ニ「ハルビン」ハ壯大ナ場所柄デス而シテ露西亞人ガ其處ニドシ々々金ヲ注入シテ盛ニ土木工事ヲ起シ總テ大規模デ仕事ヲヤリテ居マス松花江

ニカ、リテ居ル橋ノ價スラ三百萬留トカ開キマシタ

松花江デスカ其ハ東京ノ隅田川ヨリ廣イ其河ノ鯉ハ随分味ガ善イアレハ鯉ホド大サカアルケレドモ鮒カモ知レヌ獨逸デ「カルペン」ト言ツテ居ル魚ナ日本ガ鯉ト譯ナツケテ居マスガアレモ鮒カモ知レヌ兎モ角松花江デ魚ヲ釣リタラハ面白カラウト思ヒマス私ハ一度舟デ松花江ヲ越テ「ハルビン」ノ向側ニ上リ「ザトーン」ト云フ處ニ行ツタコトガアリマス其頃「ダニ」ノ梅田潔氏モ旅順ノ山下五郎氏モ「ハルビン」ニ來テ居マシテ此二人ト私ト松永峰治氏ト都合四人デ小蒸氣デ松花江ノ向側ニ行キマシテ「ザトーン」デ茶ヲ飲ンデ歸リマシタ今少シ御馳走ヲ食フ積デシタガ「ザトーン」ノ邊ニ兵卒ガ澤山居リテ頃ハ「ザトーン」ノ茶屋カ酒屋ラシキモノモ金カ儲カリタデスケレドモ私共ノ行ツタ頃ハ其邊ノ光景ハ至テ寂寥デ茶屋カ酒屋ラシキ處ニ食物ガ殆ンド無イ漸ク頼ンデ紅茶ヲ出サセテ飲ンテ來マシタ外ニ手製ノ兵卒ノ食フ様ナ「パン」モ有リマシタ松花江ヲ越エテ直グノ處ニハ穴居ガ少クアリマシタ之ヲ始メテ見タ時ニ可愛想ニ支那人ガ素此處ニ居タノダラウトニ放逐セラレタカ知

ラスト思ツテ居マシタガ五間カ十間計進ムト云フト其様ナ穴居ガ随分有リ
 マシテ其家根ニハ露西亞人が居リマシタノヲ始テ是ガ露西亞人ノ家ヲト云
 フコトガ分リタ彼ノ邊ハ寒イカラ地面ニ縦穴ヲ掘テ其上ニ家根ヲ製ヘテ住
 マツテ居ルノデス私共ハ歸途ニハ支那人ニ棹ヲサ、シテ小舟デ松花江ヲ渡
 リテ彼ノ橋ノ下ヲ通りマシタ何ト無ク隅田川ニ棹ヲサ、シタ様ナ心地ガシ
 マシテ一同寫眞デモ取ラセレバ善イト言ツテ居マシタ
 ハルビンノ地勢ト位置トヲ言ヒマスト彼ノ邊ハ概シテ平地デ大市都ヲ作ル
 ニ至極適當デアルノミナラズ其位置モ至極善イ是ガ松花江ニ濱シテ彼ノ邊
 マデハ可ナリ大キナ小蒸氣ガ上ルデス小蒸氣ハ「フラット、ポットム」デ吃水
 五フキートト「ト開イテ居マシタカ一概ニ五フキートト」言ハレマスマイ「ハルビ
 ン」マデ上ル小蒸氣ノ外ニ尙一層小サイ小蒸氣ガアルアレハ吉林邊マデ上ル
 ノデセウ當初露西亞人が滿州ノ都ヲ定メウトシタ時ニ「ベトナ」ノ地ヲ相シタ
 ノデアリマサガ「ベトナ」ハ成程滿州ノ中心點ニハ相違有リマセヌケレトモ何分
 濕氣地デ水害ガ多イノミナラズ「ベトナ」ハ「ハルビン」ヨリモ松花江ノ上流ニ在

リマスカラ大船ヲシテ「ベトナ」邊マデ溯ボラシムルニハ不便デ有ル其デ露西
 亞人ハ當初ノ考ヲ放棄シテ「ハルビン」ヲ滿州ノ首府トシテ撰ンダノゾアリマ
 ス私ハ首府ト云フ語ヲ使ヒマシタ露西亞ハ實ニ滿州ヲ取ル積デ若シ之ヲ取
 得ルトスレバ首府ヲ「ハルビン」ニ定ムル積デ有リテ此目算ハ今デモ尙繼續シ
 テ居リマス一步ヲ進メテ言ハ「露西亞ハ既ニ「ハルビン」ヲ以テ滿州ノ首府ト
 シタ積デアリマス是ハ實ニ首府トスルノ價值ノ有ル處デス他日日本人ガ滿
 州ヲ取ルトスレバ矢張「ハルビン」ノ邊ヲ以テ滿州ノ首府トスル方ガ上策デセ
 ウ

「ハルビン」ハ管ニ松花江ニ濱シテ居ルノミナラズ鐵道ノ方カラ言ヘバ「ハルビ
 ン」ハ其中心點デス「ハルビン」カラ浦潮斯德マデ鐵道ガ通シテ居ル「ハルビン」カ
 ラ「イルクツク」マデ鐵道ガ通シテ居ル「ハルビン」カラ旅順「ダルク」マデ鐵道ガ
 通シテ居ル浦潮斯德ハ申ス迄モナク海軍ノ雄鎮デ露西亞人ハ旅順ヨリモ浦
 潮斯德ニ重キヲ置イテ居ル「イルクツク」ハ西比利亞ノ真中デ「ベテルブルグ」ニ
 行クノ大道ニ當テ居ル「ダルク」ハ他日東洋ノ商業否世界ノ商業ノ中心點ト

爲サント欲スルトコロデ旅順ハ此ノ商業ヲ保護シ兼テ支那ノ咽喉ヲ制スルガ爲メノ具デ有リマス「ハルビン」ハ是等樞要ノ土地ノ連鎖ノ其又中心點デアリマスカラ露西亞人ノ眼ヨリ見レバ頗ル大切ノ場所デス「ハルビン」ハ此ノ如キ大切ノ場所デアリマスカラ日本人ハ誰デモ知リテ居ルト思ツテ居マシタガ或新聞記者ガ私ノ處ニ來マシテ滿州旅行ノ話ヲ聞キ度ト言ヒマシタカラ少シク話ヲセウトシタラ「ハルビン」トハ何處デスト言ハレテ私モ當惑シタコトガ有リマス三宅、陸、島田、徳富等ノ諸氏ハ大先生デ私モ大ニ尊敬シテ居マスガ新聞記者ノ中ニモ隨分ヒドイノガ時トシテ有リマス此次カラアンナ人ガ來ル時ニハ少シク地圖ヲ見テ來テ欲シイ

露西亞ノ役人デスカ私ハ「ハルビン」デハ「プリスタニ」ノ警察署長騎兵大尉「カザルキン」氏ト東清鐵道技師長「ユゴウウキツ」氏ニ逢ヒマシタ「カザルキン」氏ハ年齡三十何歳ト見エル容貌デス右ノ腕ガ無イ多分戰爭ノ時失ナツタノデ有リマセウ何デモサウ聞イテ居マス同氏ハ土耳其人デ「マホメット」教ヲ奉シテ居マス或時私ノ處ニ來マシタカラ帆立貝ナドノ御馳走ヲシタサウスルト「カザ

ルキン」氏ハサツパリ帆立貝ヲ食ハス「私ハ「マホメット」教ヲ奉シテ居マスカラ是ハ食ヒマセヌ」ト言ツテ帆立貝ヲ食ハズニ其外ノ菓實類ヲ食テ居マシタ「マホメット」教ノ人ハ豕ヲ食ハスコトヲ私ハ知リテ居マシタガ帆立貝ヲ食ハスト云フコトヲ知リマセンデシタ「マホメット」教徒ナラバ酒ヲ飲マヌ筈ダノニ「カザルキン」氏ハ酒ヲ飲ンデ居マシタ或事ニ付テハ隨分非難ヲ受ケテ居ル人ダケレドモ兎ニ角薩摩ノ隼人ノ様ニ元氣ナ人物デシタ或時日本ノ品物ヲ見テ「日本ノ品物ハチヨット奇麗ダケレド直ク破レル」ト言ツテ非難シテ居タ成程其通デス露西亞ノ品物ハ無細工ダケレド中々頑強デス此方ガ善イ日本ノ品物ト露西亞ノ品物ト比較スルト一方ハ倭便ナル大都會ノ輕薄兒ノ様デ一方ハ武骨ナル薩摩ノ隼人ノ様デス私ハ薩摩ノ隼人ノ方ガ好キデス「カザルキン」氏ノ言ニハ賛成デス「カザルキン」氏ハ可ナリ材幹ノアル人物ノ様ニ見受ケラレマス其故露西亞人ガ之ヲ用ヒテ居ルノデセウ露西亞人ハ人ヲ用フル上ニ付テ中々豪イ何處ノ國ノ人デモ之ヲ用フル「バミール」高原デハ瑞典人ヲ用ヒテ之ヲ大尉トシテアル又「カザルキン」氏モ土耳其人ダケレドモ「ハルビン」コ

於テ之ヲ用ヒテアル「ユゴウキツチ」氏ハ年齢五十歳餘ト見受ケラレマス立派ナ風采ノ人物デス英語モ佛語モ達者ニ話シマス露西亞人ニハ佛語ヲ話スモノガ澤山アルケレドモ英語ヲ彼ノ様ニ話スモノハ珍シイ是ハ多分材幹ナル人物デセウ何デモ喰ヘナイ古狸デス同氏ハ純然タル文官カモ知レマセヌガ肩ニ金「モール」ノ付イタ盛ナ服ヲ着テ居マシタ露西亞デハ文官デモ此様ナ衣服ヲ着ルサウデス

「ハルビン」ノ行政ハ斯フ云フ様ナ人ガヤリテ居ルノデス行政ノ全權ハ此ノ古狸ノ「ユゴウキツチ」氏ノ手ニ在ルノデスガ細カイ事ハ「カザルキン」氏等ガヤリテ居ルノデス其デ日本人ガ直接ニ接スルノハ「ユゴウキツチ」氏デ有リマセヌデ「プリスタニ」デハ「カザルキン」氏デス唯今ハ「ハルビン」ニ於テ重ニ軍政ヲ布テ居ルケレドモ來年ノ春ニナルト純然タル民政ニ改メルト言フ評判ヲ聞キマシタカラ「カザルキン」氏「ユゴウキツチ」氏ニ逢ツタ時確メテ見マスト云フト兎ニ角來春ニナレバ行政改革ガ有ルト云フコトデ其時ハ「ユゴウキツチ」氏ハ去リテ其代リニ陸軍少將「ホルバルト」氏ガ來リ「カザルキン」氏ハ去リテ

浦潮斯德ノ警察署長トナルト云フコトデス併其後ニ「ウキツチ」氏ガ西比利亞及ビ滿州ヲ巡視シマシタカラ又此ノ計畫ヲ變更シタカモ知レマセヌ來春ト云フハ何時ノ事ダト言ツテ尋チテ見マシタラ一月ニナルカモ知レヌ三月ニナルカモ知レヌ併シ行政改革ノアルコトハ確カダト云フ答チ得マシタ「ハルビン」ニハ裁判所ガ有リテ支那人ト露西亞人トノ關係事件ハ支那ノ役人立會ノ上露西亞人ガ之ヲ裁判シ露西亞人ノミノ間ノ事件ハ無論露西亞人ノミデ之ヲ裁判シテ居ルデス而シテ其裁判ニ對シテ控訴スルコトガ出來ルノデ「ハルビン」ト浦潮斯德トノ間ニ起リタ事件ニ付テハ浦潮斯德ノ裁判所ニ控訴シ「ハルビン」ト「イルクツク」トノ間ニ起リタ事件ニ付テハ「イルクツク」ノ裁判所ニ控訴シ「ハルビン」ト「旅順」トノ間ニ起リタ事件ニ付テハ「旅順」ノ裁判所ニ控訴スルノデス

外國ニ關スルコトハ無論各其本國ノ領事ニ支配セラレル譯デス其故牛莊ノ領事ハ屢バ「ハルビン」旅順其他重要ナル場所ノ事情ヲ知ル爲メニ其處ニ出張セナク「バナラ」ヲ管デス然ルニ「ハルビン」ノ事ナドハ牛莊ノ領事館ヨリモ浦

潮斯德ノ貿易事務館ノ方ガ能ク知リテ居ル様ナ感覺ガ有リマス牛莊デ聞イテ見ルト云フト領事ハ勿論處々ニ旅行セウト言フノダケレドモ外務省カラ旅行ヲ命セナイカラ始末ニ行カスト云フコトデス是ハ牛莊ノ領事カラ聞イタ事デハ有リマセスケレトモ多分其通デセウ何故外務省カ牛莊ノ領事チ處々ニ出張サセナイノデセウカ或人ノ云フノニハ日本ノ官吏ガ餘リ滿州ノ事ニ關係スルト云フト露西亞トノ衝突ガ起ルカラ其チ避ケル積ダト云フコトデスガ果シテ衝突チ避ケル必要ガ有リマスカ知ラヌ日本ノ方カラ衝突ニ出掛ケタラバ何ウデセウ

「ハルビン」ニ居ル日本人ノ數デスカ此ニ其表ガアリマス

哈爾濱在留日本臣民職業及戶口調明治三十五年九月一日調

職業別	戶數	男	女	男女計
商業	一〇	三三	四	三七
寫眞業	三	一一	一	一二
ラム子製造	二	一四	三	一七

大工	石工	洗滌	貸席	合計
一〇	一一	一一	二五	七三
二二	一	四〇	一〇	二六九
八	一一	一七五	二二	二二七
三一	一	二二〇	一四	五〇六

備考

一 雜業中實業其他ノ視察員、語學實習、裁縫、時計商、理髮業、行商、露清人ノ雇人等含有ス

此表デ御覽ノ通「ハルビン」ニ在留スル日本人ノ數ハ男女合シテ五百六人デ内男ハ二百六十九人女ハ二百三十七人其内貸席ノ女ガ百七十五人デ是丈ガ露西亞人ノ爲メニ歡迎セラレテ居ルガ五百六人ヨリ百七十五人チ差引タ其殘ハ概シテ露西亞人ノ爲メニ歡迎セラレテ居ラヌ管ニ歡迎ラレテ居ラヌノミナラズ實ニ邪魔ニ思ハレテ居マス前ニ申シタ「カザルキン」氏ノ如キハ「ハルビン」ニ留マル日本人ノ半數位ハ探偵ト見テ宜イナド、勝手チ事チ言ツテ居マ

フサウ云フ考ダカラ日本人ニ向テドシ々々壓制ヲ加ヘテ居ル唯日本人ガ支那人ト喧嘩チスルト云フト巡查ナドハ日本人ノ最負チスルト云フコトデス奇妙ナ事ダト思ツテ聞イテ見ルト云フト日本人ノ最負チスレバ些少ハ金ニナルト云フコトデス斯フ事ハ特別ノ事トシテ一般ニ言ハバ日本人ハ露西亞人ノ爲メニ甚シク壓制セラレテ居リマス前ニ日本人ガ滿州ニ入ラウトスルト云フト露西亞人ノ爲メニ通行ヲ妨害セラレルト云フコトヲ言ヒマシタガ日本人ガ愈ヨ滿州例之「ハルビン」ナドニ入ルト云フト其ノ處デハ又壓制ヲ蒙ムリテ居ル土地問題ヤ營業問題ニ付テハ我々日本人ノ憤慨ニ堪ヘヌコトガ有リマス

先ツ土地問題ニ付テ申シマスガ東清鐵道會社ガ「ハルビン」其他ノ土地ヲ租借シタルニ付テ露西亞人支那人日本人等澤山「ハルビン」ニ入込ンテ其内或ルモノハ土地ヲ借受ケテ家屋ヲ建築シタ元來地所ノ貸下ハ東清鐵道建築部ノ主管ニ係リテ居マシテ其貸下ノ正式ノ手續ヲ言ヒマスレバ家屋ヲ建築シタ丈デハ不充分デ尙其上ニ建築ノ許可ヲ受ケタ證據書類單簡ニ言ハバ許可書ヲ

取テ置ク可キ筈デアルノニ大抵ハ此許可書ヲ取テ置カナカリタト見エル日本人ノミナラズ露西亞人モ支那人モ許可書ヲ取テ置カ無カリタモノガ澤山有ルラシイ段々聞イテ見マスト是等ハ東清鐵道技師長所定ノ成規ニヨリテ土地ヲ借受ケタモノデ無シテ警察官限リテ行ツテ居タ畧式ノ手續ニヨリテ土地ヲ借受ケテ其カ爲メニ許可書ヲ得無カリタモノト見エマス折角東清鐵道租借地ノ一部分ヲ借リテ家屋ヲ建築スルデスカラ何等ノ手續ヲ蹈マナイデ家屋ヲ建築スル如キ危險ヲ冒スモノモ滅多ニ有ルマイガ其手續ハ多クハ正式デナイノデ中ニハ警察官ガ口頭ヲ以テ選定シタ地區ニ家屋ヲ建築シタモノモ有ルト云フコトデス其デ中ニハ僅カニ許可ヲ受ケタコトヲ證明スルニ足ルノ書付ヲ持ツテ居ルモノモアルケレトモ中ニハ又唯一片ノ證據書類ヲモ持タナイモノモアルト云フコトデス警察署デハ成規ノ手續ヲ知リナガラズノ如シ滅茶々々ノ貸方ヲシタノカ又ハ例ノ不學文盲ノ連中ガ成規ノ手續ヲ知ラズシテ大ザツバニ斯ノ如キ不規律ヲ貸方ヲシタノカ何レニツノ中ノ一ダラウガ兎ニ角「ハルビン」ヲ開イタ當時デハ民政紊亂シテ居タノデ斯ノ

如シ成規ノ手續ヲ踏ナイデ土地ヲ借受ケタモノガ澤山出來ク此ノ如キ弊ヲ防ク爲メデアアルカ東清鐵道會社建築部ハ昨年六月頃ヨリ地所ヲ貸下シルコトヲ止メマシタ何レニモセヨ是迄土地ヲ借受ケタモノハ如何ナル條件ヲ付シテ之ヲ借受ケタカト申シマスニ先ツ斯フ云フ條件ヲ付シテ居マシタ

- 第一 地所ヲ一時借受ケテ居ルコト
- 第二 借地料ヲ定メタ場合ニハ之ヲ納付スルコト
- 第三 地所使用ノ爲メ制定ス可キ總テノ規則ヲ遵守スルコト
- 第四 建築部ノ許可ヲ經ナイデ借地ヲ他人ニ讓與シ又ハ建築物ヲ賣買讓與セナイト云フコト
- 第五 鐵道會社ノ必要上地所ノ返却ヲ命セラル、場合ニハ直ニ之ヲ返却ス可キコト
- 第六 建築物ノ取拂地所ノ返却ヨリ生シタル損害ハ會社ヨリ賠償セナイト云フコト
- 第七 地所ヲ借リタ當日ヨリ三ヶ月以内ニ建築ニ着手セザルトキハ地所ヲ

取上シルト云フコト

即チ日本人中ノ一人ヨリ會社ニ差入レタ證書ノ譯文寫ガ此ニ在リマス是ハ私ガ「ハルビン」デ得タノデス

證

千九百一一年八月 日下ニ署名セル日本人某左ノ條件ノ下ニ本證ヲ東清鐵道會社ニ差入ル、者也

第一 東清鐵道會社ハ予カ願意ヲ承認シテ其會社ニ所屬セル地所ノ内マ
 ナゴ村ニ於テ 町 番地ニ所在セル縱十二「サ」横十二「サ」即
 百四十四平方「サ」二時租借トシテ寫眞用家屋建築ノ爲メ予ニ貸
 與セリ

第二 該地區ヲ予ニ交付スルニ當テ其使用料金ハ定メサリシ然レトモ後
 日東清鐵道會社ニ於テ其料金ヲ定メラル、時ハ其割合ヲ協定ノ上納付
 スヘキコト及會社ニ於テ土地使用ニ關スル規定法則ヲ設ケラレタル時
 ハ該法文ニ從フヘキコトヲ確認ス

第三 予ニ付與セラレタル地區ハ東清鐵道會社ノ承認ヲ得ルニアラザレバ他人ニ交付スルノ權ナキコト及之ニ所在セル建築物モ亦同會社ノ承認スルニアラザレバ他人ニ賣渡讓與スルノ權ナキコトヲ承認ス

第四 會社ヨリ付與セラレタル地區ニシテ會社ノ必要上返却ヲ命セラルル場合ニハ直ニ該地區ニ建築セル建物ヲ取拂ヒタル上會社管理ノ下ニ返付スヘシ之カ爲メ會社ニ向テ建物ノ取拂地所ノ返付等ヨリ生シタル損害ノ補給賠償及如何ナル要求物件ヲモ請求セサルヘシ

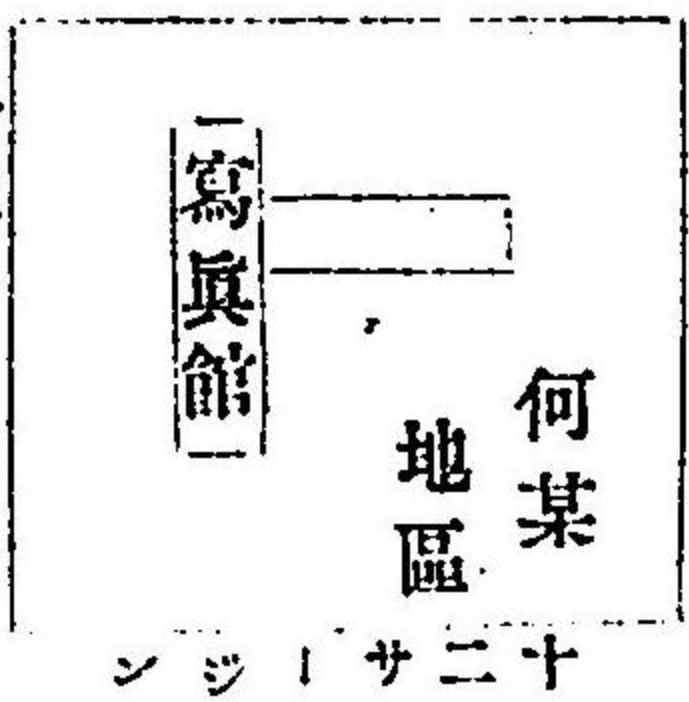
第五 本證作成ノ日ヨリ起算シテ三ヶ月以内ニ該地區内ニ建物建築ニ着手セサル時ハ該地所ハ予ノ使用權ヲ離レ會社ノ管理ニ屬スヘキ者トス而テ又之カ爲メニ生シタル損害ノ補給賠償等ハ會社ノ負フ所ニアラス

日本人 某 署名

手書ナルコトヲ確認ス

而シテ此證書ヲ差入レタ日本人ハ左ノ如キ圖面ヲ地所掛事務所カラ貰ツタ

ト云フコトデス



アブラメスキー記名

此アブラメスキー「ト云フ人ハ地所掛主任技師ダサウデス右ノ日本人ハ成規ノ手續ヲ經テ東清鐵道會社建築部ヨリ直接ニ土地ヲ借受ケタルモノト見エマシテ家屋建築ノ許可ヲ受ケタコトヲ證明ス可ヘキモノヲ立派ニ持ツテ居マス併日本人ハ皆必シモ此ノ如キ完全ノ手續ヲ經タノデハ無イサウデス日本人中地所ヲ現ニ使用シ又ハ使用シ得ルノ地位ニ在ルモノ、姓名ヲ舉ケテ見マス

寫眞業 菊池正三氏

雜貨商 德永茂太郎氏

雜貨商 杵淵清一郎氏

貸座敷 吉丸甚助氏

合名貸席 小田卯一郎川澄徳ノ兩氏

ラムネ製造業 中嶋馬太郎氏

時計商 西角新三郎氏

橋本鐵次郎氏

外ニブーツカ即チ小出店ヲ持ツテ居ルモノガ兩三名アラウカト思ヒス
右地所使用者ノ中テ東清鐵道會社技師長ガ定メマシタ完全ノ手續ヲ踏ミタ
モノト前ニ申シテ略式ノ手續ヲ踏ミタモノト兩様有ル様デスガ其中當初ヨ
リ前ニ申シタ條件ニ依リテ地所ヲ借受ケテ家屋ヲ建築シタモノガ五名支那
人カラ地所家屋ヲ買受ケ其地所ニ家屋ヲ建築シタルモノガ一名地所ヲ借受
ケナカラ未タ家屋ヲ建築セナイモノガ二名ダト云フコトデス
又地方ニ分ツテ見レバ右ノ内蘆ハルヒンニ在ルモノガ三名新市街ニ在ルモ

ノガ一名プリスタニニ在ルモノガ四名ダト云フコトデス
是等ノ日本人并ニ露西亞人支那人デアリテ土地ヲ使用シテ居リタルモノハ
概シテ自分自身ニ所有主ノ積デアリタラシイ御入用次第何時デモ土地ヲ明
渡シマスト云フ位ナ證書ヲ差入レテ置イテ自分自身ニ所有主ノ積ダト言ッ
タラ何ダカ蟲ノ善イ話デスガ露西亞人モ支那人モ日本人モ皆即チ内外人ノ
區別無シニ同シ様ナ證書ヲ差入レ同シキ條件ノ下デ土地ヲ使用シテ居タノ
デアリテ東清鐵道會社ガマサカ勝手ニ土地ヲ取上ルコトガ無イト信シテ居
タモノデスカラ誰モ彼モ事實上土地ノ所有主ノ積デ有リタラシイ其故ニ右
申シタ様ナ證書ヲ差入レテ置キナガラ所有主同様ニ地所ヲ勝手ニ他人ニ賣
リタモノモ有ル斯フ云フモノハ露西亞人ニモ支那人ニモアル日本人ニモア
ル即チ右ニ申シタ日本人ノ中ニ實際自分ノ使用權ヲ他ノ日本人ニ賣リタモ
ノガ有ルト云フコトデス
斯ノ如ク誰モ彼モ自分自身ニ所有主デ有ルト思ツテ居ル内ニ東清鐵道會社
ハ何某ヲ假地主ト認ムルト云フ廣告ヲシテ其廣告ニハ澤山ノ姓名ヲ書イテ

有リテ其廣告ノ翻譯文寫ハ此ニ在リマス

廣告

二月二十五日并ニ三月二十二日東清鐵道技師長ノ登錄ニ基キ「プリスタニス
ンガリ」ニ於ケル下記人名ノ所有地ハ「プリスタニス、スンガリ」ノ圖面寫「スンガリ」
區長ノ記名技師長ノ制定シタル方式ニ依リ提出シタル契約書ニ基キ今後土
地競賣及永年租借條件公示マデ一時土地所有者タル事ヲ認定ス

(番號及姓名略ス)

コハ本年ノ出來事デ有リマシテ此ニ二月又ハ三月トアルハ本年ノ二月三月
デス即チ本年ノ二月及ヒ三月頃ニ至リ是迄ノ土地使用者ヲ假所有主ト認メ
テ其姓名ハ誰々デ有ルト言ツテ廣告シタノデス假所有主ト認メラレタルモ
ノハ露西亞人支那人ノミデ日本人ハ假所有主ト認メラレ無カリタ唯一人如
何ナル理由ニ依テカ知リマセヌガ露西亞人支那人同様ニ假所有主ト認メラ
レマシテ廣告姓名中ニ其姓名ヲ記載シテ有リタト云フコトデス
之ヲ要スルニ東清鐵道會社ガ「ハルビン」ノ土地ヲ租借シテ之ヲ開クコト、シ

マシテカラ露西亞人モ支那人モ日本人モ皆同様ノ證書ヲ會社ニ差入レタ其
文句ニヨレバ御入用次第何時デモ土地ヲ返上シマスト云フ位ノ條件ヲ付シ
テ土地ヲ借用シタニモ拘ハラズ大抵自分等ハ本當ノ所有主ニナルダラウト
信ジテ居タ其際ニ鐵道會社ハ廣告ヲシテ露西亞人ト支那人ノミチ假ノ所有
主ト認メテ日本人ヲ假所有主ト認メ無カリタ
斯フ云フ次第デスカラ露西亞人支那人ノ權利ハ一通確カマリタケレドモ日
本人ノ權利ハ益々曖昧ニナリタノデ日本人一同大騒ヲシテ今度ハ露西亞人
支那人同様ニ假所有主ト認メテ欲イト云フコトヲ言出シタ併ナガラ「ユゴ
ウ」氏初メ露西亞人ハ中々承知シテ吳ナイ此事ニ付テハ浦潮斯德ノ日
本貿易事務館ノ役員カラモ其他ノ役員カラモ随分交渉シテ見タラシイ又私
ハ誰ノ命ヲ受ケタト云フコトモアリマセヌガ丁度「ハルビン」ニ居合シタモノ
デスカラ日本人ニ同情ヲ表スルモノ、常トシテ自身ニ「カザルキン」氏「ユゴ
ー」氏ニ尋ネテ見タ併ナガラ彼等ハ頑トシテ私共ノ言フコトヲ聞入レ
ナイ私ガ「カザルキン」氏ニ逢ツタ時「カザルキン」氏ハ斯フ言ツテ居マシタ「露西

亞人ヤ支那人ハ假所有主トナリ度ト言ツテ申出マシタカラ假地主トシテ遣
 リマシタ日本人ノ方ハ何トモ申出無カリタカラ棄テ、置キマシタ日本人ノ
 方カラ願出無イノニ此方カラ願出セイト云フ必要モ無カリタカラ其儘ニナ
 リテ居マス今カラデモ假地主トナリ度ト言ツテ願出レバ隨分假地主ニナラ
 レマセウト後カラ考ヘテ見マスト「カザルキン」ノ言ツタコトハ變ダト思ツタ
 デス露西亞人ト支那人トノミガ假地主タルコトヲ請求シタト云フハ全ク無
 根ノ事ニ相違イ「カザルキン」氏ハ何ニカ爲メニスル所有リテ出鱈目ノ事ヲ言
 ツタノデス是ヨリモ「ユゴーウツナ」氏ノ言ツタ事ハマダ正直デス同氏ハ斯フ
 言ヒマシタ「露西亞人モ支那人モ日本人モ皆同様ノ證書ヲ差入テ土地ヲ借リ
 タルニ相違有リマセス又御入用次第何時デモ土地ヲ明渡スト云フ條件ガ有
 マシタケレドモ露西亞人ト支那人トチ假地主ト認メマシタ併支那トノ契
 約ニヨレハ外國人ニ土地ノ所有權ヲ與フルコトガ出來ナイコトニナリテ居
 マスカラ日本人ノミナラズ總テ外國人チ假所有主ト認メ無カリタ是ハ支那
 トノ契約ガ有ルカラ外ニ仕方ガ無イデス私モ實ハ日本人ノ最負チシタイノ

ダケレトモ支那トノ契約ガアルカラ御氣ノ毒ナガラ日本人チ假地主ト出來
 ナイデス併滅多ニ日本人チ逐出ス考モ持ツテ居ラヌトサテ「ユゴーウツナ」
 氏ガ日本人ノ最負チシタイナド、言フハ信セラレヌ併「ユゴーウツナ」氏ノ
 言ツタ所ハ一通要領ヲ得テ居ルデス既ニ世ノ中ニ發表ニナリテ居テ誰デモ
 知リテ居ル千八百九十六年ノ東清鐵道契約ニ「ハルビン」ノ租借ノ事ヲ書イ
 テ無イガ實ハ此等ノ點ニ付テ露西亞ト支那ト祕密條約ガアルニ相違無イ千
 八百九十六年ニ所置「カシニ」條約ガ結バレタト言ツテ大評判デアリマシタ
 ケレトモ露西亞政府ハ之ヲ否定シテ居マシタ果シテ評判通ノ條約ガ結バレ
 タカ何ウカ其點ハ分明デ有リマセスケレトモ兎ニ角其際何ニカ祕密契約カ
 結ハレタニ相違ナイ既ニ世ノ中ニ發表ニナリテ居ル東清鐵道契約ヲ讀ンデ
 御覽ナサイアレニハ妙ナ文句ヲ書イテアル其始メノ書出シガ變デアニアノ契
 約書ヲ讀ンデハ之ヲ締結シタ前ニ何カ祕密條約ヲ結スンデアルト云フコト
 チ推定セネバナラヌ又現ニ祕密條約ヲ結ンダト云フ評判デス其祕密條約ニ
 ヨルト云フト「ハルビン」ノ地所ハ露西亞人ト支那人丈ハ所有シ得ルケレトモ

其以外ノ國民ニハ土地ノ所有權ヲ與ヘ無イト云フコトニナリテ居ルト思ハ
 レマス此ノ如キ秘密條約ガアリトスレバ「ユゴーウキツナ」氏ガ日本人ヲ以テ
 土地ノ假所有主トスルコトガ出來ナイト云フノハ一通要領ヲ得テ答ト謂ハ
 ナケレバナリマセヌ事情既ニ此ニ至リタモノトスレバ日本ノ役人ガ「ユゴー
 ウキツナ」氏ニ向テ何ト理窟ヲ言ツテモ其理窟ハ練ニ釘デス「ユゴーウキツナ」
 氏ハ之ヲ聞入ル、氣遣ハ無イ其處デ私ノ最モ憤慨ニ堪ヘ無イノハ「ユゴーウ
 キツナ」氏ノ言又ハ處分デ無イデ秘密條約ノ存在デ有リマス秘密條約有ルカ
 爲メニ鐵道會社ハ露西亞人及ヒ支那人ニ對シテ土地ノ假所有權ヲ與ヘナガ
 ラ日本人及ヒ他ノ外國人ヲ以テ假所有主トセナイノデアリマス外國人ト云
 ヘバ色々ノ國ノ人ガ澤山居ル様ニ聞エマスケレトモ佛蘭西人獨逸人亞米利
 加人皆合シテ少シカ居マセヌデ外國人ト云フ外國人ハ大抵日本人デアリマ
 スカラ畢竟此秘密條約ハ日本人ニ對スル爲メデアリテ結局日本人ヲ以テ假
 所有主トセナイノニ始メカラ定メテアルノデス
 假リニ一步ヲ讓リテ秘密條約ハ成立シテ居ナイトシテモ日本人ヲ滿州カラ

排斥スルコトハ露西亞大政府ノ意デアリテ日本人ニ土地ノ所有權ヲ與ヘナ
 イコトハ始メカラ定メテ有ルノデ「ユゴーウキツナ」氏等小役人ガ勝手ニ定メ
 タノデハ有ルマイト思フ其デ日本人ヲシテ露西亞人支那人同様ニ土地ノ假
 所有權ヲ得セシメウト思ツテ浦潮斯德ノ貿易事務館ナドデ幾ラ騒イダ處デ
 益ニ立ツ筈ガ無イ若シモ日本人ノ主張ヲ通ホス積ナラバ日本ノ中央政府ガ
 戰爭ヲスル覺悟デウト強ク露西亞ノ中央政府ニ交渉セテハナラヌ實ハ言
 論ノ上テ日本人ノ主張ヲ通ホスハ六ヶ敷矢張私が平常言フ通始メカラ滿州
 ラ取ル考デ戰爭スル方ガ善イデセウ私が戰爭論ヲ主張シマスト直ク新聞ナ
 ドデアノ陳腐ナ戰爭論ナドト言ツテ冷カサレマスケレトモ其デハアノ連中
 ノ平和論ハ新奇デスカ知ラヌ
 「ハルビン」ノ土地問題ニ付テ今一ツ言ハナケレバナラヌ事カアリマス其ハ土
 地ノ競賣一件デス本年六月一日東清鐵道會社建築部ガ土地ノ競賣ヲ執行シ
 マシタ其規則ハ此ニ有リマス

哈爾濱プリスタニ、舊哈爾濱、ボクシラニ、ナナヤ

第一回土地競賣規定大要

- 第一 該土地ノ賣渡ニ就キテハ全然タル所有權ノ交付ニ非スシテ租借地トシテ賣渡スモノナリ
- 第二 該土地ハ露清兩國民ニ限り賣渡スモノトス
- 第三 該土地ノ賣渡ニ關スル規定ハ概テ「ザア」リニイ市土地賣渡規定ニ準スルモノトス
- 第四 該土地ノ租借期限ハ八十年間トス
- 第五 土地購入ノ代金ハ一時ニ前納スルモノトス
- 第六 清人中商店其他主要ナルモノヲ除ク外ハ所定ノ一區畫内ニ漸次移住セシムルモノトス
- 第七 土地ノ購入ヲ望ムモノハ可成速ニ其筋ニ申出ツヘシ
- 第八 第一回ノ土地競賣ハ設計圖中全屋敷數中ノ百分ノ五乃至十ヲ競賣ニ付スルモノトス
- 第九 次表ノ金額ヲ以テ競賣ノ最低額ト爲ス

新市(ノイグロト)

一等地	二「サー」シエン平方ニ付	十留
二等地	同	七留
三等地	同	四留
四等地	同	二留
「プリ」スタニ、スンガリ」(松花江橋樑地方)		
一等地	二「サー」シエン平方ニ付	二留
二等地	同	一留
三等地	同	五十哥
「スタ」ールイ、ハルビン」(舊哈爾濱)		
一等地		一留
二等地		五十哥
「ボク」ラニ、イナヤ」(沿海州ト滿州トノ國境附近ニアリ)		
一屋敷	(八百「サー」シエン平方)	百留

第十 租借後二年以内ニ租借人ハ建築物或ハ何等カノ施設ヲ爲スノ義務アルモノトス但シ此ノ施設上ノ費用ハ左ノ金額ヨリ少ナカラザルヲ要ス

新市(ノイグイゴード)

一等地 一「サーシエン」平方 十五留

二等地 同 十二留

三等地 同 九留

四等地 同 六留

「プリスタニ、スンガリー」及「ビ」スタイルイ、ハルビン」 六留

一等地 一「サーシエン」平方 六留

「ボクラニ、チナヤ」停車場附近ノ市街地 六留

一屋敷 八百「サーシエン」平方 百留

第十一 「プリスタニ、スンガリー」ニ在ル工場地區(プリスタニ、四端ニ在ル地目下工場現存ス)附近

ノ土地ハ東清鐵道工夫人ノ移住地ニ當ツベキ目的ナルヲ以テ競賣ニ附セ

サルモノトス

第十二 競賣ノ結果或ル土地ヲ購入シ得タルモ若シ意外ニモ既ニ假地主(下

チノ地注)ノ其地區ニ若干ノ建物ヲ建テ居ルモノアルトキハ競賣購入者ハ購

入ノ權利ヲ失シ從前ヨリノ假地主ハ競賣購入者ノ入札金額ヲ其筋ニ納入

シテ其土地ヲ持續スルモノトス

現ニ競賣ニ付シタ土地ハ皆建築物ノ無イ空地デ有リマシテ露西亞人支那人

ノ家屋ノ建テアル處ハ勿論日本人ノ家屋ノ建テアル處ヲモ競賣ニ付シマセ

ンデシタ併日本人ノ家屋ヲ建テアル處ナドハ逐々競賣ニ付セラル、デセウ

「ユゴーウキツ」氏ナドハ日本人ノ最負ヲシタイナド、旨イ事ヲ言ツテ居マ

スガソソナ言ハ當ニナリマセヌ他日必ズ日本人ノ土地ヲ競賣ニ付スルデセ

ウ其時ニハ個人タル日本人ハ何カ故障ヲ述ヘラレマセウカ日本人カラ入レ

タ證書ヲ見レバ御入用次第何時デモ土地ヲ明渡シマスト書イテアリマスカ

ラ此方カラ理窟ヲ言ヘバ先方カラハ倒シマニ理窟ヲ言ツテ日本人ヲ凹マス

コトモ出來ルデセウ其時ニ日本ノ在留民ガ露西亞人ヤ支那人ノ事ヲ例ニ引

イテ同等ノ取扱ヲ受ケタイト言ツテモ先方ハ取合フ氣遣ハ無イ矢張此點ニ

付テハ日本ノ中央政府ノ手腕ヲ煩ハサネバナラヌ併ナガラソノ事ガ生シ
テカラ後ニ外交談判ナドヲ遣リテ居テハ遲延デス幾度言ツテモ同シ事ダケ
レトモ日本ノ中央政府ハ今日デモウソト強ク腰ヲスエテ雄腕ヲ奮フテ善カ
ラウト思フデス

土地問題ノ説明ハ是デ止メテ置イテ次ニ「ハルビン」ニ於ケル日本人ノ營業問
題ニ移リマセウ

「ハルビン」デハ日本人ガ新ク入リテ何か營業ヲ致サウトシテモ露西亞人ハ其
ヲ許可セナイ「ハルビン」ハ新ク開イタ場所デスカラ其處デハ錢儲ガ餘程大イ
此處一番ト思ツテウソト働ケバドシ々々儲カル様ニナリテ居ルケレドモ日
本人ニ新シキ營業ヲ許可セナイノニ始末ガ行カヌ隨分他處カラ「ハルビン」
ニ入りテ一儲シタイト言ツテ居ル日本人モ有リマスケレトモ何分露西亞人
ガ營業ヲ許ルシテ吳ナイノニ困テ居マス舊クカラ「ハルビン」ニ滞在シテ土地
マデモ借用シテ地主ノ積デナヤソト濟マシテ居タ人デモ是マデ自分ガ從事
シタヨリモ違ツタ營業ニ從事セウト言ツテモ露西亞人ハ之ヲ許可セナイ例之

理髮師ガ金ノ貯蓄ガ出來タカラシテ今度ハ其金ヲ以テ雜貨店ヲ開カウトシ
テモ露西亞人ハ之ヲ許可セナイ又雜貨店ニ於テ是マデ酒ヲ賣リテ居ナカリ
タガ今度ハ酒ヲモ賣ラウトシテモ露西亞人ハ之ヲ許可セナイ詰マリ是マデ
從事シタヨリモ違ツタ營業ニ從事セウトシテモ一切之ヲ許可セナイコトニ
ナリテ居ル其代リ現ニ從事シツ、アルトコロノ營業ニ對シテハ別ニ營業稅
ヲ課セザル様デス誠トニ不規律ナルモノデス「ハルビン」ノ行政ハマダ頗ル不
整頓デ之カ爲ニ甚タ奇妙ナル現象ノ生スルコトガアリマス本年五月即チ露
曆ノ五月ニ當リ復活祭即チ「ハス」ト云フ祭カ有リタ此「ハス」ノ祭ノ二三日
前ハ日本ノ大晦日ノ様デ商賣ガ頗ル繁昌スルサウデス其處デ日本ノ商賣人
ガ大ニ金ヲ儲ケウト思ツテ待構ヘテ居マシタ其矢先ニ警察署カラ命令ヲ發
シ日本人ハ店ノ看板ヲ撤去セヨ營業ヲ止メヨト言ツテ來タ斯ル命令ニ接シ
タ日本人ハ一時大ニ狼狽シタ併又考ヘ直シタ何ニ露西亞人ノ好物ハ金ダ丸
イモノニ穴ノ明イタノ、ア、ソノナ小サナノデハ足ラヌ紙ニ字ヲ書イタノ其チ
幾枚ヲ乞食ニ遣ルト思ツテ吳テ遣リタラハ善カラウト云フノデ一同協議ノ

上五百留ヲ集メテ是ハ「パス」ノ贈物デ有ルト云フ口實デ警察署ノ誰トカニ
 恭シク呈シタ夫ノ乞食ニ忝シク吳テ遣リタト云フコトデスサウスルト警察
 署ノ乞食ガ鬼ノ首ヲ取リタ様ニ餘程悦ソデ其翌日早速日本人ニ開店ヲ許可
 シタト云フコトデス是ハ極端ノ例デ毎日生スル様ナ事實デアリマセヌガ要
 スルニ日本人ガ新シキ營業ニ從事セウト思ツテモ露西亞人ガ之ヲ許可セナ
 イ單簡ニ言ヘバ日本人ハ營業ノ自由ヲ失ナツテ居マス是ハ甚ダ不都合ノ事
 デスカラ事理ヲ解スルノ日本人ガ露西亞ノ役人ニ交渉シテ見ルト云フト「ハ
 ルヒン」ノ行政ハ至テ不整頓デ有ルカラ其整頓ノ出來ルマデハ日本人ニ新規
 營業ヲ許ルサ無イ行政ガ整頓出來レバ直クニ日本人ノミナラズ總テ外國人
 ニ營業ヲ許可スル積マ「ト言ツタサウデス」其ナラバ何時行政ガ整頓出來ルカ
 ト言ツテ尋ネテ見ルト云フト「一兩年待テハ屹度整頓出來ル」ト言ツテ答ヘタ
 私ガ想像シテ見ルト云フト露西亞人ノ行政ハ未來永劫整頓スルコトハ無イ
 デセウガ其ニモ拘ハラズ露西亞人ハ「ダール」ノ例ニ倣ツテ「ハルヒン」ヲ外國
 人一般ニ開放シ營業稅ヲ取テ誰ニデモ營業ヲ許可スルニ至ルデセウ唯斯ル

時機ガ何時來ルカ其ハ今ヨリ想像スルコトハ六ヶ敷又縱令斯ル時機ガ來ル
 コトガ有リテモ可成日本人ヲ不利益ノ地位ニ置クダラウト思フ「ダール」ニ
 於テモ露西亞人ハ決シテ日本人ヲ他ノ外國人ト同等ノ地位ニ置イテ無イ何
 レ其事ハ「ダール」ノ事ヲ御話致ス時ニ申シマセウ何デモ露西亞人ハ日本人
 ガ「ハルヒン」ニ居住スルコトヲ甚ダシク否カリテ居ル「ユゴ」ウ「ウ」氏モ「カ
 ザルキン」氏モ時々此ノ事ヲ思ハズ知ラズ洩ラスサウデス甚シキハ日本人カ
 「ハルヒン」ニ居ルノハ日露ノ親交ニ害ガ有ルカラ可成來テ欲シク無イトマデ
 言ツテ居ル實ハ日本ノ軍事探偵ガ澤山「ハルヒン」邊ニ滞在スルダラウト言フ
 コトヲ恐レテ居ルノデス

以上述ベタトコロヲ要シマスニ日本人ハ滿州ノ首府ト云ハル「ハルヒン」ニ
 於テ露西亞人支那人同様ニ土地ノ假所有主トナラウトスレバ露西亞人ハ中
 々承知シテ吳ナイ日本人ガ新規營業ニ從事セウトスレバ露西亞人ハ之ヲ許
 可シテ吳ナイ滿州ガ露西亞ノ領土タルコトヲ日本人ガ認メレバ露西亞人ガ
 斯ル專横ナ事ヲシテモ致方無イトシテ置カナケレハナラヌカモ知レマセヌ

ガ日本ガ露清密約ヲ破リテ滿州ノ撤兵マデモ迫マリテ置イタノデスカラ右ノ様ナ專横ノ所爲ヲ見テ默テ置ケマセウカ私ハ實地是等ノ事ヲ目撃シテハ誠ニ憤慨ニ堪ヘ無カリタ

「ハルビン」邊ノ地味デスカ其ハ至テ宜シイデスアノ邊デハ木材モ澤山有リ穀物モ澤山アリ頗ル豊饒デス其デ小麥燕麥ハ「ハルビン」カラ他處ニ向テ輸出スル多分西比利亞ノ東部ニ行クデセウ西比利亞ハ西ノ部分ハ縱令豊饒デ無クトモ地味ハ左マデ悪クナイ併東部ハ地味ハ至テ瘦セテ居ル西比利亞ノ中央ニ「イルクツク」カ有ルトスレバ「イルクツク」以テ西ハ左マデ瘦セテ居ナイガ「イルクツク」以東ハ瘦セテ居ル一體西比利亞ノ地勢ハ西ノ方ガ卑クテ東ニ行クニ從テ段々々々ニ高クナリテ急ニ海ニ墜ナルノデスガ其高キ部分ハ頗ル瘦セテ居ル其故西比利亞ノ東部ニ居ル人ハ其食物ヲ滿州ニ仰イデ居ルコトハ誰デモ知リテ居ル事實デス而シテ「ハルビン」ヨリハ瀛車ヲ利用シテモ松花江及ヒ黑龍江ヲ利用シテ穀物ヲ西比利亞ニ送ルコトガ出來ル道理デス私ハ「イルクツク」ニ行ツタコトモ無ク又黑龍江ノ口ニモ行ツタコトハ有リマセムカラ

如何ナル方面へ如何ナル方法ニヨリテ「ハルビン」カラ西比利亞ニ送テ居ルカ詳イコトヲ知リマセムケレドモ多分河ヲ利用シテ穀物ヲ送ル方ガ多クザイマセウ其方ガ運賃ガ廉デアリマセウ兎ニ角「ハルビン」邊ヨリ穀物ヲ西比利亞ニ送ルニ相違無イ試ミニ「ハルビン」ニ於ケル穀物ノ價ヲ聞イテ見ルト小麥ハ「アト」ニ付三十「カペー」ク「燕麥」ハ「アト」ニ付二十五「カペー」ク「ダト」云フコトデス小麥ヤ燕麥ガ澤山アル割合ニ左マデ廉テナイカモ知レマセムガ「ハルビン」デハ總テノ物價ガ貴イ併浦潮斯徳ト比較シテ見テ大差無イ寧ロ安スイ方デセウ兎ニ角「ハルビン」デハ全クノ日本風ノ風呂ガ一回十五「カペー」ク「デ斬髮料ガ八十「カペー」ク「デスガ」一留與フルモノガ往々有ル是デ外ノ物價ヲ類推シテ下サイ外ノ物價ニ比較シテハ小麥ヤ燕麥ハ安イ何デモ西比利亞ニ於ケル小麥ヤ燕麥ノ價ト比較シテハ「ハルビン」ニ於ケル價ガ餘程廉ダト聞イテ居マス又木材ノ價ハ廉デアリテ木炭ハ「アト」ニ付十七「カペー」ク「鑛道」ノ枕木一本三十「カペー」ク「ダサウ」デス其デ穀物ヤ材木ヲ他處へ運搬スルノ世話ヲ燒イテ居テモ「ハルビン」デハウント金儲ガ出來ルダラウト思フ併日本人ガ斯フ

言フ營業ヲスルコトヲ露西亞人ハ許可セナイ日本人ノ新規營業ヲ一切許可セナイデス

地味ハ「ハルビン」ノ近傍ノミ宜シイト云フ次第アリマセヌデ浦潮斯徳カラ「ハルビン」邊マデハ皆宜イト言ツテモ善イ例之ニコリスク邊ハ前ニモ申シタ通平地ガ多イノデスガ其平地ハ概シテ地味ガ善イ西比利亞ヨリ滿州ニ取リ掛ル處デ私ノ旅行シタ部分ニモ山ガ随分有リマスケレドモ樹木モ多クテ草ガ青々ト茂ケリテ居マシタ特ニ滿州ニ入りテカラ後デハ「ハンタヘーザ」邊カラ「トウダヘーザ」邊マデニハ森林蔚蒼トシテ居マシタ一體滿州ノ森林ハ長白山ノ方面ニ澤山アルノデ有名ナル窩集^{ウカシ}ハ皆其邊ニ在ルノデスガ「ハンタヘーザ」邊カラ「トウダヘーザ」邊ニカケテモ可ナリ森林ガ有リテ其材木ハ左マデ善クナイニセヨアノ邊ハ豊饒デ有ルト云フコトヲ證シテ充分ニ餘アリト思フ又「スンガリ」ノ「ステーション」ニ近ク前「チエン」邊デハ畠ガ澤山有リテ穀物ガ澤山出來テ居マシタ併概シテ言ヒマス「ハルビン」以東デハ田野ハ左マデ開ケテ居ラス唯地味ガ飽マデ豊饒ト認メナケレバナラスノデ其證據ヲ澤山見テ

來マシタ「ハルビン」以西デハ地味ガ豊饒デアルノミナラズ田野ハ餘程開ケテ居テ其處ニ植エテアル高粱モ丈カ高ク實ガ澤山出來テ居マス「ハルビン」以西ノ事ニ付テ尙逐テ御話致シマセウ

「ハルビン」ニ到着シマシタノガ九月十一日ノ朝八時半頃デシタガ「ハルビン」ニハ六日計滞在シテ九月二十二日午後七時三十分ニ出發ス可キ汽車ニ乗リテ松永峯治氏ト共ニ「スンガリ」ノ「ステーション」ヨリ旅順^{ルン}「ダルニー」ノ方向ニ向テ出發シマシタ汽車ニ乗リテカラ巡查ガ來テ私ノ姓名ヲ問ヒマシタカラ豫テ浦潮斯徳^{ウチノ}デ製セシメタ露西亞語^{ウチノ}ヲ書イテアル私ノ名刺ヲ與ヘマシタ處其巡查ハ満足シテ歸リマシタ而シテ其時斯フ言ツテ居マシタ「外國人ノ姓名ハ必ズ御尋ネ申スコトニナリテ居マス貴君ノバカリデアリマセヌ」ト

露西亞領及ビ滿州ヲ通行スルニハ旅行券ガ要ル其旅行券ハ露西亞ノ公使又ハ領事ノ與書ヲ付シタルモノデ無ケレバナラス私モ此ノ手續ヲ經テ旅行券ヲ携ヘテ行キマシタケレドモ之ヲ示セト言ハレタノハ浦潮斯徳ニ上陸スル時バカリデス浦潮斯徳ヲ出發スル時ニ之ヲ示セト言ハレマセヌ又「ハルビン」

ニ滞在スル時モ之ヲ示セト言ハレマセヌ一體「ハルビン」ニ滞在スル時ハ到着ノ届書ヲ出サ無ケレバナラヌ様ニ聞イテ居マシタガ私ハ之ヲモ出シマセシデシタケレドモ警察署カラ何トモ言ツテ來マセヌ多分警察署長ト往復シタカラデモアリマセウ「ハルビン」ヲ出發スル時モ姓名ヲ問ハレタハカリテ旅行券ヲ示セトハ言ハレマセシタ旅順ニ至ルノ途中デモ旅順デモ「ダルク」デモ旅順ヲ出發シテ芝罘ニ行ク時デモ旅行券ヲ示セト言ハレタコトハ一度モ有リマセヌ外ノ人ハ浦潮斯德カラ出發シテ滿州ヲ通過シテ旅順「ダルク」邊ニ行ク人ハ大抵何處カデ旅行券ヲ示セト言ハレタノデスガ私ハ一度モサウ云フコトガ無カリタ私ハ例外デアリタト見エマス

サテ「ハルビン」ヲ出發セウト云フ爲メ「スネガリ」ノ「ステーション」デ瀋車ニ乘リマシタガ瀋車ハ定刻ヨリ三十分計後レテ夕刻八時頃ニ出發シマシタ

「ハルビン」以西ニハ人口可ナリ繁殖シテ居ルカラ「ステーション」デ食料ヲ得ルニ便利ダラウト思ツテ居マシタガ反テ「ハルビン」以東ヨリモ不便ニ感シマシタ豫期ニ反シテ居タカラサウ感シタノカモ知レマセヌ此食料ヲ得ルト云フ

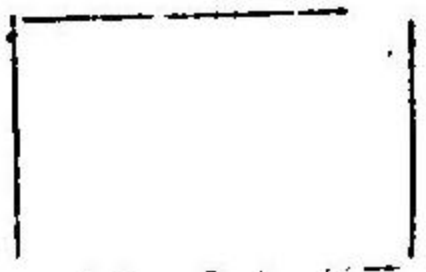
コトニ付テ一通御話致シマセウガ烏蘇里鐵道ノ瀋車ニハ食堂列車ガ付テ居マシテ食時ニナレバ乗客ハ勝手ニ其處ニ入りテ食事ヲ爲スコトガ出來マスカラ至極便利デ有リマシタ「グロデオ」カラ東清鐵道瀋車ニ乘リテ「ハルビン」ニ向ヒマスト云フト其瀋車ニハ食堂列車ガ付テ居マセヌデ食事ヲ爲サウト云フ人ハ停車時間ノ長イ「ステーション」デ下車シテ「ブフェ」ニ行ツテ食事ヲ爲スコトガ出來マス私モ時々「ブフェ」デ食事ヲシタ事ガアリマスガ給仕人ガ少ナイノデ中々食物ヲ持ツテ來無シテ閉口シタコトガ有リマス折角持ツテ來タカト思ヒマスト云フト時計ヲ見レバ大分時間ガ過ぎ去リテ最早發車時刻ニナラウトスルノデ大急ギニ急イデ食事ヲ爲シテ急ニ錢ヲ拂ツテ瀋車マデ走りタコトガアリマス時トスルト澤山ノ乗客ガ發車ノ瀋笛ヲ聞イテ速カニ總起立トナリテ錢ヲモ拂ハズニ瀋車マデ走ルコトガ有ルサウデス其デモ「ブフェ」デ食事ヲ爲スコトガ出來レバ先ヅ便利ト言ハナケレバナリマセヌ停車時間ノ長イ「ステーション」デモ「ブフェ」ガ有ツテモ唯食品ノミ買フコトガ出來テ其處デ食事ノ出來ナイ處ガアリマス其故旅行者ハ食品ヲ携ヘテ旅行ス

ルノモ一策ヲセウガ私ハ處々ノステーションデ食品ヲ買ヒマシタ流車ノ中
 デ自分ノ座デ食事ヲ爲スノデスカラ是非藥罐紅茶砂糖ヲ携ヘテ行カナケレ
 ハナラヌ湯ハ何處ノステーションニテモ有リマス唯デ吳レマスハルビン以
 東ハ先ヅ斯フ云フ有様デシタガハルビン以西デハ處々ノステーションデ同
 シク食料ヲ賣ルニシテモ其食料ハ可ナリ善イダラウト想像シテ居タニ豈圖
 ランヤ善イ食料ヲ見出スコトガ出來ナクテ支那人ノ食フ様ナモノヲ買ツテ
 食フタコトガ有リマスクワンチエンツイノステーションノ如キニ於テハ
 露西亞人ノ食フ様ナモノヲ賣リテアリタカモ知レマセヌガ私ノ手帳ニハ雞
 一匹買ツタ様ニ書イテアル矢張支那風ニ豆ノ油ヲ揚ゲタノデス其雞ハ私ノ
 手帳ニ一匹二十五錢ト書イテアル安イモノデス
 「クワンチエンツイ」ノステーションニ着イタノハ九月二十三日即チハルビ
 ン出發ノ翌日デ午前十一時ヨリ十二時半頃マデ大凡一時間半ホド停車シテ
 居タ一時間半ノ停車ハ平均ヨリ長イ方デスガ東清鐵道デハ一時間位ノ停車
 ハ普通デス私ノ手帳ニハ「此處支那人多ク露西亞人少シ」ト書イテ有リマス大

抵ノ處デハ支那人ノ方ガ多イデスガ特更ニ手帳ニ斯フ書イテアルトコロコ
 リ考ヘテ見マスニ多分クワンチエンツイノステーションデ特ニ支那人ヲ
 多ク見タノデセウ

其日クワンツイレノステーションニ着キマシタ處ハルビンニ居リマシタ時
 ヨリモ冷氣ガ加リテ段々寒クナリテ來マシタ別ニ雨ハ降リテ居マセンデシ
 タガ曇リテ居タカラデアリマセウクワンツイレデハ露西亞騎兵ノ訓練ヲ見
 マシタ又支那ノ巡查ノ背ヲ見ルト云フト奉天懷德縣馬隊ト書イテ有リマシ
 タ露西亞人ハ滿州ノ騎兵ヲ願デ使ツテ鐵道ノ番ヲサセ支那人ノ取締ヲサセ
 テ居ルノデス無論此外ニ露西亞人ヨリ成立ツテ居ル國境守備隊ガ有リテ鐵
 道ヲ守備シテ居マス此ノ守備隊ノ駐屯所ガ鐵道ノ線路三マイル毎ニ有リマ
 シテ其形ガ大抵一定シテ居ル先ヅ斯フ云フ形デス

入口



入口

入口ガニツ反對ノ側ニ在リマシテ其處カラ都合好ク見張リノ出來ル様ニナ
リテ居マス又其構造ハ日本ニ在ル様ナ煉瓦デ無ク石ヲセメントデ繋ギ合セ
タ様ナモノデ塀ヲ造リテアル固ヨリ小サナモノデ宏壯トハ言ハレマセヌガ
小奇麗デ堅固ニ出來テ居マス此ノ如キ小サナ兵舎ノ外尙要所要所ニハ大キ
ナ兵營ガ立派ニ出來テ居テ滿州ハ真ニ名ニ於テ露西亞ノ領土ト思ハレル位
デス

「クンヅーレン」ノ「ステーション」デハ日本ノ男一人女二人ヲ見マシタ此「ステ
ーション」ニ達シタ前ニ時々日本人ニ逢ヒマシタガ此ノ「ステーション」ヲ過ギテ
後金州ノ「ステーション」ニ至ルマデ日本人ヲ見マセンデシタ「クンヅーレン」カ
ラ金州ニ行クマデニハ奉天、烟臺、遼陽ノ様ナ處ヲ通過シタノダケレドモ奉天
烟臺邊デハ大雨盆ヲ傾ケル様ニ降リテ居タカラ日本人ヲ見ナカリタノカモ
知レマセヌ

「クンヅーレン」以東ハ樹木モ澤山有リ草モ青々トシテ繁茂シテ居リマシタガ
「クンヅーレン」以西ハ漸々ニ地味ガ悪クナリテ居ル様ニ見エマシタ併奉天邊

マデハ地味ハ先ヅ宜イ方デス加フルニ滿州ノ原野ハ茫々漠々際涯無ク其氣
象誠ニ廣大デ逆モ日本ナドデハ見度トモ見ラレマセヌ水天一碧ト云フコト
ハ水ト天ト連ナリテ居ル光景ヲ評シタ語デアリマスガ滿州デハ平地ト天ト
連ナリテ其際涯ヲ見ナイ處ガ澤山有リマス而シテ其ガ豊饒デ有リマスカラ
滿州デ生ズル豆、麥、等ハ實ニ大シタ石高デス今日ハマダ開ケテ居ナイ原野ハ
澤山有ルケレドモ之ヲ悉ク開イタラバ農作物ノミニ付テ言ヒマシテモ滿州
ハ世界ノ大富源ト謂ツテモ宜シイデス又其ノ處ニ牛馬又ハ豕ヲ繁殖セシメ
ルナラバ必ズ大ニ繁殖スルニ相違無イ而シテ其外ニ鑛山モ隨分澤山有リマ
スカラ滿州ヲ占領スルモノハ實ノ庫ヲ掌握スルモノデアリマス私ガ始メテ
滿州取ル可シノ議論ヲ吐イタ時ニ日本ノ政治家中冷笑シテ私ノ議論ヲ駁撃
シタモノガアリタ「アンナ荒漠ナル土地ヲ取リテモ益ニ立タナイ」ト言ツテ駁
撃シマシタ若シ荒漠ト云フコトガ人ガ住マツテ居ラスト云フ意味ナラハ右
ノ言ハ實ニ無意味デアリマシタ「ノンセンス」デアリマシタ何故ト言フト人ガ
現今住マツテ居無クトモ若シモ其土地ガ豊饒デアルナラハ之ヲ取リテ益ニ

立タヌ筈ハ無イ若シモ荒漠ト云フコトガ地味ガ瘦セテ居ルト云フ意味デア
 ルナラハ其言ハ全然間違テ居ル滿州ノ大半特ニ東部ハ至テ豊饒デス政治家
 ニシテ之ヲ知ラ無カリヲノハ甚ダ迂濶デス
 九月二十四日朝七時三十五分奉天ノ「ステーション」ニ着キマシタ「ステーション」ヨリ市街マデハ甚ダ遠イ日本ノ六里計有ル様ニ聞イテ居マス露西亞人ガ
 鐵道ヲ布設スルニ當テハ舊市街ヨリ特更ニ距リタ處ニ「ステーション」ヲ設ケ
 ル是ガ則チ露西亞流デ有リマシテ中央亞細亞ノ大鐵道ヲ架設シタ時ニモ「メ
 ルヴ」ノ「ステーション」「ボジカラ」ノ「ステーション」「サマルカンド」ノ「ステーション」
 「チ特更ニ舊市街ヨリ距リタ處ニ造リタ西比利亞鐵道」ノ「ステーション」モ皆
 其通テ孰レモ舊市街ヨリ距リテ居ル奉天ノ「ステーション」モ矢張其通テ舊市
 街ヨリ距リタ處ニ造リテアリマス私ハ當初奉天ノ市街ヲ見ルノ考デ有リマ
 シタガ奉天ノ「ステーション」ニ着イタ頃ハ盆ヲ傾ケル様ニ瀧ノ様ニ雨ガザ
 ヲト降テ居マシテ凄マシイ光景デ有リタサウ云フ時ニ道路ガ泥濘壓ヲ沒ス
 ルノ有様デ非常ニ惡シイ其ノ處ヲ支那風ノ馬車デ通行シタナラハ身體ハ濕

リ泥デ塗レルデ有リマセウカラ止ムヲ得ズ奉天ノ市街ニ行クコトヲ止メニ
 シマシタ今カラ考ヘテ見レバ甚ダ残念デス
 奉天デ米人二名支那人一名都合三名同道シテ乗車シタノニ逢ヒマシタ是ハ
 唐山ノ炭鐵會社ノ役員タト言ツテ居マシタ又露西亞ノ軍醫一名遼陽ニ行ク
 ノニ逢ヒマシタ其軍醫ハ奉天ニ露西亞ノ兵卒千五百人居ルト言ツテ居マシ
 タケレトモ果シテソナ小サナ數カ何ウデスカ知ラヌ私ヨリモ後ニ大阪朝
 日新聞社ノ内藤虎次郎氏ガ滿州ニ行キマシテ同氏ハ奉天ニモ入りマシタ同
 氏ノ語ルトコロニ據ルト云フト奉天ニハ餘程澤山ノ露西亞兵ガ居リテ嚴重
 ニ市街ノ番チシテ居ルト云フコトデスシテ見レバ奉天ニ居ル露西亞兵ハ連
 モ千五百人ノ様ナ少ナイコトハアルマイト思ヒマス全體私ノ行ツク頃ニハ
 滿州ニ居ツタ露西亞兵ハ總テ十萬計ト考ヘテ居マシタ若シ此考ガ大體當
 リテ居ルナラハ奉天ニハ少クトモ一萬ヤ一萬五千ハ何ウシテモ居ナケレハ
 ナラヌト思ツテ居マシタ奉天ニハ支那ノ將軍モアリ副將軍モアリテ支那兵
 ガ數萬アル様ニ聞イテ居マシタガ私が通りタ頃聞イテ見マスト支那人ハ澤

山アリテモ其武器ハ概シテ益ニ立タス露西亞人ガ携帯ヲ許ルシタモノ、外ハ支那兵ハ之ヲ携帯スルコトガ出來ナイカラ支那兵ノ武器ハ馬賊ノ武器ニ劣ルト云フコトデス日本人ガ露清密約ヲ破リテ滿州ノ撤兵ヲ行ハシムルコトニシテモ滿州ハ矢張り露西亞ノ權力ノ下ニ在リマス

奉天ハ露西亞人ノ頗ル重視スルトコロデ日本人ガ奉天ニ入ルノナ餘程否カリテ居ル是ニ由テ觀マスレバ滿州西部ニ於ケル露西亞兵ノ重ナル根據地ハ奉天ニ在ルモノト見エル若シ露西亞人ガ朝鮮ニ兵ヲ送ルトスレバ何レ海城ヤ遼陽ヤ烟臺ナド朝鮮ニ近イ土地ノ兵ヲ先ツ鳳凰城ニ送り然ル後之ヲ朝鮮ニ入ル、コト、思ヒマスガ其後ニ在ル根據地ハ無論奉天デ有ルト考ヘマス

私ハ軍事ヲ知リテハ居リマセムガ素人考デモ大體ハ間違ツテ居マスマイ

九月二十四日午前十一時ニ烟臺ニ着キマシタ流車ガ烟臺ニ止マリテ居タ頃モ大雨蕭々トシテ降テ居マシテ長時間ノ降雨ノ爲メニ河水大ニ漲キリ流車ハ之カ爲メニ進行スルコトガ出來無クナリタノデ停車時間ガ益ス長クナリタ何時發車スルタラウカト言ツテ聞イテ見ルト云フト兩三日滞在セナケレ

バナラヌカモ知レヌ速クトモ明日デ無ケレバ發車セマイト云フ答ヲ得タ其時ハ私モ可ナリ失望シタ何故ト云フト東清鐵道ノ流車ニ乘リテ此邊マデ來ルト云フト可ナリ流車ニハ飽キテ居ル特ニ降雨ノ爲メニ流車ノ中デ手ヲ洗フ水ガ眞ノ泥水デ甚タ不快ダ其日ノ朝起キテ顔ヲ洗ハフトシテ水ヲ掬リテ見ルト云フト眞ノ泥水デ之ヲ棄テ併顔ヲ洗フコトヲ止メルノモ不潔ダと思フテ更ニ思ヒ直シテ水ヲ掬リテ其デ顔ヲ洗ヒマシタケレトモ終ニ口ヲ漱ク氣ニハナリマセンデシタ其ヲ思ヒ出スト云フト流車ニ長ク乘リテ居ルノガ益ス否ニナリテ早ク流車ガ進行スレバ善イト思ツテ居マシタサウ思ツテ居ル間ニ何時ノ間ニカタ刻ニナリ夕刻ニナレバ益ス寒クナリタノデ奉天デ乗合ハシタ軍醫ハ是デハ衛生ニ害カ有ルト言ツテ流車ノ中デスト「ヴ」ヲ焚カシタ併其デモマダ寒ク感シタ誠ニ冬カト思フ位ニ寒サデシタ今カラ考ヘテ見レバアノ時ノ苦シサハ反テ思ヒ出シテ面白イガ其時ハ不潔ナ流車ノ中デ降雨ノ爲メニ閉込メラレテ其上寒イト云フ次第デシタカラ餘リ面白クアリマセンデシタ此不快ヲ感シテ居リタ時夜九時四十分ニナルト云フト流車ガ

愈ヨ出發スルト云フコトヲ聞イテ事意外ニ出テ、遽カニ大愉快ニ感シタ
ス其モ其等烟臺ニ停車シタ時間ハ朝ノ十一時カラ夜ノ九時四十分マデ總テ
十時四十分間デ其間始終不愉快デシタカラ速カニ瀛車ノ出發スルノヲ見テ
大ニ愉快ニ思ツタデス瀛車ガ進行ヲ始メテカラ間モ無ク遼陽ニ着キマシタ
ケレトモ私ハ眠ムリテ居マシテ到着ノ騒キデ目ヲ覺マシテ見レハ時計ノ針
ハ十一時ヲ指シテ居マシタ

遼陽ニハ露西亞兵ガ千五百人居ルト聞キマシタガ此數モ常ニハナリマセヌ
九月二十五日ノ朝大石橋ニ到着シテ時計ヲ見ルト云フト四時デアリマシテ
眠ムクテ堪リマセンデシタガ無理ニ眼ヲ開イテ見ルト言フト此ノ「ステーション」ハ概
ヨシハ頗ル廣大デ其構造ハ餘程立派デ有リタ是マデ見タ「ステーション」ハ概
シテ假建築デアリタガ大石橋ノハ本建築ト見受ケマシタ此頃ハ雨ハ新タニ
晴レ頗ル好天氣デアリマシタガ併餘程寒カリタデス

朝ノ五時半頃ニ瀛車ハ進行ヲ始メマシタカラ私ハ客車ト客車トノ間ニ出テ
左右ノ景色ヲ見テ居マシタ客車ノ中ニ入ルト云フト其窓カラ瀛車ノ左カ又

ハ右ノ内一方ヲ見ルコトガ出來マスケレトモ左右共見ルコトハ不便デスカラ
客車ト客車トノ間左右ノ見ユル處へ出マシテ左右ヲ見テ居マシタ斯ノ如キ
處へ出ルノハ今度ニ始マリタノデアリマセヌデ浦潮斯德カラ出發シタ後ニ
ハ時々ハサウシテ居リマシタ斯フ云フ處ニ出テ、左右ヲ熟視シテ居マスト
露西亞ノ士官ガ私ヲツツト注意シテ視テ居マス併私ハ別ニ惡事ヲシマセヌ
カラ人ガ私ヲ視タトテ一向構ヒマセヌ

斯フ言フ鹽梅ニ左右ヲ見マスト云フト奉天ヨリ以東ハ地味ハ先ツ善イ方デ
スガ奉天ヨリ以西ニナルト云フト地味ガ段々惡クナル遼陽邊ニ來ルト地味
ガ益々惡イ様ニ見ユル又滿州ノ中央鐵道ノ通スル邊デハ平地ト天ト連リテ
居ル茫々漠々タル原野ヲモ澤山見マシタガ大石橋ヨリ以往左方ニ連山ヲ見
マシタ

蓋州ニ達スル前ニハ左ニモ右ニモ山ヲ見マシタガ右方ノ山ガ特ニ赫デア
ル而シテ山ノ形ガ日本ニ似タ處モ折々見受ケマシタ蓋州ト熊岳城トノ間ニモ
山ガ澤山アリマシテ左ノ山モ右ノ山モ草木ガ少イ特ニ右方ニハ赫山ヲ見マ

シテ而シテ熊岳城ニ近クニ從ヒ右方ノ山ガ見え無クナリマシタ
此熊岳城ハ海ニ極テ近イ處デス而シテ「ステーション」へ支那人ガ石ノ筆立等
澤山賣リニ來マシタノハ熊岳城デ有リタト記憶シマス熊岳城ノ「ステーション」
ノモ頗ル立派デ漢文字デ熊岳城ト大書シテ有リマシタ是モ本建築ト見受ケ
マス

熊岳城ヲ出發シタノハ朝八時二十分頃デ私ハ相變ラズ客車ト客車ノ間ノ左
右ノ見ユル處ニ出テ、見マス熊岳城ト「ワソツシヤリン」ノ間モ左右トモ山
デアリテ花江溝ト浦蘭甸ノ間デハ山勢緩カデアリマシタ
浦蘭甸ニ着イタノガ晝十二時デ一時頃之ヲ出發シマタ又浦蘭甸ノ次ノ「ステ
ーション」サンシリプウヲ發シタノガ午後二時頃デアリテ暫時チ經テ金州ノ
「ステーション」ニ着キマシタ此「ステーション」ハ頗ル大デアリテ大石橋熊岳城
ニ匹敵シマス其左右頗ル海ニ近イノテ誠コ半島ニ在ル心地シマシタ確カ此
邊デアリタト思フ兵營ノ立派ナノヲ建築シテアリタノハ
金州城ヨリ以テ暫時左ニ海ヲ見タト記憶シテ居マスガ概シテ言ハハ此半島

デハ左即チ南ノ方ハ山デ蔽ハレテ右即チ北ノ方ハ直チニ海ニ面シテ居ル處
ガ往々有リマス併海ハ深ク有リマセヌ

南關嶺ニ着イタノガ午後四時頃デ有リテ夕ノ六時頃ニ愈ヨ旅順ニ到着致シ
マシタ

私ガ滿州ヲ通過シマシタ時地勢ト地味トテ可ナリ注意シテ見テ來マシタケ
レトモ餘リ澤山ノ露西亞ノ士官ガ同車シテ私共ヲ注視シテ居ク様デシカ
ラ度々手帳ヲ出シテ私ノ見タコトヲ書留メルハ得策デ無イト云フコトデ手
帳ニハ澤山書留メ無カリタ爲メ今ハ見タコトヲ忘レ後悔シテ居マス
併地勢ト地味ノ大要ヲ言ヒマスト滿州デハ前ニ申シタ通平地ト天ト連ナリ
テ居ル茫々漠々タル原野カ澤山有リマシタガ大石橋ヨリ旅順ニ至ルマデハ
左右ニ澤山ノ山ヲ見マシタ概シテ言ハハ右ノ方ハ山勢緩デ左ノ方特ニ少シ
ク距リテ居ル朝鮮境ニ近イ處テハ山勢急ナノガ多イ滿州ノ東ノ部分ハ頗ル
豊饒テ樹木モ草モ澤山有リマシタガ西ノ方ニ向ツテ旅行スレバ地味ガ段々
悪クナリテ居ル様ニ考ヘラレマス特ニ半島ニ近クニ從テ地味ガ益ス悪クナ

リテ居マス是マデ滿州ノ土地ガ瘦セテ居ルト言ツタ人ガ有リマスガ其ハ日清戰爭ノ折日本軍隊ガ占領シタ部分ヲ標準トシテ述ヘタ言デアリマセウ成程アノ邊ハ概シテ豊饒デ有リマセヌ其ヨリモ東ガ極メテ豊饒デ有ルコトニ氣ガ付カ無カリタノハ甚タ遺憾デヌ又聞クトコロニ據リマスト云フト夫ノ豊饒デ無イ土地デモ鑛山ガ澤山有ルカラ之ヲ掌握シテモ決シテ損ニハナラヌト云フコトデヌ又西南ノ部分ハ豊饒デ無イト言ツテモ菓實ハ澤山出來マス

斯フ云フ次第デスカラ露西亞ガ滿州ヲ取リマシタトテ經濟上困難スル筈ハ毫モ無イ反テ滿州ノ穀物ヲ以テ西比利亞ノ住民ヲ養フコトガ出來ルノテ經濟上困難スル筈ハ毫モ無イ餘リ敏腕ナ人物デ無クトモ滿州ヲ治ムルハ左マデ六ヶ敷有リマセヌ併之ヲ治ムルニハ小心翼々デハイケナイ是迄ノ日本流デハイケナイ矢張り大膽デ豪放デ露西亞流デ遣ラナケレハナリマセヌ私ハ九月十五日午前八時十分ニ浦潮斯德ヲ出發シ同十七日午前八時半頃ハルビンニ到着シタノデスカラ浦潮斯德カラハルビンニ行クマデニ二晝夜計

ヲ費ヤシマシタ又九月二十二日午後八時頃ハルビンヲ出發シテ同二十五日午後六時頃ニ旅順ニ到着シタノデスカラハルビンカラ旅順ニ行クマデニ三晝夜計ヲ費ヤシマシタ若シハルビンヲ定刻即チ午後七時半ニ出發スルトシテ烟臺ニ長ク停車セナイト假定スレバハルビンカラ旅順ニ行クニハ二晝夜半ヲ費セバ充分デヌ而シテ敦賀カラ浦潮期德ニ行クニモ二晝夜ヲ費ヤスノ豫定デ澤山デヌ

汽車賃デスカラ浦潮斯德カラグロデコフマテ一等六留八十哥計カネグロデコフカラハルビンマデ二等十二留〇五哥計ハルビンカラ旅順マデ二等二十留八十哥計デスカラ浦潮斯德ヲ出發シ滿州ヲ通過シテ旅順ニ行クニハ其汽車賃ハ三十九留六十五哥テ足レルデヌ而シテ三等デ旅行スレバ之ヨリ遙カニ安イデヌ但シ一留ハ我日本ノ一圓強ニ當リマス又敦賀カラ浦潮斯德マデノ船賃ハ一等二十四圓五十錢デ二等ハ十四圓三等ハ七圓デヌ汽車賃モ船賃モ斯クノ如ク皆巨額デ有リマセヌ且ツ滿州ヲ通過スルニモ浦潮斯德ニ行クニモ僅々ノ日數ヲ費セバ充分デスカラ日本ノ青年ハ可成澤山是等地方ニ漫遊ス

ルコトヲ希望致シマス今後日本ニ於テ何事ヲ爲スニシテモ世界ノ大勢ニ通シテ居無ケレバナリマセスト東洋ノ事情ニ通スルノガ必要ト思ヒマス
 旅順ニハ一日シカ滞在シマセヌデ詳シイ事情ヲ知リマセヌガ見聞シク次ノ事ニ付キ大体ヲ申シマスニ本年八月ノ取調ニヨレハ日本人ノ數ガ五百九十名デ其内男三百三十五名女二百五十五名デス日本人ノ總代事務所ニ届出ナイモノヲ合シテ勘定スレバ日本人ハ七百名計アルダラウト云フコトデス歐米人ノ數ガ三千人計デ支那人中舊市街ニ住スルモノガ二萬五千人新市街ニ住スルモノガ五千人合セテ三萬人計有リマス又朝鮮人ノ數ガ二百二十三人デアルサウデス

日本人ノ職業ヲ尋チマシク處此ノ表ヲ總代事務所ノ川上賢三氏カラ貰フコトガ出来マシク其座ニハ川上賢三氏ノ外山下五郎氏モ梅田潔氏等モ居リク様ニ記憶シテ居マス山下氏モ梅田氏モ私ト同時ニ「ハルビン」ニ居リマシクガ私ト前後シテ旅順ニ歸リタノデス而シテ偶然ニモ川上氏ノ處デ出逢ヒマシク

旅順口在留日本人職業調

一 會社出張所	貳軒
一 雜貨商店	拾六軒
一 金銀細工職	四軒
一 洗濯業	七軒
一 宿屋	三軒
一 理髮業	四軒
一 裁縫業	三軒
一 貸席	拾貳軒
一 雜業	貳拾八軒
一 請負業	壹軒
計 八拾軒	
一 在留人員總數五百九十名	八月現在

内

男 參百參拾五名

女 貳百五十五名

右之通りニ候也

旅順口日本人

總代事務所

印

明治參拾五年九月廿八日

是等ノ日本店ノ中デ最モ傑出ノモノハ多分三井物産ノ支店デアラウト思ヒマス

旅順ノミナラス總テ新開地ニハ雜貨商ガ最モ多イノデスガ旅順デモ其通デ此ノ表ノ上デ御覺ノ通雜貨商ガ十六軒モアリマス又金銀細工、時計師、理髮職洗濯業是等ハ日本人ノ長所デ何デモ斯フ云フ小才ヲ要スル職業ニ付テハ日本人ト競争シ得ルモノハ澤山ハ無イト見ユル

旅順ノ市街地ハ其區域ハ狹隘デ且ツ其位置ハ陸軍及海軍ノ用地ニ接近シテ居リマスカ爲メニ今後膨脹ノ餘地ガ頗ル少ナイ其カラシテ旅順ノ地價ハ甚タ貴イ昨年以來新市街ノ設計圖ニ基ツイテ地域ノ競賣ヲ始メマシタ處誰モ彼モ争テ上等ノ地區ヲ獲得セウトシタカ爲メニ競争ノ結果地區ノ價ガ非常

ニ騰貴シテ中ニハ一平方サ一即チ我日本ノ七尺四方計ノ土地ノ價五十留計ノ、モ出來タサウデス斯フ言フ方法ヲ土地ヲ競賣シテ第一等地トモ言ハル、所ハ大抵有力ナル商人ノ手ニ歸シタト云フコトデ唯今殘リテ居ルノハ第二等地以下ト聞イテ居マス

又旅順ハ家賃ノ餘程高イ處デスカラ日本ノ商賣人ハ概シテ之ニハ閉口シテ居ルト云フコトデス浦潮斯德デハ家賃ガ高イガ旅順デモ家賃ガ頗ル高イ商賣人ノ閉口スルノモ無理ハ有リマセヌ

新市街地ノ出來マシタ當時歐羅巴人ノ居住ス可キ部分ト支那人ノ居住ス可キ部分ヲ區別シテ支那人ヲ不便ト場所ニ逐込シテ仕舞フコトニ定メマシタ昨年以來支那人ハ其不便ノ場所ニ家屋ヲ建築シテ見マシタガ何分其商賣カ繁昌セナイト云フコトデス

日本人ハ歐人市街ニモ支那人市街ニモ居住スルコトガ出來ルノデスガ支那人市街ニ行ケハ商賣ガ繁昌セズ歐人市街ニ行ケハ家賃ガ高ク之ニハ頗ル閉口シテ居ルサウデス總代事務所ノ川上賢三氏ノ意見デハ日本ノ富豪ガ旅順

ニ於テ日本居留氏ノ爲メニ家屋ヲ建築スルナラバ富豪自身ニモ利益アリテ居留氏モ亦恩澤ニ浴スルコトヲ得ルダラウト云フコトデ私ハ旅順ノ事情ニ暗イカラ確乎タル判断ガ付キマセヌガ誠ニ道理ノアル説トシテ聞イテ來マシク

私ガ旅順ニ居リマシク當時日本人ガ大騒キニ騷イテ居ク事件ガ一ツアリマス聞キマスト云フト日本人某ガ何處カ滿州ノ中デ貸席ノ主人トナリテ居テ其ガ旅順ニ來テ女ヲ一人同道シテ自分ノ處ニ歸ラウトシクサウスルト旅順ノ貸席ノ主人ガ數人ヲ右ノ他處カラ來ク人ヲ撲殺シクト云フ評判カ有ル露西亞ノ裁判所ガ之ヲ調ヘテ見クケレトモ加害者ニ對シテ刑罰ヲ加ヘ無イノデ日本人中或連中ハ憤慨ニ堪ヘナイ其處デ被害者ノ親類ニ説諭シテ日本ノ裁判所ニ告訴セシメタラ善カラウト謂ツテ居ルモノモアリマシクガ之ニ付テ一ツ疑ノ起リタノハ一體旅順ニ於ケル裁判權ハ何處ノ國ガ持ツテ居ルカト言フコトデアリマシク日本ノ外務省モ此ノ點ニ付テ多少取調ヲ爲シタラウト想像シマスケレトモ其後此問題ハ何ウナリマシクカ知ラヌ露西亞人ノ

考テハ無論其裁判權ヲ露西亞人ガ持ツテ居ル積テ有ル歐米人ハ概シテ露西亞ノ裁判權ヲ認メテ居ル併日本ノ在留民ハ露西亞ノ裁判權ヲ認メルコトヲ好ンテ居ナイ日本ノ政府ハ此點ニ付テ如何考ヘテ居マスカ知ラヌ私ノ考テ單簡ニ申マスレバ純然タル法律ノ上ヨリ論スレバ露西亞人ハ旅順ヲ租借シテ名義上之ヲ領土トシテ居マセヌカラ旅順ニ於ケル裁判權ヲ持ツテ居マセヌ旅順ニ於ケル主權ハ依然支那ニ在リトシマスレバ日本ノ領事裁判權ハ無論旅順ニ行ハレナケレバナラス答デス併政略上ヨリ言ハバ此ノ如キ事ニ付テ躍起トナリテ争テモ一向詰ラヌ寧ロ機會ヲ見テ露西亞人ト戦争ナシテ旅順ヲ日本ノ手ニ入レテ日本ノ裁判權否寧ロ主權ノ全部ヲ其處ニ樹立シク方ガ最モ得策デス

私ガ「バルビ」ヲ出發シテ後旅順ニ到着シタノガ九月二十五日午後六時頃デアリマシク翌二十六日午後七時ニ梅田潔氏及ヒ松永峯治氏ト共ニ旅順ヲ出發シテ同夜九時半ニ「ダルニー」ニ着キマシク旅順カラ「ダルニー」ニ行クニハ斯ノ如ク二時三十分ヲ費スノミテ瀛車賃ハ一等一留三十五哥デス唯此時少

シク不便ニ感シタノハ瀛車ノ出發時刻デ夕刻ヲ無ケレバ「マルニー」ニ向テ出發セナイノデスカラ「マルニー」ヲ見物セウト云フノニハ其晩ハ是非「マルニー」ニ宿セナケレバナランカツタテス其ノミナラズ「マルニー」カラ旅順ニ行クノニハ朝ノ瀛車デ出發セテバナラス是モ亦不便デ「マルニー」ヲ見物シタ其日ニ旅順ニ歸ルコトガ出來無カリタ「ウイツテ」氏ガ滿州及ヒ西比利亞ヲ巡視シタ後ハ漸々ニ行政ノ改革ヲシテ瀛車ノ發着時間ヲ改メルト云フコトヲ聞キマシタガ左スレバ旅順「マルニー」間ノ往復モ便利ニナリマセウ私ノ旅行シタ頃ハ旅順ガ東清鐵道ノ終極點デアリマシタガ何デモ改正カアレバ「マルニー」カ其終極點ニナルト云フコトデス

「マルニー」テハ梅田潔氏ニ案内セラレテ市街及ヒ港等ヲ見物シマシタ

「マルニー」ノ御話ヲスルニ付テハ先ヅ此地圖ヲ後覽下サイ

堤 波 呼 八 十 二 深 水 所 此

海面開列地

小堤頭

大堤頭

城

區

別

莊

界

域

英國公園

博物館

上公園

男子中學校
女子中學校

市監署

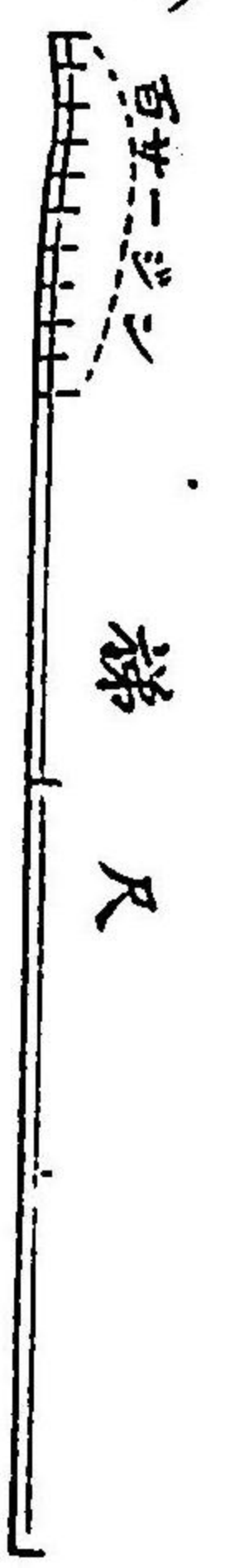
第一市場

倉庫建築所

倉庫建築所

海軍船塢

神社



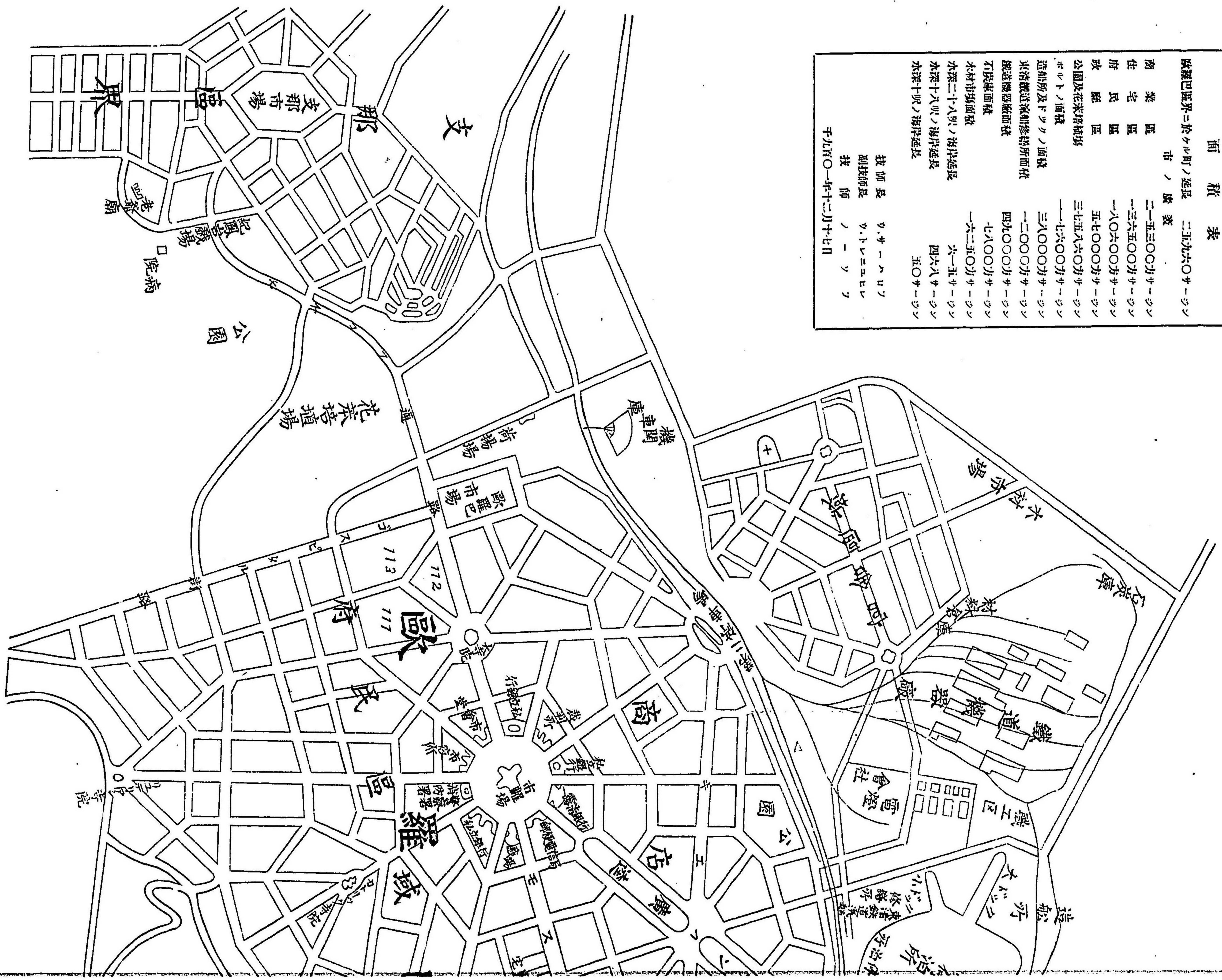
(十の百七十尺四寸)

面積表

歐羅巴區界ニ於ケル町ノ延長 二五九六〇サージン

市ノ擴張	面積
商業區	二一五三〇〇カサージン
住宅區	一三六五〇〇カサージン
市民區	一八〇六〇〇カサージン
府廳區	五七〇〇〇カサージン
公園及花菜培植場	三七五八六〇カサージン
ポルトノ面積	一七六〇〇カサージン
造船所及ドックノ面積	三八〇〇〇カサージン
東清鐵道船舶修繕所面積	一三〇〇〇カサージン
鐵道機關庫面積	四九〇〇〇カサージン
石炭庫面積	七八〇〇カサージン
木村市塲面積	一六二五〇カサージン
水深二十八呎ノ海岸延長	六一五サージン
水深十八呎ノ海岸延長	四六八サージン
水深十呎ノ海岸延長	五〇サージン

技師長 ヴ.サー.ハリア
 副技師長 ヴ.ト.レ.ニ.エ.ヒ.レ
 技師 ノ.ー.ラ
 千九百〇一年十二月十七日



「タルニー」ノ市街モ歐羅巴區界ト支那區界トニ分レテ居マシテ歐羅巴區界ハ更ニ商店區域、府民區域、別莊區域、官舎區域ニ分レテ居マス。

「タルニー」ノ土地ニハ素ト山ト云ツテハ善イカ丘陵ト云ツテ善イカ兎ニ角小サイ山ガ澤山有リタノデスガ露西亞人ハ其山ヲ削リ去リテ其土ヲ以テ海面ヲ埋メテ其「タルニー」ノ區域ヲ幾分カ廣メテ其地面ヲ平坦ニシテ市街ヲ建築シタ處モアリ又現ニ建築シツ、アル處モ有リマス。「ハルビン」ノ土地ハ概シテ天然ニ平坦テアリマスガ「タルニー」ノ方ハ概シテ天然ニ凹凸ガ有ル然ルニ露西亞人ハ人工ヲ以テ其天然ノ凹凸ヲ取去リテ之ヲ平坦ニシテ其上ニ市街ヲ作リテ居ルノデス其無造作ナ事ハ逆モ日本ニ居リテ想像シタ様ノモノデナイ而シテ其市街ヲ見ルト云フト道幅ガ廣シテ上野ノ廣小路其ヨリモマダ廣イ處ガ西カラ東、北カラ南マデ打續イテ居マス其モニツヤ三ノ街道ガ廣イナラ目ヲ慰メル様ナコトハ無イカ知レマセヌガ「タルニー」デハ到ル處ノ街道ハ皆廣イト言ツテモ善イ位デ之ヲ見テハ誠トニ愉快ニ感ゾマス概シテ言ハハ他日商賣ノ盛ニナラウト云フ様ナ處デハ人道ガ頗ル廣シテ如何ニ私デモ

「アキレタ人道ダ」ト獨語シテ歩イテ居マシタ處梅田氏が傍ニ居リテ「ソイダア
 キレタ人道ダ」ト言ツテ繰返シテ居マシタ其代リ其處デハ車道ハ餘リ廣ク無
 イ又官吏ノ邸宅ナドノ澤山アル處デハ車道ガ廣クテ人道ガ狭イデス
 今現在使用シテ居ル「ステーション」ハ電燈會社ノ近傍ニ在リマスガ他日其他
 ノ場所ニ第二「ステーション」ト第二「ステーション」ガ出來ルコトニナリテ居マ
 ス私ハ其第一「ステーション」ノ位置ハ餘程好イト思ヒマス其ハ大波止場及ヒ
 小波止場ノ近傍ニ在リテ「キエフ」大街「モスコフ」大街「ウラジイ」大街「アングリ」大
 街ノ終極點ニ在リマス又「ベテルブルグ」海岸通ハ其左右ニ走リテ居マス第二
 「ステーション」ノ位置モ餘程好イ其ハ市街ノ最モ繁華ナル場所ト官舎區域ト
 ノ間ニ在リマス

「ドック」ニハ大「ドック」ト小「ドック」トアリマシテ小「ドック」ハ既ニ出來テ居ル又
 大「ドック」ハマダ出來上リテ居マセヌガ其長ガ八百「フィート」ト「ト」開イテ居マス
 又大波止場ノ長ハ二千八百「フィート」デ其幅ガ七百「フィート」ト「ト」開イテ居マ
 ス其邊ノ海ハ深ク掘リテアリテ吃水二十八「フィート」ノ船ガ氣樂ニ着クコト

ガ出來ルサウデアリマス私ガ見物ニ出掛ケタ當時ニハ既ニ出來上リテ居ル
 部分モ可ナリ有リマシテ鐵ノ階子モ出來テ何時デモ船ガ着キ得ル様ニナリ
 テ居ル處モアリマス無論其波止場ハ未タ使用セナイノデアリマスガ兎ニ角
 船ノ着ク準備ハ一部分出來テ居リマシタ私ガ此ノ波止場ニ行ク時ハ是ガ波
 止場デアルト云フコトヲ聞イテ其處ニ入りマシタガ私ヨリ前ニ之ヲ聞カナ
 イデ自己ノ露西亞語ノミニ依頼シテ波止場ニ行ツタ人ガ有リマスガ折角波
 止場ニ入りナガラ波止場ハ何處ニアルカト言ツテ人ニ尋ネテ是ガ波止場デ
 ス「ト」答ヘラレ頭ヲ掻イタコトガアルト云フコトデス成程其位此波止場ガ廣
 クテ長イノデアリマス

此廣キ波止場ニ鐵道カニツ入ルノデ詰マリ汽車ガニツ並ンデ入り得ル一方
 ハ輸入ノ爲メ一方ハ輸出ノ爲メ甚ダ發達デス其上ニツノ鐵道ノ真中ニ倉
 庫ガ出來ル筈ニナリテ居マス是ガ東洋第一ノ大規模ノ波止場デス
 波止場ヲ造ルニ付テ大形ノコンクリートヲ用ヒテ居リマス即チ石ヲ澤山集
 メテ「セメント」デ之ヲ絞テ大形ノ人造石ヲ作りテ之ヲ用ヒテ居マス其「コンク

リートノ長カニ間餘幅ガ一間餘デ重サガ三十二トン之ヲ動スニ付テ大キナ
 鐵ノ機械ヲ用ヒテ居リマス其價ヲ聞イテ見ルト云フト一箇ニ付九百九十何
 留デ我日本ノ千圓計ニ當リマスソナ「コンクリート」ヲ棄擲遊逸クリト云フ
 有様ヲ幾箇トナク其處ニ並ベテ有リマシタ
 要スルニ「ダルニー」デハ市街ヲ建築スルニシテモ波止場ヲ作ルニシテモ總テ
 大規模デアリマシテ之ヲ見レハ誠ニ愉快ニ感シマス何ウモ「ルスキー」ノ仕事
 ハ豪イデス日本ノ政治家ノ仕事ヲ見マス云フト規模ガ餘リ小サクテ憫笑
 ニ堪ヘナイ次第デスガ「ルスキー」ノ仕事ハ中々豪イデス日本ノ政治家ガ旅順
 「ダルニー」ノ見物ヲスレバ目ノ藥ニナリマス併「ルスキー」ノ仕事ヲ見テモ驚イ
 テ腰ノ抜ケナイ様ニ願ヒ度
 「ダルニー」デ近頃起リタ有名ナ事件ハ土地ノ競賣デス露西亞人ノ計畫ヨレバ
 「ダルニー」ノ土地ノ最モ大切ナル部分ハ特更ニ除ケテ置テ其次ニ位スル土地
 ハ漸々ニ之ヲ競賣ニ付シテ其代金ヲ以テ是迄費シタル金額ノ幾分ヲ回收ス
 ル積デス是迄「ダルニー」ノ市街ヲ作り「ドック」ヲ作り波止場ヲ作ルニ付テ實ニ

巨額ノ金ヲ費ヤシタ又東清鐵道ノ布設ニモ巨額ノ金ヲ費ヤシタ其金額ノ回
 收ニハ幾多ノ歲月ヲ要スルコトハ無論ノ話デスガ兎ニ角其回收ノ第一着手
 トシテ土地ヲ競賣ニ付シタラバ目的ノ幾分ヲ達シ得ルダラウト信シテ愈ヨ第
 一回競賣ヲ始ムルコトニシタ私ガ「ダルニー」ニ滞在シタ當時ニハ何處々々ノ
 土地ヲ賣ルト云フコトハ定マリテ居マシタカ日本人ニ入札ヲ許ルスヤ否ヤ
 ノ事ガマダ定マリテ居無カリタラシイ其競賣ニ付ス可キ場所ハ嚴羅巴區界
 ノ一部分デ府民區域ノ一隅デス即チ地圖ニ亞刺比亞數字デ「111. 112. 113」ト
 書イテアル處デス此ノ百十一號百十二號百十三號ノ土地ヲ露曆十一月一日
 即チ我日本ノ十一月十四日ニ競賣ニ付スルト云フコトガ定マリテ居マシテ
 私ガ歸朝ノ途仁川ニ居タ頃愈ヨ之ヲ競賣ニ付シタト見ユル日本人中如何ナ
 ル人ガ競賣ノ節入札シタカ其ハ能ク知リマセヌガ郵船會社浦潮斯德ノ支店
 ニ居ル中村克己氏ガ「ダルニー」ニ行ツタト聞イテ居マスカラ或ハ入札ノ爲メ
 カモ知レマセヌ
 其競賣ニ關スル規則書ト廣告寫ガ此處ニ在リマス

西曆一千九百二十二年三月廿七日(新曆四月九日)大藏大臣スターツス、セツレ
タリー官ウヰツテ認可規則

タリー市地區競争賣却同貸付假規則

第一章 地區賣却競争

第壹條 賣却ニ附スベキ地區ハ豫メ之ヲ測定シ「タリー」市圖ニ掲出シ且
ツ地區毎ニ各番號ヲ附シ其賣却ニ際シテハ地區毎ニ各地面圖ヲ調
製ス

第貳條 地區ハ壹區宛各別ニ賣却ス依テ志望者ハ壹區或ハ數區ヲ買收スル
ヲ得ベシ若シ貳區或ハ數區地續キノ地區ヲ買收セント欲スルモノ
アラバ賣却上之ヲ一括スルヲ得ベシ

第參條 賣却スベキ地區ノ競争ハ東清鐵道會社其他支部長立會ノ上「タリー」
「警視廳」ニ於テ警視總監任命ノモノ之ヲ行フ

第四條 競争ヲ實行スベキ日時ノ取極メ必要ナル廣告文ノ作成並ニ定時印
刷物ニ於ケル廣告等ハ警視總監ト熟議ノ上「タリー」築港及建市部

ニ於テ之ヲ行フ

第五條 前條掲載ノ廣告文ハ必ズ「トルゴ」ウオプロム「シユレン」ナヤ「ガセ
」タ「商工新報」關東州發行ノ諸新聞紙並浦鹽斯德上海及日本ニテ發
行ノ各一新聞紙上ニ掲載スベシ其餘ノ新聞紙ニ於ケル廣告ハ東清
鐵道會社ノ隨意タルベシ尙ホ又廣告文ハ清英兩國語ノ譯文ヲ添へ
「タリー」市中目ニ觸レ易キ場所ニ揭示スベシ又競争日ハ其日ヨリ
三ヶ月以前ニ掲載スベキ新聞廣告ニ於テ之ヲ披露スベシ

第六條 競争ニ關スル廣告ハ左ノ事項ヨリ成ル

一、賣却スベキ地區ノ番號并面積ヲ揭示スルコト(第一條 參照)

二、競争開始ノ最低價格ノコト(第八條 參照)

三、競争加入ニ要スル保證金額ノコト(第十條 參照)

四、地區建造及開拓ニ關スル購買者ノ義務ヲ指示スルコト(第三十三條 參照)

五、購買代價延期納入條件ノコト(第三十七條以下 參照)

六、競争實行場所并開始日時ノコト(第四十三條 參照)

ど、地區購買代價ヲ制規ノ期限内ニ納入セザル場合ニ於ケル結果ノコト(第二十二條參照)

ち、競争當日ニ至ルマデ地區圖並地區關係ノ書類ヲ閱覽セシムベキ場所ヲ指示スルコト(第七條參照)

第七條 競争ヲ實行スベキ旨廣告後其當日ニ至ルマデノ間廣告指定ノ場所ニ於テ地區圖并地區關係書類ヲ公衆ノ閱覽ニ備ヘ尙ホ此ノ間地區競争ニ加入セント欲スル者ハ地區見分ヲナスヲ得ベシ

第八條 地區ハ指定價格上四等ニ分別ス(第三十三條參照)而シテ各等競争開始最低價額ハ大藏大臣之ヲ定ム

第九條 競争ハ口頭ニ依レリ然リト雖モ尙ホ開封ノ儘入札ニテ地區ノ差直ヲ申込ムヲ得ベシ但シ此ノ場合ニハ入札面記載事項ノ外尙ホ入札者ノ國籍並書留通信受領地ヲ記スベシ

第十條 口頭或ハ入札ヲ以テ競争ニ加入セント欲スル者ハ地區指定價格ノ五分以上ヲ保證トシテ警視廳ヘ納入スベシ若シ保證ヲ附セザルカ

乃至附スルモ指定割合ニ及バザルトキハ申込ハ無効トス
第十一條 保證トシテ納入シ得ベキモノハ

一、現金國庫發行證券(セーリヤ)諸國立銀行當座并現金支拂期到來ノ定期預金券

二、國家發行及政府保證ノ利子附諸證券并債券

ハ、政府ニ對スル請負並上納身元保證トシテ政府ヘ納入スル悉テ利子附諸證券類ナリトス又外國貨幣ハ露清銀行ノ定メタル相場ヲ以テ納入スルヲ得ベキニ付競争ニ加入セント欲スルモノハ前以テ該貨幣ヲ該銀行支部ニ拂込ミ其證トシテ銀行領收書ヲ競争實行官ニ出スベシ又利子附諸證券ハ每半期ノ始メ政府ニ對スル受負並上納ノ身元保證トシテ納入ノ爲メ大藏大臣ノ認定スル評價ニ依リ納入スベキモノトス

第十二條 競争實行ノ爲メ地區毎ニ下記ノ事項ヨリ成ル競争心得書ヲ調製ス

い、地區ノ番號並其面積ノコト
ろ、競争開始價格ノコト
は、到來セシ入札ノ數ト其差直ヲ示スコト
に、地區建造及開拓ニ對スル購買者ノ義務
は、購買代價延期納入條件ノ件

第十三條 競争ハ競争心得朗讀後入札差直ノ内最高ノモノニシテ指定價格
以上ノモノアレバ其差直以上然ラザレバ指定價格以上ヲ口頭競
争ニ附セシム

第十四條 若シ競争ヲ開始シ競争開始價格ヲ公示シタル場合在席購買者中
コテ其價格以上ヲ口頭ニテ競上グルモノアレバ尙ホ進ンデ之ヲ
競争ナサシメテ只最終ノ價格ヲ三呼スルニ及ンデ他ニ競上グル
モノ無キ場合ニ至リ競争ヲ停止ス

第十五條 競争ニ只一名出頭セシ時ハ地區ニ對スル差直ノ申込ヲナスヲ許
ス

第十六條 悉テ口頭ニテ申込タル差直ハ競争實行官ニ於テ競争心得書ニ於
ケル各競争者姓名ニ對シ之ヲ記入シ而シテ競争立會人ニ公示ス
ベシ

第十七條 地區ハ口頭或ハ入札ニテ最高差直ヲ申込ミタル者ニ歸スベシ
第十八條 數名ニテ申込ミタル差直互ニ相均シキ時ハ地區取得權ハ競争者
自身ノ抽籤ニ依リ之レヲ確定ス但シ不參者ノ代理ハ競争實行官
之ヲ行フ

第十九條 競争實行者東清鐵道會社代表者並地區取得者在席ナレバ其者各
自競争心得書ニ署名スベシ尙ホ又取得者ハ該心得書記載ノ地區
建造及開拓ニ關シ條件ニ服從ノ趣併セテ署名ナスベシ又自身競
争ニ出頭セザリシ取得者ハ地區領有證交附ヲ受クルノ際地區建
造及開拓ニ關スル條件ニ服從スベキ受書ヲ差出スベシ

第二十條 購買代價乃至購買者ニ於テ延期納入願出ノ場合ニ處スル規制割
合並競争實行官ノ計算ニ因ル地券稅ハ是ヲ彙ニ納入シタル保證

金ヲ轉算シ競争日ヨリ起算シ二十日以内ニ購買者ヨリ會計事務ヲ取扱フベキ其地ノ事務局ヘ納入スヘシ

第二十一條 地區ヲ購買セザリシ者ニハ休暇ナラザル競争ノ翌日發ニ納入シタル保證ヲ返附ス

第二十二條 若シ地區收得者第二十條記載ノ期限内ニ購買代價又ハ延期納入制規制合並地券稅納入セザルニ於テハ發ニ納入シタル保證ハ東清鐵道會社ノ收益ニ歸シ而シテ地區競争ハ不成立ノモノト認ム又地區購買權ヲ有セザルモノ地區ヲ購買スル時ハ同ク此結果ニ準ス

第二十三條 競争ヲ經購買セシ地區領有權ニ對シテハ關東州統治臨時規定第三百三十二條ニ因リ警視總監證明書ヲ交附ス此ノ證明書ハ地券ニ代ルベキモノニシテ内ニ下記ノ事項アリトス
一、證明書調製ノ年月日
二、地區購買者ノ名稱

三、地區ノ番號其所在町名面積及境界(別ニ圖面ノ指示)

四、地區ハ公開競争ニ依リ賣却セラレシコト

五、競争實行日

六、地區賣却直段

七、購買者ヨリ徵收スベキ金額納入済ノ證明

八、地區建造及開拓ニ對スル購買者ノ義務

九、證明書交附後購買者ハ旅順口公證人役場記録ノ地券帳ニ登録ヲ乞フ爲メ該證明書ヲ差出スベキ義務アルモノニシテ然ラザレバ證明書ハ公正證書タルベキ能力ヲ具備シ能ハザルコト等ナリトス若シ地區延期納入ノ約束ヲ以テ賣却セントキハ證明書中尙ホ延期納入條件ヲ明記シ併テ又購買代價未納分保證ノ爲メ地區ニ差押ヲ施行シ若シ他ヨリ地區ニ對シ債權執行起リタル場合ニハ差押者優先權ヲ有スベキ旨ヲ記ス

第二十四條 前條記載ノ證明書ハ一字一句其儘關東州統治臨時規定第三百三

十二條ニ基キ警視廳ノ特別帳簿ニ之ヲ謄寫シ而テ旅順口公證人
役場記録ノ地券帳ニ登録ス

第二十五條 地區領有權ニ對シ交附シタル證明書紛失シタル場合ニハ領有
者ノ請願ニ據リ前條記載ノ帳簿ヨリ要點ヲ書取リ領有者ニ交附
スベシ尤モ此場合ニハ警視總監ハ旅順口地方裁判所公證人長ノ
職務執行者ニ其旨ヲ通告スベシ

第二十六條 證明書交附並地券帳登録ニ際シ要スルトコロノ税金及手数料
諸費ハ地區領有者ノ負擔タルベシ

第貳章 地區貸付競争

第二十七條 地區貸付競争ハ下記ノ條項ヲ除クノ外悉テ地區賣却ニ關シ制
定シタル規則ニ因ル(第壹條以下第
二十二條參照)

第二十八條 地區貸付競争ニ關スル廣告ハ左ノ事項ヨリ成ル
シ、地區貸付ノ爲メ競争實行ノコト
ス、貸付スベキ地區ノ番號及面積

ハ、競争開始ハ貸付最低價格

ニ、競争加入ニ要スル保證金額ノコト

ハ、地區ノ貸付期限

ハ、地區建造及開拓ニ對スル借地人ノ義務ヲ明示スルコト

ト、貸付期限經過後借地人ノ地區内ニ經營シタル建物並改良設計

ハ東清鐵道會社ノ權利ニ移ルベキコト

ト、借地料納入條件並其他地區貸付ニ關スル諸條件ヲ記入スルコ
ト

リ、競争實行場所並開始日ノコト

第二十九條 競争開始最低價格ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十條 競争ニ加入セント欲スルモノハ壹地區壹ケ年間借地料ノ壹割以
上ヲ保證トシテ納入スベシ

第三十一條 競争心得書ニハ第十二條記載事項ノ外尙ホ地區貸付ノ爲メ競
争ヲ行フコト並地區貸附期限ノコトヲ記入スベシ

第三十二條 地區貸付ヲ受ケタルモノハ競争日ヨリ起算シ二十日以内ニ盛
ニ納入シタル保證金ヲ轉算シ制割合ヲ以テ借地料ヲ納入スベ
シ東清鐵道會社ハ借地人ト貸付條約ヲ締結シ其條件中ニハ地區
建造及開拓ニ對スル借地人ノ義務並貸付期限經過後借地人ノ地
區内ニ經營シタル建物並改良設計ハ東清鐵道會社ノ權利ニ移ル
ベキコトヲ明記スベシ而シテ此條約書ニハ警視廳與書ス

第叁章 地區建造及開拓ニ對スル義務

第三十三條 地區領有權ニ對スル證明書接手ノ日或ハ地區貸付條約締結日
ヨリ起算シ三年以内ニ領有者或ハ借地人ハ證明書又ハ條約書ニ
記載スル地區ノ建造及開拓ニ對シ債フトコロノ義務ヲ果スベシ
而シテ其ノ義務トハ即チ地區ニ施スベキ工事を明示シ又ハ地區
面積各平方サージュエンニ對シ義務經費ヲ指定シテ之ヲ行ハシム
ルニアリトス而テ領有者ノ所有ニ歸シタル地區ニ施スベキ義務
經費ハ下記ノ割合以上タルベキコト即チ一等地區ニ付テハ各平

方サージュエンニ付拾五留貳等地區ニ付テハ同拾貳留三等地區ニ
付テハ同九留四等地區ニ付テハ同六留トス一名ニテ地積ノ地區
若干ヲ購買セシ時ハ其建造及開拓ニ對スル購買者ノ義務ハ購買
セシ地區總面積ニ渡ルモノトス又貸付地區ノ義務經費割合ハ此
標準ニ從ヒ東清鐵道會社之レヲ定ム

第三十四條

地區購買者及借地人ハ工事前警視廳へ1:100ノマスタープラン於
ケル建築物ノ正面及切斷圖ヲ添へ明細ナル建築工事ノ圖面ヲ呈
出シ認可ヲ受クベシ
メーリニー市歐羅巴市部ニテハ合土製建築物並ニ合土ノ上ニ建
設スル住屋ノ建築又木材或ハ其他容易ニ發火シ易キ材料ヲ用ヒ
テ屋上ヲ掩フチ禁ズ唯支那市ニ於テハ生練瓦ヲ以テ住屋ヲ建築
シ得ベシト雖モ基礎ハ石造ニシテ練瓦柱タルベク而シテ壁ハ尤
モ町疇ナル漆喰塗タルベキヲ要シ若シ現時施行ニ係ハル或ハ爾
後施行セラルベキ建築及衛生規定ニ觸レベキ建築ヲナスモノア

レハ警視總監ハ之ヲ差止メ且ツ法庭ニ出訴スベキ權利アリトス

第三十五條 制規ノ期限經過後若シクハ其前地區領有者ノ届出ニ因リ東清鐵道會社代表者並市會議員兩名ヲ以テ組織シタル委員ハ地區ノ検査ヲ行ナヒ若シ地區ノ設計前記ノ條件ニ相違ナク實行セラレタリト認ムル時ハ検査規定ニ從ヒ警視總監ノ差圖ニ因リ警視廳ノ帳簿及地區領有證或ハ地區貸付條約書ニ其趣キヲ記入シ併テ地券帳記入ノ爲メ公證人長ヘ之ヲ通告ス

但シ關東州統治臨時規定第六條以下第二百二十三條ニ至ル條項ニ基キ市制施行ニ至ルマデ本條(第三十五條)記載ノ委員市會議員ノ職務ハ特ニ此目的遂行ノ爲メ大藏大臣任命ノモノ之ヲ行フ

第三十六條 地區購買者並借地人ニハ將來街衢擴張用トシテ豫定セラレタルモノニシテ且ツ警視總監ノ請求次第直ニ返附スベキ地區圖

内掲出ノ地線ヲ無代ニテ使用スルヲ得但シ右使用規則ハ市會ニ於テ之ヲ定ム

第四章 地區購買料延期納入並延期納入購買者怠納處分
第三十七條 競争ニ因リ(ダリニ)市ニ於テ地區ヲ購買セシモノハ志願ニ依

リ下記ノ條件ニ基キ地區代金ノ延期納入ヲナスヲ得
第三十八條 競争ニ因リ地區ヲ購買セシモノハ競争後納入スベキ總金額ノ

五分ノ一以上ヲ屢ニ納入セシ保證ヲ轉算シ(第十條)一時ニ納入シ其ハ過餘不足ナキ百位ノ金高タルベキ計算ヲ以テ之ヲ殘金トシ而シテ夫ヲ東清鐵道會社ニ對スル購買者ノ負債トナシ保證ノ爲メ地區ニ對シ差押ヲ受クルモノトス

第三十九條 地區購買料延期納入ハ年四分五厘ノ金利ニテ拾ケ年賦及貳拾ケ年七ケ月賦ノ兩法トシ其一法ニ因ルベキモノトス又納入割合ハ附錄一覽表通り拾ケ年賦ハ每半期四分貳ケ年七ケ月賦ハ同一分五厘ナリトス

第四十條 延期納入ニ因リ地區ヲ購買セシ者ハ前條記載ノ一覽表規定ニ從

ヒ義務仕拂ヲナスノ外尙ホ期限ニ先タテ過不足ナキ百位ノ金高
タルベキ計算ヲ以テ一部宛或ハ全部ノ仕拂ヲ了スルヲ得ベシ

第四十一條 毎半期ニ對スル延期納入金仕拂ハ購買者ニ於テ毎半期ノ第一
月ニ於テ之ヲナスベシ

第四十二條 若シ購買者期限内ニ仕拂ヲ了セザル時ハ尙ホ二ヶ月間ノ猶豫
ヲ與ヘ其間未納金額ニ對シ科料トシテ一ヶ月一分ノ金利ヲ附ス
但シ一ヶ月未滿ナリトモ全一ヶ月トシテ計算ス

第四十三條 若シ猶豫期限ニ於テ悉テ未納分ノ仕拂ヲ了セザルトキハ延期
納入ニ因テ購買セシ地區ハ左記ノ條項ヲ除クノ外悉テ本規則第
壹條以下第二十六條規定ニ準シ公賣競争ニ附スベシ

第四十四條 地區賣却廣告ハ競争日ヨリ一ヶ月以前ニ於テ其地ノ新聞紙ニ
掲載シ且ツ英清兩國語ノ翻譯ヲ添ヘタリニ一市中目ニ觸レ易キ
場所ニ之ヲ揭示スベシ

第四十五條 地區領有者ハ競争開始前科料並ニ地區賣却ノ手續キニ要シタ
ル雜費ヲ添ヘ未納額ヲ納入スル場合ニハ地區賣却ヲ免ズ

第四十六條 競争志望者ハ科料ヲ添ヘタル未納額ヲ下テザル金額ヲ保證ト
シテ差出スベシ

第四十七條 競争心得書ニハ地區賣却規則第十二條記載ノ事項ノ外項ノ外
尙ホ下記ノ事項ヲ記入ス

- 一、地區有主ノ名稱
- 二、地區購買料延期納入期限及其條作
- 三、東清鐵道會社ニ對スル地區負債ノ殘額
- 四、地區ニ係ハル警視廳認知ノ諸約條
- 五、地區ヲシテ賣却ニ至ラシメタル科料ニ付キ未納金額並賣却手
續ニ要セシ警視廳ノ支出費用其他悉テ反則購買者ノ負擔ニ歸
スヘキ經費
- 六、地區ニ對スル官市兩様税金ノ未納額

正本ノ通り相違ナシ

二 一 〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一 〇 九 八 七 六	一 一 二 二 三 四 四 五 五 六 六 七 七 七 七 七	六 二 一 八 三 九 五 〇 三 五 七 七 〇 五 三 六 四 一	三 四 三 七 八 七 三 七 九 〇 〇 八 六 四 一	二 五 三 六	一 二 四 五 六 七 九 〇 一 二 三 四 五 六 七 八	一 〇 〇 三 〇 六	六 五 五 五 五 五 五 五 四 四 四 四 四 四 四 四	一 八 八 七 七 六 六 六 六 五 五 五 五 四 四 四 四	九 八 三 九 五 二 八 四 〇 七 三
---	--	--	---	------------------	--	----------------------------	--	---	---

一六八

第貳表

延期納入百「ル」ブルニ對スル消却法
貳拾ヶ年七ヶ月賦

大藏大臣官房長「シ」ボフ

二 一 〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一 〇 九 八 七 六	八 八 八 八 九 九 九 九 九 九 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 三 五 三 二 〇 七 四 一 八 四 〇 〇 〇 〇 〇 〇	二 一 〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一 〇 九 八 七 六	一 八 九 〇 〇 〇 一 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	一 八 九 〇 〇 〇 一 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	九 八 三 九 五 二 八 四 〇 七 三	一 八 八 七 七 六 六 六 五 五 五 五 四 四 四 四	九 八 三 九 五 二 八 四 〇 七 三
---	---	---	---	--	---	---	--	---

一六九

三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三

三六七一 三九五七 四二二六 四五〇〇 四七七八 五〇三九 五二九五 五五四五 五七九〇 六〇二九 六二六三 六四九二 六七一六 六九三五 七一四九 七三五九 七五六四 七七六四 七九六〇

八二 八九 九六 一〇一 一〇七 一四 一九 二五 三〇 三六 四一 四六 五一 五六 六一 六五 七〇 七五 七九

二九三 二八六 二七九 二七四 二六八 二六一 二五六 二五〇 二四五 二四九 二三九 二三四 二二九 二二四 二一九 二一四 二〇九 二〇五 一九〇 一八六

四二 四一 四〇 三九 三八 三七 三六 三五 三四 三三 三二

三三七八 三〇七九 二七七三 二四六一 二一四一 一八一四 一四八〇 一二三九 七八九 四三二 六七

五四四三 〇一〇 一〇八 二五 三四 四一 四八 五五 六三 六九 七六

一〇〇 〇六七 〇六五 〇五七 〇五〇 〇四一 〇三三 〇二七 〇二〇 〇一三 〇〇六 〇〇九

正本ノ通り相違ナシ

大藏大臣官房長 井ノシロガウ

廣告寫

壹千九百〇貳年露歴十一月一日我十一月十四日關東州タルニ一市ニ於テ同
市歐羅巴部ニ於ケル市有地區ノ競賣ヲ施行ス

(第壹) 競賣ニ附セラル可キハ公園ニ沿ヘルモルスコイ通りニ於テ第百拾壹區第百拾貳區及第百拾參區中ノ第壹號ヨリ第四拾九號ニ至ル四拾九ヶ所ヲリトス而シテ各號地區ノ面積ハ市ノ公定圖ノ通り貳百四拾九平方[サージョン]三合ヨリ四百〇六平方[サージョン]貳合六勺ニ至ル

(第貳) 競賣ノ基趾タルベキ最低價格ハ每一平方[サージョン]ニ付拾留及拾五留ノ貳種トス即第參拾貳號第貳拾六號第貳拾五號第貳拾四號第貳拾參號第貳拾貳號第貳拾壹號第參號第五號第七號第九號第拾壹號第拾參號第拾五號及第拾八號ノ各地區ハ拾五留ニシテ其他ハ拾留ナリ

(第參) 口頭若クハ書面ヲ以テ競賣ニ應セント欲スル者ハ上記價格ノ百分ノ五ヨリ尠ナカラザル金額ニ相當スル保證ヲ市長廳ニ提出スルヲ要ス

(第肆) 競賣ニ依リ地所ヲ買入レタル者ハ所有權證明書ヲ受取リタル日付ヨリ三年以内ニ其地所内ニ相當ノ建物ヲ建築ス可キ義務アリ而シテ其建築費額ハ地區ノ一平方[サージョン]ニ付拾五留ヲ最低額ト定ム

(第五) 競賣ニ依レル地區所有者ハ其希望ニ由リ下記ノ條件ニ準ジテ地代ノ

拂込方ヲ猶豫セラルベコトヲ得

(第六) 競賣ニ依リ地所ヲ買入レタル者ハ其買入レ價額ノ五分ノ一ヨリ保證金ヲ控除シタル金額ヲ一時ニ拂入ル、ヲ要ス而シテ其殘金額ノ拂込方ハ下記二法ノ一ヲ撰ムコトヲ得即甲法ハ拾年間ニ乙法ハ二十年ト七ヶ月間ニ共ニ一ヶ年四歩半ノ利子ヲ附シテ償却スルモノトス而シテ元金ノ償却法ハ甲法ニ於テハ百分ノ四、乙法ニ於テハ百分ノ一ヶ半ヲ毎半年ニ納付スルモノトス

毎半年ノ初月中ニ拂込ヲ爲ス能ハザル地所買入人ニハ其拂込ムベキ金額ニ一ヶ月一步ノ利子ヲ付スルノ條件ヲ以テ二ヶ月間ノ猶豫ヲ與ヘラルベシ若上記猶豫期間ニ拂込ヲ爲ス能ハザル時ハ其買入地所ハ成規ニ據リテ再ビ競賣ニ附セラルベシ

(第六) 上記ノ競賣ハ「マルニ」市ニ於テ千九百〇二年十一月一日午前十時ヨリ開始セラルベシ

(第七) 地所ヲ買入レタル者二十日以内ニ買入金額若クハ成規ノ部分金額及

登記料ヲ納付セザル時ハ先キニ差入レタル保證金ハ東清鐵道會社ニ沒收セラレ而シテ其地所ノ競賣ハ不成立ニ歸シタルモノトス
(第八) 地區ノ圖面及之ニ關スル一切ノ書類ハ「ダルニー」市長廳ニ於テ毎日午後二時ヨリ三時ニ至ルノ時間ニ閱覽スルコトヲ得

「ダルニー」市長 サイハロフ

此廣告デ御覽ノ通一等地ハ一平方「サイ」即チ我日本ノ七尺四方許ノ土地ヲ十五留ヨリ二等地ハ之ヲ十留ヨリ競リ上ケルノデ落札ノ結果ハマダ知リマセスガ多分高ク落札シタラウト思ヒマスナト日本人ニ落札シタカ何ウカ知ラス唯今申シマシタ通當初日本人ニ入札ヲ許ルスカ否カ、疑問デ有リマシタガ後ニ歸朝ノ途次芝罘デ聞イテ見マス」ト日本人ニ入札ヲ許ルシタケレドモ日本人ハ他ノ外國人同様ニ所有權ヲ得ルコトガ出來無クテ唯九十九ケ年ノ長久ノ借地權ヲ得ルコトガ出來ル」ト云フコト、ナリタサウデス其理由ヲ聞イテ見マス」ト日本ノ本國ニ於テ外國人ニ土地ノ所有權ヲ與ヘ無イカラ「ダルニー」ニ於テモ土地ノ所有權ヲ日本人ニ與ヘ無イ他ノ外國人ニハ土地ノ

所有權ヲ與ヘテモ日本人ニハ之ヲ與ヘ無イ是ガ國際法ノ相互主義ニ基イテ居ル」ト云フコトデ私ハ國際法ノ相互主義ヲ斯ノ如ク解釋ス可キモノデ無イト信シテ居マスケレドモ兎ニ角露西亞人ハ相互主義ニ基イテ斯ノ如ク定メタト言ツテ居マス何デモ口實ヲ設ケラレサヘスレバ日本人ニ對シテ不便ヲ與ヘテ居マス是ハ甚ダ不都合ナ事デ有リマスカラ日本ノ政府カラハ何トカ言ツテ故障ヲ述ベテ宜シカラウト思ヒマスケレドモ日本ノ政府ニモ色々ノ算當ガ有リマセウカラ此ノ點ニ付テ確カニ故障ヲ述ベテアルカ何ウカ私ハ保證ガ出來マセス

旅順及ビ「ダルニー」ノ日本在留民ハ牛莊領事瀨川氏ガ同處ニ來ナイト言ツテ不平ヲ鳴ラシテ居ルト云フコトヲ聞イテ居マス併牛莊領事ガ不親切デ其處ニ行カナイノデハ無ク多分外務省カラ其處ニ行ケト云フ命令ヲ受ケルコトガ出來ナイノデラウト云フ噂ガ有ル旅順「ダルニー」邊ヘ芝罘領事水野氏ガ行キマシタ芝罘領事ノ敏腕タルコトハ誰モ知リテ居マスガ牛莊領事モ評判ガ善イ然ルニ自分ノ管轄ス可キ旅順「ダルニー」ニ色々ノ事件ガ起リタニモ拘ハ

ラズ其處ニ行カナイノハ何故カト云フニ其處ニ行クニハ外務省ノ命令ガ要
ル然ルニ外務省ハ牛莊領事ニ其事ヲ命令セナイト云フ噂ガアリマス其カラ
シテ外務省ハ多少露西亞トノ葛藤ヲ避ケテ居ルト云フ噂ヲ聞イタコトガ有
リマス果シテ其通ナラバ誠ニ惜シム可キコト、考ヘマス私ハ右ノ様ナ噂ガ
間違ツテ居ルコトヲ希望シマス

序ニ右ノ相互主義ニ付今少シ述ベマスガ「ダニ」ノ土地ノ競賣ハ勅令ニ
ヨリテ定マリタルモノト見エル其第九條ニ「地所ヲ所有及ヒ借區スルニハ露
國臣民ト均シク外國人モ權利ヲ有ス而シテ外國人ノ地所所有ニ關シテハ現
行條約ニ準ジテ相互主義ニ遵フ可シ」トアリテ此處ニハ相互主義ト云フ語ヲ
明白ニ書イテアリマス其カラシテ或露西亞人ハ之ヲ解釋シテ「日本ノ法律ニ
ヨレハ外國人ハ土地ヲ所有スルコトガ出來ナイカラ日本人ハ競賣ノ規則ニ
從テ土地ヲ買フコトガ出來ナイ故ニ入札モ出來ナイ」ト言ツタ「ダニ」ノ市
長「サハロフ」モ亦當初此ノ如キ意見ヲ主張シテ居タサウテスガ本年五月頃ベ
テルブルグニ行キ八月頃「ダニ」ニ歸リマシテ忽チ其言ヲ變シテ日本人モ

亦土地ヲ買フコトガ出來ルト言ツタサウデス私ガ丁度之ヲ聞キマシタ時ニ
唯今申シマシタ法律ノ英譯ヲ見マシタ其表題ニハ *Extract from the law concern-*
ing the government of Dalny and rules for buying and leasing land parcels. ト書イテ有リ
テ其下ニ *Dalny impr. Noviy Kray 1902.* ト書イテ有リマシタカラ其第九條ヲ見マ
スニ露西亞ノ原文ト少シク異ナリタ意味ノ文句ヲ書イテ有リタ之ヲ意譯シ
マスレハ「斯」デス「露西亞人」ノミナラズ一般外國人モ亦土地ヲ買ヒ及ヒ借ル
ノ權利ヲ有ス但シ國際上ノ公義ニ基キ現行條約ヲ完全ニ遵守ス可キモノト
ス」ト露西亞文ニハ相互主義ト書イテアリ英文ニハ國際上ノ公義ト書イテア
リ其文句ハ互ニ違ツテ居マス之ヲ右「サハロフ」ノ説ト對照シテ尙ホ推察シテ
見マスト云フト當初露西亞人ハ「ダニ」ノ土地ヲ競賣ニ付シテモ相互主義
ヲ楯トシテ日本人ニ入札ヲ許ルサ無イ積デ有リタ其次ニ日本人ニモ土地ヲ
賣ルコトニシタカラ英文ニモ相互主義ノ語ヲ除イテアル然ル後色々協議シ
テ日本人ニハ入札ヲ許ルスケレドモ土地ノ所有權ヲ與ヘ無イテ唯長久ノ借
地權ヲ與ヘルコト、シタノデ有リマセウ而シテ私ハ考ヘマスルニ露西亞人ハ

外國人ニ土地ノ所有權ヲ與フルナラハ最惠國條款ニヨリテ日本人ニモ土地ノ所有權ヲ與ヘ無クレバナリマセヌ日本デハ外國人ニ土地ノ所有權ヲ與ヘ無イガ其ハ一般外國人ニ適用ス可キ規則デスカラ之ニ對シテ相互主義ナドヲ持出スハ穩當デ有リマセヌ露西亞人ガ斯ノ如キ不穩當ノコトヲ爲シテ一向平氣デアアルノハ畢竟日本人ヲ見クビリテ居ルノデ且ツ可成ハ日本人ヲ排斥シ度ト云フ考ニ基イテ居ルノデ他日「ハルビン」ノ土地ヲ競賣ニ付スルニ當リテモ必ズ斯ノ如キ不穩當ノ事ヲ爲ス積デ有リマセウカラ日本政府ガ抗議ヲ持出ス考ナラバ早ク之ヲ持出シテ可然事ト思ヒマス實ハ今日デハ少シク機會ヲ逸シテ居マス甚ダ遺憾デス

且又露西亞ガ「ダルニー」ノ土地ヲ賣ルコトガ出來ルカ否カ、疑問デス元來是ハ支那カラ租借シタ土地デ有リマスカラ支那人ノ同意カ無クレハ露西亞人ガ之ヲ賣却スルノ權利ガ無イ筈デス其デ若モ日本ノ政府ガ眞ニ露西亞ト争フノ意ガ有ルナラバ此ノ點ニ付テウント強ク露西亞ニ對シテ詰問ヲセナケレバナリマセヌ若シモ秘密條約カ有ルナラバ尙更之ヲ不問ニ付スルハ不

得策デス

此頃聞キマスト云フト露西亞人「ダルニー」及ヒ東清鐵道ニ沿フタ處々ノ都會デ露西亞ノ稅關ヲ設ケウトシテ折角支那ノ政府ニ交渉シテ居ルサウデス是ハ甚シイ失策デス露西亞人ガ斯ノ如キコトヲスレバ他ノ國ニハ損ガ行キマスカラ無論故障ヲ持出スノミナラズ假リニ露西亞人ガ其故障ヲ排除シテ稅關ヲ設ケルコトガ出來ルトスレバ滿州ヲ開拓スルコトガ困難デス滿州ハ可成之ヲ開放シテ他國人モ勝手ニ物産ヲ輸入シ得ル様ニスル方ガ善イサウスレバ格別困難無シニ之ヲ開拓スルコトガ出來マセウ

「ダルニー」ニ於ケル日本人ノ數ハ私ノ旅行シマシタ頃ハ二百八十名計デシタ此ニ其職業別戸口表及ヒ府縣別戸口表ガ有リマス

明治三十五年九月二十七日「ダルニー」ニ於テ謄寫
青泥窪在留本邦人職業別戸口表

職業別	戸數	性別		合計
		男	女	
貿易商	一	三	一	四

府縣別	戶數	男	女	合計
長崎府	二六	七二	五八	一三〇
東京府	三三	二七	二〇	四七
大阪府	三三	二七	二〇	四七
熊本縣	二	一六	一三	二九
愛媛縣	二	一七	一五	三二
兵庫縣	二	一〇	一二	二二
宮崎縣	二	一〇	一二	二二
鹿兒島縣	二	一三	一〇	二三
長門縣	一	四	一	五
北九州府	一	六	九	一五
福岡府	一	六	九	一五
京都府	一	三	五	八
合計	二六	一三〇	一〇八	二三八

青泥窪在留本邦人府縣別戶口表

姪	〇
雜業	一
公人	〇
合計	一

雜貨商	二
卸賣商	九
時計商	一
金銀工	一
請負業	一
醫師	一
寫字師	三
ヲ子製	二
理发師	三
大工	一
煉瓦職	一
鍛冶職	三
總業	一
ハキ工	一
染物職	一
ホテ屋	一
下宿屋	五
飲食店	二
合計	一八〇

島根縣	佐賀縣	岐田縣	秋田縣	茨城縣	千葉縣	群馬縣	奈良縣	滋賀縣	山梨縣	栃木縣	大分縣
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一

「ダルニー」ノ人口總數ハ或ハ四萬餘トモ曰ヒ或ハ五萬餘トモ曰ヒ其精確ナ數ヲ私ハ能ク知リマセヌガ其大多數ハ支那人ヲ露西亞人ハ私ガ滞在シタ當時ニハ四千テ有リマシタ而シテ其内二千ハ兵卒ヲ露西亞人以外ノ歐羅巴人ハ極メテ少ナイ而シテ重ニ獨逸人デアルト聞イテ居マス此獨逸人ノ勢

力ハ頗ル強大テ人數ガ少イカラト言ツテ中々輕蔑出來マセヌ又朝鮮人ハ百四五十人居ルト云フコトデスガ前ニ申シタ「コンクリート」ヲ造リテ居ルノハ重ニ朝鮮人デス日本人ハ之ヲ造ルコトガ出來ナイコトハ有リマスマイガ朝鮮人ノ賃金ガ廉デ有ルカラ重ニ朝鮮人ニ造ラセテ居ルサウデス
 私ガ「ダルニー」ニ來マシタノガ九月二十六日デアリマシタガ翌二十七日ニ之ヲ見物シマシテ其翌日即チ二十八日午前七時半ニ梅田氏ニ別レ松永氏ト共ニ「ダルニー」ヲ出發シテ同日午前十時ニ旅順ニ歸リマシタ
 而シテ同日午後九時ニ松永氏及ヒ「ハルビン」ノ長谷川辰之助氏ト共ニ旅順ヨリ英國船重慶號ニ乘リテ芝罘ニ向テ出發シマシタガ不都合ナ事ハ船ノ代理店ハ我々ニ一等切符ヲ賣リナガラ重慶號ノ船員ハ我々ニ一等船室ヲ與ヘ無カリタノミナラズ食堂ニモ乗客ガ充滿シテ居タガ爲メニ止ムヲ得ズ我々ハ二等客室ニ行ツテ眠ムリマシタ無暗ニ澤山ノ人ニ乗船切符ヲ賣リタガ爲メニ此ノ如キ不都合ナ事ガ生シタノデス
 芝罘ニ到着シタノガ九月二十九日午前六時半デ直ニ芝罘ニ上陸シテ之ヲ見

芝罘ニハ暫時シカ居マセンデシタカラ詳シイ情况ヲ知リマセンガ何デモ其輸入ハ綿糸、綿布、燐寸等デ其内綿布ハ米國カラ來ル又其輸出ハ菓實、豆、精豆、素麵、繭、油、麥、粟、桐等デス

芝罘ノ人口ハ六七萬デ歐羅巴人ハ至テ少ナイ日本人ハ昨年一月頃ハ七十名計ダツタサウデスガ私カ上陸シタ頃ハ百二十三名ト聞イテ居マス

芝罘ノ日本店中三井ノ支店ガ重ナルモノデ有リマセウガ其外ニ日本店ガ數ヘル程シカ無イ三ツノ船舶代理店七ツノ桐屋ガ有リテ桐屋ノ中ニ雜貨商ヲ兼ヌルモノガ有リマス又一ノ旅籠屋二ツノ料理屋一ノ床屋ガ有リマス

芝罘ノ住民ハ重コ麥ヲ食ツテ居ルサウデスガ米ハ上海ヨリ來ルト云フコトデス又芝罘ハ用水ノ至テ不便ナ土地ノ様ニ聞イテ居マス
又芝罘ノ街道ガ誠ニ狹クテ人力車モ通ジマセヌト見エテチヨト人力車ハ居ラヌ物ヲ運フニハ苦力ヲ使役シテ居マス

九月二十九日即チ芝罘ニ上陸シタ其日ノ午後三時ニ長谷川氏及ヒ松永氏ト

共ニ郵船會社ノ相模丸ニ乘リテ牛莊ニ向テ出發シ同三十日午前十一時ニ牛莊ノ港ニ着キマシタガ「パイロット」ガ直ニ來無カリタ爲メニ十月一日午前九時半ニ始メテ上陸スルコトガ出來マシタ此郵船會社ノ船デハ船客ノ取扱ガ充分ニ行届イテ前ニ乘リタ重慶號トハ逆モ比較ニナリマセヌデシタ

牛莊ノ輸入品ハ石炭、綿布、綿糸、ビール、綿毛布、煙草等デス此内綿布ハ米國ヨリ綿糸ハ印度ヨリ入ルノデ米國及ヒ印度トノ貿易額ハ割合ニ大デアリマス右輸入品ノ價額ハ石炭ヲ除イテ二百萬「テール」以内デス

牛莊ノ輸出品ハ重コ豆又ニ豆ニテ製シタモノデ其價額ハ一千萬圓餘デアリマスガ其内日本ニ向テ輸出スルモノ、價額ハ七八萬圓計デス

豕毛ガ澤山奉天邊ニ集マリ其ガ牛莊ヲ通過シテ輸出セラル、サウデスガ其價額ハ十萬圓以内ト聞イテ居マス此豕毛ハ「ブラツシユ」等ニ用ヒラル、モノダサウデス

牛莊ニ集マリテ居ル穀物例之大豆、小綠豆、高粱等ヲ少シヅ、携ヘテ日本ニ歸リマシタ又牛莊ニ居ル時ニ豆油ヲ製スル場所即チ油房ヲ見物シマシタガ其

説明ハ畧シテ置キマセウ

牛莊ハ誠ニ油房ノ市街ノ様デ外ニ見ル可キモノハ澤山ハ有リマセス
 牛莊ニ居ル日本人ノ數ハ先ツ芝罘ニ居ル日本人ノ數ト大差有リマセス
 牛莊ノ市街ハ大クテ其街道ハ廣イ唯其土地ハ砂地デ風ガ吹クトキハ塵埃ト
 砂ト混リテ飛ビマスカラ住居ニハ不愉快ナ場所タラウト思ヒマス幸ニ私ガ
 滞在シタ時ハ風ガ餘リ吹キマセヌデシタ
 牛莊ニハ露西亞ノ民政廳ガアリマシタ其民政廳ガ街道ノ掃除ヲ取締マルニ
 至テ嚴重デアリタカ爲メ牛莊ノ街道ハ割合ニ清潔デアリマシタ露西亞ノ民
 政廳ノ爲スコトニハ時トシテハ善イ事モアリマス
 牛莊タルニ一浦潮斯德此三港ノ關係ニ付少シク申シマスト云フト露西亞ハ
 初メ牛莊ヲ掌握シテ之ヲ滿州ノ商港トスル積リテ兼テ又之ヲ北京ト連絡セ
 シムルノ考ガ有リタ其デ露西亞人ハ一時ハ牛莊ト山海關ノ間ノ所謂檢營鐵
 道ヲ占領シテ鐵道ノ「ステーション」ニハ堅固ナル建築物マデモ設ケマシタ其頃
 ニハ遼河ニモ立派ナル橋ヲ架設シテ以テ東清鐵道ト檢營鐵道トノ連絡ヲ計ル

積デ有リタサウデスガ彼ノ方面ニ於ケル露西亞ノ勢力ハ一時ニ挫カレテ檢
 營鐵道ハ支那ニ還付シ無ケレバナラヌ様ニナリタ之カ爲メニ遼河ニ橋ヲ架
 設スルノヲ止メニシタノミナラズ東清鐵道ト牛莊ノ關係ヲ見テモ隨分牛莊
 ヲ繼子扱ニシテ居ル形跡ガ見エル「ハルビン」カラ貨物ヲ營口ニ送ルカ爲メニ
 七百五十「アト」入ノ一貨車ヲ借ルトスレバ積込人足賃及ヒ些少ノ馬車賃ヲ
 モ流車賃ニ加ヘテ勘定スレバ三百九十留計ヲ要スルト云フコトデス然ルニ
 此ノ如キ運賃ヲ費ヤストスレバ其貨物ヲ「ハルビン」カラ旅順又ハ「ダムニ」ニ
 送ルコトガ出來ル様ニ聞イテ居マス右ノ運賃ノ見積高ハ大體ハ誤マリテ居
 無イ積デスガ精確ナ事ニ付テハ今一應ノ取調ガ要リマス兎ニ角貨物ヲ「ハル
 ビン」カラ營口ニ送ル費用ト之ヲ「ハルビン」カラ「ダムニ」ニ送ル費用ハ大體相
 同シイト云フコトヲ聞イテ居マス距離ノ事ヲ言ハ、「ハルビン」カラ營口マデ
 ノ方ガ「ハルビン」カラ「ダムニ」マデヨリモ餘程近イノデス然ルニ貨物ヲ送ルニ
 當リテ孰レニ送ルモ運賃ニハ大差無イト云フコトヲ考フレバ牛莊ノ方ガ露西
 亞人ノ爲メニ餘程繼子扱ニサレテ居ルト謂ハ無ケレヤナリマセヌ又旅行者